

30

周年記念誌

ボーイスカウト  
ガールスカウト  
東京第四団

1977







創立三十周年を迎え、勢揃いした霊南坂スカウト



せっかく行ったのに、雨なんて…



ハイキングの帰り道 アーア バテたなァ



少年隊一同



年長隊 神津島における勇姿



年長隊 雪中野営のサイト全景



インタビューに答える今井BS初代隊長  
(左から、インタビュアー安藤、今井氏、今井氏のお孫さん)

“ Once a scout

Always scout ”

「 ひとたび スカウトに

ちかいを たててなりし身は

いつも いつも スカウトだ 」

目

次

第一部 OB・OG・団委員のページ

古きもの 新しきもの	飯	清	4
隣り人と共に	小崎	忠雄	6
目標をめざして	針替	富美子	7
四団 草創期	今井	襄二	11
三十周年によせて	大塚	多恵子	15
スカウトみな兄弟!	今田	富士雄	15
結成三十周年に寄せて	芹野	朝子	17
三十周年に寄せて	西郷	尚子	18
「ぼくらもみんなできるんだ」	飯田	貞雄	19
はじめての帽子	木村	恵子	22
近況報告	志水	功	23
私のガールスカウト ことはじめ	根本	喜久子	25
一度スカウトであった者は	田中	新二	25
明日に向って	永橋	牧子	27
楽しかった年長隊	日下部	英一	28
三十周年によせて	古谷	久代	29
スカウト経験を通して	針替	茂人	30
思い出の中で	矢沢	宏子	31
速くに	高野	梓	32
三十周年に寄せて	山田	紀代	33
感謝をもって スカウティングを	太田	彰	33
あの頃のこと	石井	喜美江	34
挨拶(あいさつ)	杉原	正	36
マーチン・ウィリアムス氏 よりのメッセージ			38

第一部 スカウトのページ

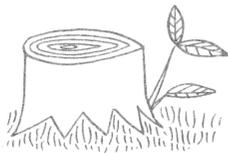
BS編	カブのページ	.....	47
	BSのページ	.....	56
	シニアのページ	.....	64
	ローバーのページ	.....	73
GS編	ブラウニーのページ	.....	79
	ジュニアのページ	.....	86
	シニアのページ	.....	92
	レンジャーのページ	.....	96

第三部 現状の問題点と未来への展望

現役リーダーによる座談会	PART I	.....	103
	PART II	.....	107
明日への提言	BS編	.....	118
	GS編	.....	118

付録

四団BS・GS年表(一九七二～七七)	.....	123
編集後記	.....	126



## 古きもの 新しきもの

靈南坂教会 牧師

四団育成会長

飯

清

スカウトが活動をはじめて三十年たちました。今年は靈南坂教会の礼拝堂が建ってから満六十年ですから、ちょうど半分の長さになるわけです。ところで私達の礼拝堂は東大の最初の建築学教授の辰野金吾氏の設計になるもので、東京駅も同じく辰野氏の設計です。（そう言えば両方とも練瓦造りで、屋根が急角度で、花崗岩のトリミングで似たところがありますね）ところがこの東京駅も靈南坂教会も「都市再開発」計画のために、建て替えるという話が出ています。両方とも記念すべき建築物で、なくなるのは惜しい気がしてなりません。

しかし、建築物というのは建てられた時には便利だったものでも、時代がたつと機能的でなくなったり、古くなると雨漏りがしたり、具合の悪いところも沢山出てきます。だから時が来れば、建て替えなければならぬことも起こってきます。

だが教会やスカウトのような運動は、建て替えがききません。具合が悪くなったからといって、古い部分捨てて、新しい材料を入れて、すっかりかえてしまおうというわけにはいきません。だから自分たちで絶えず自己検討を続けながら、体質改善をしないと、すっかり老化してその働きを果すことができなくなってしまいます。骨董品のように古ければ良いというものではありません。

教会はあと二年で創立百年になります。この時代に本当に宣教と奉仕と交わりとの仕事を果すことができるためには、どうあるべきかを絶えず検討しています。スカウトも同じように自分たちの働きが、充分目的を果しているか、見つめてください。

「三十年たちました」「私たちは戦後の日本の一番最初のスカウトです」と誇ってみても、私たちが本当にスカウトの誓い（約束）にふさわしく生きていなければ、役に立たなくなってしまいます。

私たちは本当に神様に対して誠実に生きていますか。国にまことを尽していますか。もう二度とあんな馬鹿な戦争をしたり、日の丸を揚げてアジアの人たちをいじめたりしないような国として生き続けるために、努力を続けていますか。そしていつも隣人を助けることを第一にしていますか。私たちが真剣に誓い（約束）を忠実に果そうとしないなら、たった三十年で建て替えてなくて、取り壊しをしなければならなくなってしまう。

どうか、皆一緒に頑張って、五十年、百年のお祝いを、喜びと誇りとを以て共に喜びまた祝うことのできるような、スカウトを続けたいものです。育成団体の教会も充実した歩みを続けたいと願っています。

## 隣り人と共に

ボーイスカウト東京第四団委員長

小崎 忠 雄

いまから三十二年まえ、私達の国、日本は一億一心、一致団決して戦争に勝つために一生懸命自分の事は我慢して努力いたしました。が、負けてしまいました。はりつめた心は大きなショックで、沢山の人は希望を失いました。

東京第四団のボーイ、ガールスカウトはこの二年あと、霊南坂教会を育成団体として誕生いたしました。三十年の歩みをいたして来ました。深く戦争の体験を反省した人は、誰れかに責任を転化せず自分の内なる問題とみつめました。自己中心の知恵や価値観が中心となった悲惨な戦争を再度繰返すことがないようと、謙虚に生きねばと新しい生活をはじめました。

山の上に建つ霊南坂教会は、神様の御恵みのうちにはじめて新しい希望があると信じ、また求めて沢山の人が集って来ておりました。子供は、教会学校に毎日曜日、礼拝に来ました。空虚な時代であった、聖書のお話しも讚美歌も祈りも、一人一人に多くの安らぎをもたらしてくれました。

神と人とに愛される人になるスカウト活動は、その訓練と体験をゲームとしてなされ、魅力がありました。勿論今日も同様です。

聖書物語りの中に「良きサマリヤ人」のお話しがあります。イエス様の教えられるように、私達は本当に良き隣人になりたいと願います。「ある人がエルサレムからエリコに下って行く途中、強盗どもが彼を襲い、その着物をはぎ取り傷を負わせ半殺したまま、逃げ去った。するとたまたま、ひとりの祭司がその道を下ってきたが、この人を見ると、向こう側を通って行った。同様にレビ人もこの場にさしかかっていたが、彼を見ると向こう側を通って行った。ところが、あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。翌日デナリニツを取り出して宿屋の主人に手渡し、『この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います。』と言った。この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。」律法学者は言った「その人に慈悲深い行いをした人です。」そこで、イエスは言われた。「あなたも行って同じようにしなさい。」

スカウト活動は、ちかいとおきてを毎日の生活で自然に生かす出来るようにすることです。頭で理解するだけでなく、イエス様の教え通り互いに愛しあい、子供の時から体験の場を通し、自由な活動の中で学べることはすばらしいことです。四団のスカウト活動にもっと沢山の大人や子供が加わって発展して行くことを願うものです。

# Talk together Walk together

(ともに語り ともに歩もう)

目標をめざして

ガールスカウト東京第四団団委員長

針 替 富美子

三年後に創立百年を迎えようとしている霊南坂教会の中に生れたスカウトが、三十周年を迎えました。教会の歴史の三分の一を教会と共に歩んだスカウトが、この日まで無事に歩み続けられた事は神様の御ゆるしがあればこそです。それに教会員の中のスカウトを愛し、理解をもって育くんで下さった方々の応援と、その時々リーダー、団委員、御父兄の献身的な奉仕によることを更めて感謝致します。

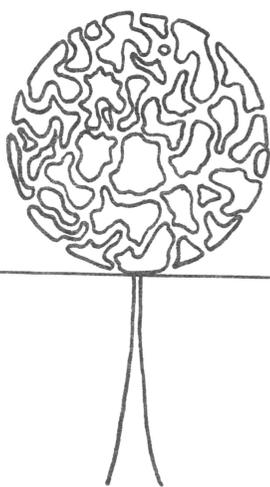
現リーダー・団委員はこの日を迎えるについて話合の時を持ち、唯のお祭りに終るのでなく三十年の歩みを反省し、今後の歩みを展望する時とし、飛躍の時としたいと準備が進められてきました。すでに二十周年の時何人かの方が真のチャーチスカウトをめざしてと願いをこめて書いておられるのを見て、この十年の歩みはどうであったかを思うのです。日本連盟の団としては申込みの希望者を心ならずもおことわりしなくてはならない状態であり、年長にいく程に受験やクラブ活動との両立が難かしく、やむなく退団される方が出ても人数の面では殆んどいつも同じ位の線を保ち、レンジャー部門を終了した者は当然の様に各部門のリーダーとなって奉仕をして居

ります。十年前とは大変社会状況も変り、スカウト達の気風も変わってきております為内容的に変わってきたところも勿論あるのが当然ですが、二十才前後のリーダーが真げんにスカウトの指導にあたりております。一方かつて団委員長だったお母様が多数支部や本部の役員・理事として熱意をもって活躍しておられます。さて、視点を教会のスカウトとしてどうであったかに向けると、チャーチスカウトをめざして何らかの努力がたえず続けられているにもかゝらず、余り変化が起っていないことは、教会員として、スカウトにかゝわっているものとして責任を痛感いたします。日本連盟の組織と教会の組織との間におかれた四団のあり方を追求して、一昨年より教会教育部の中のスカウト分科として内実をともなったチャーチスカウトをめざして、何回も話合われる程に難かしい問題です。結論に達するにはほど遠く今後も続けられます。団の歩みは次々と受け継がれ、団の盛衰は団に席をおいた一人一人の責任に帰っていくことを思い、将来へ目を向ける時恐しいまでに責任の重味を感じます。日本に数少ないチャーチスカウトを誇りとして目標達成をたえず祈りの中に覚えて努力をしていかななくてはなりません。真のチャーチスカウトとなるためには、現リーダー・団委員・父兄が一つ思いとなつてはつきりした自覚をもって今こゝで、歩み出さなくてはそれだけ目標への道程がのびるわけです。現リーダーが指導しているスカウトが次の時代のスカウトを育成するリーダーとなっていくのですから、片時も気をぬく事は許されません。三十年を期してボーイ・

ガール合同リーダー・団委員研修会を定期的に持ち、チャーチスカウト育成に対して課せられた責任を自覚する機会をつくっていきたいと願っています。

三十年スカウトにそそがれた限りなき神の恵みに応えて立上りましょう。

ガールスカウト団委員長。長年、教会とスカウト活動に奉仕され、みんなから「おばちゃま」として親しまれている方です。



# 第一部

## OB・OG・団委員のページ

◇インタビュー

BS初代隊長・今井襄二氏が語る

## 四 団 草 創 期

インタビュー・編集、安藤

I 76年、暮れもおし迫った12月26日、私は写真担当の小宮さんと共に逗子にあるボーイ初代隊長今井襄二氏のお宅を訪問し、インタビューすることに成功しました。これはその時の様子を再構成したものです。

A 今井氏は古びたアルバムを手にして現われました。そしてページを開きながら説明してくださいました。

I 来年で4回は創立30周年を迎えます。それで今井さんが隊長をしていらした時分の事をいろいろ伺いたいと思ひまして：：  
I 30年！ほう、もうそんなになるかねえ、んーと、そうか、もう30年なあ。

A 今井さんはBSの初代隊長を務められたわけですね。で、一体いつ頃から、隊長を始めて、どのくらいの間やっていらっやったのでしょうか。

I 2年、いや3年だったかな…。そう、始めたのが1947年、そして49年にやめたからまる3年間ですね。それから私は米国留学をしまして、以後は隊長には戻っていません。

A では発足のいきさつや今井さんが隊長になられたきっかけなどをお話し下さい。

I もともと私は海外で育ったわけで、かつてはホノルル36隊に所属していたのです。で、戦後の一時期、私は東京会館（ ）で働いていたのですけれど、その時に隣のオフィスにいた三島先生（第4代総長）と知り合い、それがこの世界に入るきっかけとなったのです。

A で、具体的にはどうやって？

I その頃は靈南坂のすぐ近所に住んでいたもので、小崎牧師に直接話しをもちかけたのです。私はそこで「教会とは教会員のためにだけあるものではないでしょう。」と主張したのです。小崎牧師は快く承知してくれて、この時点で4隊（当時はそういう名称だった。）は教会を育成団体として活動をする事になったわけです。つまり4隊は戦後におけるチャーチ・スカウトの第一号だったということです。当時は偏狭な人も随分いました：：名前も上げられません。ある教会なのですが、私がボーイスカウトの話をもちかけると、「教会の中にそういう組織は不要だ」と断わられたりもしました。教会に育成団体とんでもらったのは、それなりに意味があったことなのです。戦前の日本のボーイスカウトは隊長が先頭に立って思うようにスカウトを引率していく、悪く言えばスカウトは隊長のおもちゃだったのです。それだからこそ、教会という強力な組織に育成

団体となってもらい、スカウトが、隊長のおもちゃと化するのを防ごうと考えた……。

A スカウト達はどのようにして集めたのですか？

I 近隣の学校に話しをもちかけました。校長と直談判したのですが、一つの学校では、ボーイスカウトというものに理解をまったく示さず、あっさり断られました。もう一つの学校ではうまくいきましたが……。そこで教会の周辺に住む子供を何人かピックアップしてもらったのです。

A すると皆が教会員の子供というのではなくて？

I そうです。それは関係ありません。そんなことで地域と遊離した子供が遠くから通ってきてても意味がありませんから。

S 最初のキャンプの所にきていた。  
。今井氏はアルバムのページを繰りつつ説明を続ける。ページはB

I これです。これが最初のキャンプ。

A ハハハ、これはどこですか？

I 奥多摩です。たしか武蔵引田という所。

A 参加は何名でしたか。

I 全体で14〜15名で、確か2人程来られなかった。これは四谷駅で電車を待っている所です。

A えっ、これが四谷？

I そう。そしてこのキャンプは5隊と合同でやりました。当時  
(昭和22年)、集会所の庭先で、そのまねごとをするというな

らともかく、こんな風に遠出して本格的にキャンプができたのは4隊ぐらいでした。そこに5隊が同行したいと依頼してきたのです。そしていざ実行の6ヶ月前には参加するスカウト全員が自分の食べる分を減らして、一日におちよこ一ぱいの米を貯えはじめたのです。いざ行ってみると、食べるに足る量の米を持っているのは4隊だけで、5隊は代用食(うどん粉など、大豆の粉、とうもろこしの粉等とまぜて焼いて食べる)まで持ってきていました。食糧難だったからネ。他の食料はコネがあったから現地で入手できましたが。

A 備品の方は？

I ほとんどが借り物でしたね。それからこのテント、これは確かに教会のだったかな。この狭いテント1つに全員が寝たわけ。古い、ポロポロで関東大震災の時の救援のおさがりなんです、これだって、あれば大変なもんだった。もちろん当時はユニフォームなんかなくて、あるのは「4」のぬいとりだけだった。ほら、この写真なんか見ると皆白いシャツを着てる。

A ははァー、あ、これはラリーの写真ですか。

I そう。最初のラリー。

戦後、最初に東京1〜5隊と横浜1隊が同時に発足したわけだけど、これはその6隊が合同でやったものです。場所は確か神宮外苑(今のラグビー場)だったように思う。

これが4団のデモンストレーション。君達もやった事があるか

も知らんけど、新聞紙なしで、ナイフとナタだけで、マッチは二本で火を着けて、上にかけてある缶の石鹼水を沸騰させる。吹きこぼれて火が消える。このゲームはこの頃からあるものです。それからこの写真、一人のスカウトがどれだけ速く、多くのなわ結びを結べるかというもの。これは金海君が一番早かったな。確か20種類を1分以内でやってのけた。現在の君達には出来るかな？

A イヤー、すごい。

I こういった事は当時、他の隊にない事だった。ほら、これなんかは5隊のデモンストレーションですが、ターザンのスタイルをしたバレードですね。だから圧倒的にレベルの差を示した。

我々は鼻高々だったもんです。当時のスカウティングで問題になっていたのがカリキュラムだった。米国のスカウトがやっている事が、果して日本のスカウトにでき得るのかどうか。私はむこうのスカウティングを経験していたし、それゆえ私はやれると確信していた。そんなわけで4隊はいろんな意味で模範隊だった。もちろん技術的にはとび抜けていたしね。私の所属していたホノルル36隊にもそんな傾向がありました。しかし決してそれだけではなかった。体力づくりもやっだし、歌もうまかった。たとえば志水なんかね。だいたい当時英語で歌える人間というのはザラにはいなかったんです。

A 本当に当時は暗中模索で実験的だったわけですね。

I そう。実験的でした。リーダーシップというものには本当には本當にうるさくこだわりました。僕にはもともとリーダーシップは誰にもあって、それをどう引き出していくかが問題だと考えたんです。そこで班長を交代制にしてみたり、上級班長を設けてみたり、選挙をさせたりしたのです。当時は民主主義という言葉がよく用いられたけれども、実際どんなものであるかをほとんどの人が理解していない。そこで身をもって教える、とそんな面もあったようです。まあ、結局班長は私がこうと思っただけスカウトが務めたのですが…。それからもう一つ。このラリーが終わった時、後かたづけのそうじをしたのはうちの隊だけだったのです。

。今井氏はその他にもいろいろな説明をしてくださった。今井隊長のもと、スカウト達は現在から見ても大変なことをあの戦後の混乱期にやってのけたのだった。いつしかアルバムのページは一巡して最初に戻っていた。

A するとこれこそ最初の4隊の写真なんですね。

I そう。(そう言って一人一人の説明をした。)…これがウィリアムズ氏。

A ウィリアムズ氏のことについて少々話してください。

I ウィリアムズ氏は進駐軍軍属で日本に来ていました。もともとは教育者だったのですが、進駐軍では経済局にいて、化学(染色)の仕事をしておられました。勤務している部署が部署だけ

に相当に経済面の援助をしていただきました。彼のおかげで現在と同じカラーの純綿の二色染めのすばらしいネックチーフができたわけです。このカラーは私のもといたホノルル36隊のものをそっくりいただいてきているのです。しかし当時としては純綿のネックチーフなんて本当に貴重品でした。今にして思えば、4隊の活動がユニークだったのはこの辺りの事情もあったわけです。私が隊長をやっていく上でやはり、小崎先生とウィリアムズ氏の理解が何よりも大きな支えになりました。

A

あの、隊長をお辞めになって、それからボーイスカウト運動からも手を引かれたことのいきさつをお話し頂けないでしょうか。

I

ええ。先に言った通り、隊長を3年やり、その間日連の仕事をしており、米国に留学しました。帰国後、しばらくの間、また日連で仕事をしましたが、じきそれもやめました。早い話、経済的な問題が大きかったのです。ボーイスカウトでは食べていけない、ということですね。帰国後の事ですが、巴町に本部

(日連)を建てる時、本部には必要な費用を完全に集め、まかなう能力がなかったのです。その分の穴を私達のような、若かった、第一線に立っていた者たちが集めたのです。このときはウィリアムズ氏の尽力もあって、米軍が日本で行ったサーカスの収入の一部を手に入れることができたのです。その代わり、私達はサンドイッチマンまでやってチケットを売りました。

それからサーカスの場内で物を売ったりして……、何やら本部の資金集めのために随分奔走したものです。

A

I

再び現役に戻るなどということは考えたことはありませんか？  
考えていません。こんな年のいった者が4団なら4団に行ったところで何にもならんでしょう。今の4団は今のリーダーが自分達の考えに従って切り盛りしていけば良い。私のような者が口をはさむべきではないように思います。それにスカウトのリーダーというものは暇があるからやる、とか趣味でやる、とかいうことでは駄目だと思のです。しかし決して4隊のことを忘れたのではない。私はこのアルバムを見るたびに懐しく思います。今までのいろいろな仕事についてきましたが、結局このアルバムの中の3年間は振り返って見て一番印象に残っている時期です。

それに「一たび、スカウトに誓いをたててなりし身は、いつもいつもスカウトだ」という歌がありますが、あの通りだと思のです。私は確かに表面上はスカウトから離れてしまっていますが、やはり一度スカウトとなった以上、私は一生涯スカウトなのだ、とそう考えています。

A

どうも貴重なお話しを長い時間ありがとうございました。

(文責 安藤)

## 三十周年によせて

大塚 多恵子

歴代のリーダー、団委員、ご父兄、教職の先生方の愛ある奉仕により四団も三十周年を迎えることになりました。

思い起こせば、キャンプ中買物をかけて出て、池田先生、団委員さん等と遠い町へ出掛けて行った時の楽しかった思い出、聖書を忘れて池田先生にひどくどなられたこと、又美藤先生が大きな身体に小さなナップザックを背負われ、雨の中をハイキング中、ズンガリガリガリのソングや、飯先生が聞かれたら気のとおくなりそうな「ハレルヤ」の替え歌等をスカウトに教えておられた姿、又、府上先生のおにぎりをむすぶ手つきのお上手なこと、リーダーの時、朝のマラソンのきびしかったこと、合同キャンプにおいての人間関係のむずかしさ、合同ならではのキャンプファイヤーのソングの素晴らしさ、限られた時間の中で、班毎に和を持ちつゝ力を合わせて作り出すクラフト、それらが走馬燈のように思い出されます。あの時手をやかせ困らせたスカウトが、今は立派なリーダーとなり、団委員会においてスカウトの指導のむづかしさを話すようになり、あるリーダーは立派な母親にと成長されました。

ガールスカウトの組織が変わり団委員長が組織図をひろげて、団委員会、合同父兄会、新入団者説明会等で説明を繰り返し理解を求め、

組織を書いた紙も今ではすりきれてしまったようです。このように変った組織のもとに夢中で過して来たこの年月、常に神様に支えられ今日まで歩んで来られたことを深く感謝いたします。

三十周年を迎える意義ある年に当り、もう一度今までの歩み思い浮かべ、前進のためへの反省を忘れず、チャーチスカウト四団としての誇りを持って明日に向かって歩んで行きたいと思えます。

ガールスカウト団委員会計。針替さんと共に長年団に貢献されてきました。ガールスカウトの大蔵省です。

スカウト みな兄弟！

今 田 富士雄

一昨年の秋、社用で西ドイツ出張の折、給油待ちのアンカレッジ空港でのこと、目の前に見たような顔、R大ローバーOBのA君、十年ぶりに会い話しがはずみしました。デュッセルドルフに着き、ホ

テルのフロントで手続きを済ませて後ろをむくと日本人、オヤと顔を見合せ「S君じゃないか」武蔵野一団のS君とは二十年ぶりの再会。彼はロンドンで活躍中当地に出張の由、数日後またも同じ所で顔を合わせるといふ偶然が重なり、地球は狭いと大笑いでした。さて、ドイツでの事を終えニューヨークへ。四団のOB達と一年ぶりの再会、貿易会社々長荒垣君、運送業を始めた加藤君、新進デザイナー大浜君と、それぞれ忙しいスケジュールを調整して集って来ました。話題は四団のこと。霊南坂でのこと等々、彼等も現地ですカウトには直接タッチできないが、大人のスカウティングを实践しているのです。留学してくる後輩の面倒を実によくみてくれ、金森君、針替君も良い経験をして来たことでしょう。また四団のシニアで米国キャンプの計画はたてられないだろうかなどと、討議しているのをきいていると、スカウトは兄弟ということを改めて感じます。

私もスカウティングに三十年、実の兄弟以上の多くの友を得られたことは、私の人生にとって大きなプラスです。特に今日の少年達が核家族構成からくる横社会、しかも進学になやまされ続けの少年達に、協同の精神とスカウト活動におけるタテのつながりが、将来必ず少年達にとって良い経験となり、良き社会人となる為の基礎が築かれることでしょう。

さて、四隊発足当時の事は、今井初代隊長のインタビューでお読み頂けますが、二月二十二日に発隊、五月十七日のラリーに備えて

何と忙しかったことか。当時の中学二年の語学力で英語のハンドブックにとりくみ、また結索二十種を一分以内で結びあげる訓練（別記しますので結び方と日本名を調べてごらん下さい）注）をはじめとして、スカウト技能に真剣にとりくみました。このラリーで我隊の「火起し」・「結索」は高く評価され、来賓と共に写された写真は多くの報道紙上を飾り「日本のボーイスカウト再建なる」と世界に報道されました。

また、四隊にとってのみならず、日本のスカウトが忘れてならぬ人にウィリアムスさんがあげられます。四隊の結成と共に日本連盟再建諮問委員、財政援助者として尽力されGHQでの任期を三度延長し、率先して日本ボーイスカウト基金募集委員長となり、実に千数百万円を達成され、その功で昭和二十七年十二月に帰国された同氏に名養理事の称号と、新しく制定した日本連盟最高功労章である「きじ章」第一号が贈呈されました。

今井さんについては、二十四年六月まで日本連盟指導主事という重責のかたわら隊長を続けられ、連盟から米国留学をされ、戦後外国で初の国旗掲揚をなさいました。第二回全米ジャンボリー大会期間中の七月一日、日本連盟の国際復帰の日に晴れて参加国旗柱に日の丸が今井さんの手により掲揚され、会場を訪問したトルーマン大統領も祝意の握手をかわしました。

私達四団には先だりの伝統が永くうけつがれております。少年達自身の自発活動による班活動が、スカウティングの原点です。私も

今井隊長の下で現在の上級班長のモデルとして試行され、今日では多くの上級班長が隊活動の原動力となっています。真に身についたスカウト技能と精神でガッチリとスクラムを組み、次の三十年に向かって前進しましょう。

現在ローバー隊長

シニア初代隊長、ボーイ四代目、そしてローバー初代隊長を歴任。東京連盟の方でも活躍されている。四団の大黒柱の一人。スカウトの中のスカウトという印象です。

## 結成 三十周年によせて

芹 野 朝 子

ボーイスカウト・ガールスカウト東京第四団の結成三十周年を迎

えられることを、心からお祝い申し上げます。私はガールスカウト第四団発足以来四年間リーダーとして、スカウトのみなさんとすごしたものです。その頃のことを顧みますと、まことに感慨無量のものであります。今思い出すまゝに少しその当時の事をお話してみたいと思います。

日本が敗戦によって、大きな痛手をうけ、終戦後の殺伐とした社会情勢のなかで、青少年の健全な育成の運動として、スカウト活動がさけられはじめた昭和廿二年の二月、G・H・Qすなわち駐留軍の仕事をしていたウイリアムス氏が今井氏と霊南坂教会を訪れ、両氏の熱心なすゝめによって、ボーイスカウト東京第四団が発足しました。そしてまもなくのこと、ウイリアムス氏の紹介で、アメリカでガールスカウトのリーダーの経験のあるコーキンス夫人がこられました。この夫人の熱心なご指導によって、当時の教会学校のメンバーを中心に、同年六月ガールスカウト東京第四団が発足しました。当時はコーキンス夫人が持って来て下さったアメリカでのハンドブックが、わたくしたちの唯一の資料でしたから、「やくそく」や「おきて」などは英語で唱えたものでした。毎土曜日の午後、ミーティングを開いて、道しるべ、縄結び、救急法などを、スカウトたちと研究しながらやりました。また、第四団のネックチーフも、自分たちの手で作ろうということになり、三角巾の半分をうすい緑に、もう半分を濃い緑に染めて、縫い合せて肩にかけたものです。今でも教会の階下講堂でスカウトたちと、フォークダンスをしたこ

とや、ゲームをしたこと、一緒に大きな声で楽しく合唱したことが  
なつかしく思い出されます。その後も多くの方々の協力と、よいリ  
ーダーたちに恵まれて順調に発展してこられたことは、本当に感謝  
でございます。ますます充実したよい歩みがなされますように、心  
から祈っております。

ガールスカウト初代リーダー。小崎道雄名誉牧師の次女。結婚  
なさるまでガールスカウトの草分けとして御活躍下さり、現在  
は西宮市甲南教会牧師夫人として、内外共に御多忙です。

### 三十周年に寄せて

西 郷 尚 子

BS・GS四団の発団三十周年おめでとうございます。今思いま  
すと、私をはじめ四団の皆さんと一緒したのがGS発団三周年  
の頃でしたから、以来、何と長い年月をBS・GS共に手を携えて  
着実に歩んでこられたことかーと改めて感にたえません。

一口に三十年といいますが大して長くはないようにも思われますが、

一人の人間にたとえて云うならば、誕生後、乳児期、幼児期、少年  
期、青年期を経て、今や働き盛りの壮年期にあると云うことになり  
ます。又、終戦後、いち早く発団なさった四団の場合、日本のスカ  
ウティングが再発足とはいえ改めて受けざるを得なかった、生みの  
苦しみや育ちの悩みをも共に分け合って来られた、そんな三十年で  
あったように思われます。そして、その礎には、ご一家をあげ、教  
会をあげてスカウト運動に賛同され、欧米視察から帰られた後、  
「外国には、チャーチ・スカウトと云うものがある。日本にもそれ  
を作りたい。この霊南坂に。」とおっしゃって、教会と、教会学校  
と、スカウティングを一つの家の中で共存させつゝ、しかも各々の  
特性を生かし、育くんで下さった小崎先生のご献身があることを忘  
れるわけにはまいりません。この礎の上に、今日までの長い歲月、  
四団の歩みを進め、更に「明日の四団へ」とその活動を押し進めて  
いらっしゃるスカウト達、リーダー達、団委員長さん、教会の方々の  
ことを思う時、私の心は、ただ感謝で一杯になり、この大きな家族  
の一号であったことを誇りに思うのです。

今、改めて三十年の重みをひしひしと感じつゝ、常に明日へと向  
って限りなく歩みを続ける四団の希望に満ちた未来を信じて疑いま  
せん。三十周年、本当におめでとうございます。

ガールスカウト三代目のリーダー。一九五一年の夏、アメリカで行われた世界青少年会議に日本連盟代表として参加されました。又、一九六二～六五年まで在独され、現在は芦屋に住んでいらっしやいます。

### 「ほくらもみんなできるんだ」

(七七年二月十八日 チャリティー映画会の講演より)

飯 田 貞 雄

(みなさんは「ハンディキャップスカウト」という言葉を御存知だろうか？世の中には、不幸にして目が見えなかったり、口がきけなかったり、手足が不自由だったりする人達が多勢いる。それらの人々は、かつては「不幸な人々」として、あるいは身体障害者というレッテルを刷られ、時に疎外され、ノーマルな形の社会復帰ができないままに施設に閉じ込められてしまいうケースがままあった。今日なおそれは絶無ではないと言わねばなるまい。しかし、それで良いのだろうか。万人に等しく生きる権利が与えられているはずならば、何故、それらの人々から、その権利の一部を奪うことが許されるのか。スカウティングとて例外ではあるまい。ノーマルな身体を持つ者は、それを当然のこととして野外に出て、ハイキングをした

り、キャンプをしたりして生活できる。だが、身体にハンディキャップを持つ者はどうなのか？それらを楽しむことはできないのか？否である。決して否である。「できない」とする事の方が異常とは言えないか。また、そうならば、それらの人々は、ノーマルな人と共にそれらの活動の中にある喜びを分つことも必ず可能はずである。映画「ほくらもみんなできるんだ」<sup>(注4)</sup>にはそんな主張が込められていた。カメラは静岡のある施設の中にできたボーイスカウトの隊活動を追う。みな、決してスムーズに動いているとは言えない。だが、その表情は明るい。その隊長は言う。「(ボーイスカウト隊を)作って良かったですね。子供達が生き生きとしています。それに、何よりも『自分達だけが社会の不幸をしゃわされているんだ』といったようなゆがんだ考えの子供がいなくなりました。」そして第一回の愛知におけるアグンナリー(障害スカウトによるジャンポリー)の光景。どの顔も喜びと真剣さにあふれていた。映画が終り、飯田氏の講演が始まった。( )

みなさん、こんばんわ。今御紹介をいただきました飯田です。皆様の前でこうやって話ができることを大変光栄に思い、感謝します。今日は本当にさまざまな年代の人が来られているので、どこに焦点をしぼって話したら良いのか迷うところなのですが、まず、二月の二十二日という日はどんな日か、みなさん御存知ですか。言うまでもなく、ベーデン・パウエル誕生日ですね。さて、そのベーデン・

パウエルがスカウト活動というものを創って下さったわけなのですが、彼自身は、この運動がこれほど世界中に広がるなどとは考えてなかったのです。ガールスカウトにしても同じです。で、1907年頃、今からざっと70年程前のことですが、ベーデン・パウエルは当時のイギリスの青少年に、活気がなく、墮落していることを心配なさって、新しい青少年のためのプログラムを創ろうとしました。

それが、あの有名な第一回の実験キャンプになるわけですが、この時、君達のやっているような、班や組を基本とするしくみができあがったのです。この成功から、「スカウティング・フォア・ボーイズ」が書かれたのですが、それは当時のベスト・セラーになりました。本来はボーイスカウトの組織を作ることが目的なのではなく、教会学校やYMCAなどに向けた面白いキャンプをするプログラムの紹介のための本だったのです。ところがそれを読んだ少年達は自主的にボーイスカウトを作り始めてしまったのです。初期のボーイスカウトは杖を持っていたのですが、当時、相当ないなかにある雑貨屋さんでも、売っているモップやほうきが品切れになってしまったそうです。子供達が杖にするため、先を競って買ったわけなんです。どうして今、私がこんな話をしたかという、スカウト活動というのは本当は、今ここにいるあなた方少年、少女、そして青年諸君が、自分で切り開いていくものなのだ、ということを知って、おいて欲しかったからなのです。こんなこともありました。子供達だけでキャンプをしていたらおまわりさんが来て、子供だけでは危

い、というわけで帰されてしまった。そして帰された子供達はどうしたかというと、次には自分達の手で自分達のリーダーを見つけましたわけなんです。そして早くも、1908年には、イギリスだけではなく、カナダやオーストラリア、ニュージーランド、次の年にはインドにまでボーイスカウトができたのです。世界的に広がった、ということですね。それから1909年のラリーで、ベーデン・パウエルが、少年達の動きを見ている時、どうも女の子らしいスカウトを見つけたんです。七人の少女だったのですが、彼が「君達は一切何なのだい？」と聞いたところ、その子たちは「私達はガール・スカウトです」と答えたそうです。そして、女の子達もこういう活動を望んでいることを知って、それでは、という事でガール・ガイドという運動が生まれたのです。ハンディキャンプスカウトの活動も、それと同じことです。先に映画で見てもりましたように、身体や心に問題を持っている少年達の参加については、障害を持っている少年少女自身からスカウト活動をやりたい。単に慰問されて人からお世話を受けるだけではなくて、自分達もスカウトになって、人のお世話をしたんだ、という声があがり、それがきっかけになって、この方面での運動も活発になっていったんですね。……

それでは、今、私はここに新たに、もう一本のフィルム(注5)を用意してありますので、これを見てもらうことにしましょう。これは障害児スカウトの指導について、指導者向けに解説したものです。それから最後に、これらの活動の外国の例をスライドで見てくださいまし

よう。スウェーデンの例なんです、普通のボーイスカウトの隊が、自分の隊の中に身体障害者を招き、共にキャンプをする中で、身体障害者がスカウトになっていく、という運動のスライドです。<sup>(注6)</sup> それもあわせて御覧になってください。

(再びフィルムの中に飯田氏登場。……考えてみれば、身障者を自分達の隊に入れる、ということは至極当然に思われる。「ほくらにもできる。」「ほくらもやりたいんだ。」この気持ちさえあれば、スカウトに参加することを拒む理由などどこにもないではないか。飯田氏はフィルムの終り近くになって「一隊に一人は身障者スカウトを。」と語った。重い言葉だった。)

これで今私がやっている事はだいたいお解りいただけだと思います。そこで、これから先、一歩前進ということ、みなさんの方にかかっているということを覚えてください。ところで今日の映画会は「チャリティー映画会」となっていますが、チャリティーという言葉の中には「かわいそうな人にめぐんであげよう」という気持ちがちよっぴり残っているんです。今日、こうしてハンディキャップスカウトの映画を見て、講演を聞くという事、それは本当に素晴らしいことです。しかし、これが芝居を見たりするチャリティーだとは別です。いつもよりお金を奮発する。きれいな着物を着て、楽しんで、帰ってくる。そして「ああ、今日はこれで人助けをした。」これでは実は余り意味がないんです。私達のしなければならぬこ

とは、かわいそうだから、といって何かをしてあげるのではなくて、我々の仲間の一人だ、として取り組むことなんです。我国の場合、この運動に積極的に取り組もう、という人が最近増えていきます。これはとても喜ばしいことなのですが、世界的に見ますとまだまだ遅れているのです。それで今から、スウェーデンの例をスライドで見たいと思いますが、それからもう一つ言っておきたいことなのですが、それらの人と積極的に友達になり、仲間に入れていくには私達には少々心配なところがあります。たとえば、ここに目の見えない方がいるとします。私達はどうか接触したら良いのか：わかりませんね。その人に今、この椅子に座ってもらいたい。普通は椅子を引いて、赤ちゃんを座らせるように座らせる人がいるんじゃないでしょうか。でもこれは良くないやり方なんです。目の見えない人は、そういうことはしてもらいたくない。手を椅子に当てがって、位置を示してやれば良いのです。その人は手さぐりで、自分で腰掛けることができるのですから。それから、横断歩道などで誘導する時、一方的に手をどんどん引っぱっていくことがあります、これは一番いけないのです。むしろ、その人を前に出して、片手で押すようにした方が良いでしょう。たとえば階段にさしかかった時には「これから階段ですよ。」と教えてあげる。ちよっとしたことなんですけれど、障害をもつ人たちと接触する時には、そんな小さな事が大変大きな役目を果たすのです。それと最後に一つ。先に映画で見た「ギャップハンディ」ということなんですけれ

ども、「ハンディキャンプ」の反対ですね。つまり、五体満足の人達が障害者の立場に立って、いろいろな事を体験し、学習しよう、というプログラムなんです。これはノルウェーの第十四回世界ジャンボリーで初めてとりあげられました。(注7) また、昨年のアグンナリーでは私共が日本で最初にやりました。また来年の御殿場における日本ジャンボリーでも同じことが計画されています。そのときスカウトのみなさんは、どうか参加してほしいと思います。…それでは時間がきたようです。今日はどうもありがとうございました。四団がますます発展することをお祈りしております。

( ) 内ルポ、及び編集 安藤

自筆のプロフィール

飯田貞雄

△職業▽ 山梨大学教育学部助教授(専攻・障害児教育)

△現住所▽ 甲府市和田町2636

△家族▽ 妻、娘2人で4人家族

長女(中2)、二女(中1) いずれもGSシニア

△スカウト活動▽

ボーイスカウト日本連盟 中央審議会議員

障害児スカウティング専門委員会

委員長

トレーニングチーム 副ディレク

ター

ボーイスカウト日本連盟 リーダー トレーナー  
ボーイスカウト山梨連盟 県コミッショナー  
甲府第5団 団委員

△海外派遣・研修▽

1963年「第11回世界ジャンボリー」(ギリシャ)参加

1970年「第17回極東国際トレーニング・ザ・チーム・コース」(ニュージーランド)修了

長就任

1975年「総理府昭和50年度青年海外派遣団中近東班」団

長就任

1977年「第40回アジア太平洋国際トレーニング・ザ・チーム・コース」(台湾)スタッフ就任

はじめての帽子

木村 恵子(田中)

「ワァー、ブラウニーの帽子だわ!」十人にも満たない私たちブラウニー一年生が、キッコ先生(現、根本喜久子さん)をリーダーに、はじめてのクリスマスを祝っている時でした。ター子(現、西郷崇子さん)の扮するサンタクロース。これがとてもすばらしい

扮装で、私たちは声をきくまでは誰だかわからないでそれを当てるために興奮したものでした。―が、私たちに配ってくれたブレゼントは、何とブラウニーの帽子だったのです。六枚はぎのえび茶の可愛いキャップには一針一針にねいにブラウニーのマークが刺しゅうしてありました。実はこの帽子そのものも、GSのお姉さんたちの手作りだったのです。当時は日盟にブラウニーが発足して間もない頃で、まだ制服も制帽も今のように既製品などはなかった時代です。スカートも母の手製でした。それからというもののこの心のこもったちょっとイビツな帽子をかぶってブラウニーに行くのがうれしくてたまらなかったのをついこの間のように思い出します。

もう二十数年も昔のことになりました。今では長女が同じ格好をして毎週ブラウニーに通っています。「体をひねってぐるりとまわるから…」と歌う我が子を見ながら、私は自分が同じように歌っていた頃をよく思い出します。まだお手本にするべきブラウニーもなく、何もかも暗中模索の状態でしたが、「ブラウニー物語」の劇をしたり、GSのお姉さんたちのデイキャンプを見学に行ったり、今のように大きな団ではなかったので、私たちブラウニーはいつもみそっかすでお姉さんたちになつわりついて成長していききました。あの頃を思う時、いつもこのブラウニーの帽子に代表される、手作りの優しさを感じるのです。

元ジュニアリーダー。当時はスカウト達のあこがれの的でした。今は3人のお子様ママで、長女の方は保谷のブラウニーです。

## 近況報告

志水功

(去る二月、我が四団年長隊は、キャンプ(ワークキャンプ)の為にはるばる北海道まで足を伸ばすべく、現地で生活しておられるOB志水さんに、事の可否を打診いたしました。結果は左記の通りあいにく「不可」ということになったのですが、OB志水さんの近況がよく表われているなかなかの名文ですので、あえてここに収録いたします。)

拝復

全国的な寒さとかで東京も雪が多いと聞いていますが、皆さん益々御元気で訓練に奉仕に御活躍のことと思います。

さて御申越の件ですが、残念乍ら御希望に沿う事が出来ません。

と言いますのは私が當農していたのはほんの一時期（67年まで）、

現在はサラリーマン獣医師として日夜、牛の診療、防疫、衛生指導などにあたっているのです。私が直接牧場をやっているのでしたら、一年中いつでもスカウト諸君に来て貰いたい所ですが、他人に頼むとなるとなかなか思うようにはいかないのが実情です。夏の牧草時期（北海道では夏の間は一年中の飼料を確保するため収穫調整の仕事が集中し、文字通り猫の手も借りたい程忙がしい）ならとも角、今の季節は朝晩の給餌、搾乳、洗浄点検などのほかは、（病気とか出産といったことがない限りは）比較的自由な時間の持てる時期で、この間に若い人は季節制の高校（四年制）に通ったり、酪農短大の季節コース（三年制）に行ったり、青年部の研修活動などがあり、婦人やお年寄りのための慰安旅行や各地の視察見学などが行なわれます。都会の少年達に貴重な経験をさせてやろうという所を見付けられることは極めて難かしいことをお察し下さい。何か別な計画を検討されるようお願いいたします。折角の思いつきにお応え出来ず心苦しいのですが、事情というものは外部からではよく分らない事が多く、今回のように、関係者に問い合わせた結果無理だと判った、ということも事態の一つの進展ですから、ガッカリなさらず他の方途を考えて下さい。若し、夏にというのでしたら、大学生については窓口が沢山あり、毎年内地都府県から獣医畜産関係大学は勿論、農業とは無関係の法文系学生、全く無経験の学生（性別を問わず）が、多勢実習という名目で労働を体験して帰っており、御希望があれば御

紹介します。

雪中キャンプもマンネリ化したという事ですが、積極的な余り、早く卒業し過ぎたということでしょう。然し乍ら雪中キャンプに限らずスカウティングに卒業はない筈で、活動の基本となるテーマの把握にいま一つ足りない所がないかどうか再点検が望まれます。

なーんて先輩面して説教調になりましたが、私自身北海道に20年以上も住みながら、未だに北国の冬の生活について新しい経験と新しい疑問が出て来るのです。大きくは、膨大な量のオイルを使って道路を完全除雪して、夏と全く同じ経済活動が続けるといふ事が本当に意義ある、或いはベイすることだろうかといふ事から、小さくは冬の自動車運転技術で道路、天候、車輛装備などの各条件面からの改良、整備、工夫について etc.

さて、"No!"で済む話がだらだらと長くなって申し訳ありません。新しい課題を求めて常に前進されます様、益々の御活躍を祈念してお断ちの御返事の締めくくりとさせて頂きたく存じます。

敬 具

2月14日

別海町 志 水 功

カブ隊初代隊長

四団の輩出した天才音楽家。四団の歌などに代表されるように、古くから四団で歌われていた曲は志水さんのペンによるものが多い。近況は本文を参照されたい。

## 私の、ガールスカウトことはじめ

根 本 喜 久 子

約三〇年前、私はガールスカウトなんて知らなかったのです。中学二年の秋でした。母が、「教会で土曜日に何か集りがあるそうよ。小崎朝子さんがあなたにもいらっしやいとおっしゃって来たから行ってごらんさい。」と云ったのです。そこで私は、教会へ行くのだから…と学校の制服を着、聖書と讃美歌を持って行ったのです。牧師館の応接間に、日曜学校の上級生や同級生等が何名かいらしたのです。三本指でサインをしながら「…ガール・スカウトのおきてを守るように致します」と、その日は誰かの入団式でした。この初めての集会で、聖書や讃美歌は使わず、輪唱やゲーム等を楽しみ、これはいいぞ！と思ったのがスカウトの道を歩み始める第一歩だったのです。その年のクリスマス、即ち昭和二十三年十二月二十五日に入団式をしてグリーンネットカチーフをかけて頂いたのです。自分達で何かを計画し、それを実行するという事は、今でこそスカウトは勿論、学校でもどこでもやってる事ですが、三〇年前の私共にとっては大変目新しく、今迄あまり経験した事のない大変楽しいことでした。

その後、リーダーとしても様々な経験を致しましたが、これはどうしてもつらかった事の方が多い様です。若過ぎたからでしょう。今だったらあゝしただろう、こうしただろう、と云う思いが強く押

し寄せて来ます。これも年をとったせいでしょうね。何せ三十周年なのですから……。

ブラウニー初代リーダー。又、ガールスカウト四代目リーダー。そして一九六二年発足以来、レンジャー初代リーダー。白井愛団委員長顧問の三女。記念誌にも大変、御協力いただきました。

「一度スカウトであった者は……」

田 中 新 二

三十周年おめでとう！

この三十年間は世界の文化、経済、政治、どれをとってもたいへんな変化を遂げた時であるうと思えます。

東京もずいぶん変わりました。

しかし、丘の上にそびえる赤レンガの霊南坂教会の周辺だけは昔の面影を残し、少年時代こゝで毎週土曜日スカウトが集り、楽しい一時を過ごしたことを思い出させてくれます。

当時は泣くほどつらかったオーバーナイト・ハイクや雨にふられたキャンプでの出来事など全て今では楽しい思い出として残るだけで

す。

私がいた昭和二十年代は教会の正面玄関に入って二階に上り、そこから鐘楼のらせん階段を登った部屋でミーティングをやっていました。今では古くなってキケンなため使用出来ない様ですが、あの頃の子供心として何か秘密の部屋に行く様な期待を持って長いらせん階段を登ったものでした。ミーティングは「スカウトは皆、兄弟である」と云われている通り、たのもし、兄貴分の班長と仲間達の楽しい集りでした。その兄貴分や仲間達も今は東京は勿論、遠くアメリカや北海道・名古屋・九州と各地で活躍しています。

この原稿を書きながら、ふと気がついたことをひとつ……。

それはボーイスカウトの創設者ベーデン・パウエル卿の言葉であると思いますが、「一度スカウトであった者は永遠にスカウトである」と教えられた時のことです。その時は「へーえ、そんなものかな」と通り過ぎていましたが、今、実感として大変な名言である、たゞおどろいています。日常生活の中で、決して「ちかい」だの「おきて」だのを守ろうと心がけている訳ではないのに、あの頃のスカウトイングを通して、身についたことが自然と自分の思考、行動の基礎となっていることに気がついたので。今はスカウト活動に参加しているわけでもないし、勿論、ユニフォームを着ている訳でもありません。ごく普通の人間として生活しているのですが、身につけてしまったスカウトの心が今も脈々と生きています。学校とは異り自分達の意志で同じ場所に集

まり、同じ目的を持って、有意義に楽しく過した青春時代を我が子にも味わらせてやりたいと思ひ、長女の美帆は現在ブラウニーで何も分らず、たゞ楽しそうに参加しています。長男の伸之助（一才八カ月）も、カブ隊に入れる年になったら必ず入隊させてやりたいと思っています。

東京第四団の三十年の歴史の間に今やオールドボーイズ及ガールズの二代目のスカウト活動が始まっているのです。私も現在の仕事から少しでも余暇が出来たなら、四団のためにもう一度、何か役に立つ事をしたいと考えております。四団の三十年の歴史の中には、戦争中に育った我々から、全く戦争を知らない年代まで、その数はきつとBS・GS合すると四〇五〇〇人にはなることでしよう。この人達が、この記念誌を手に、互に三十年間の歴史を考え、盛大に行事が出来ることは数々のりっぱなリーダー、そして理解ある教会関係者の協力と、すばらしい四団スカウトの結束があるからであろうと思ひます。これからまた二十年後の五十周年には、どんなスタッフで記念行事が行われるか楽しみです。多分、私達及現役の皆さんの二代目が必ずすばらしい五十周年を祝うことでしよう。そのためにもお互に、四団のためにガンバリましょう。

近況

去る二月十三日のOB会に於て、今井BS初代隊長の発案により、ゴ

ルフ愛好会を結成致しました。  
参加希望者は〇三一四四五一六二一五 田中まで御一報下さい。  
次回コンペの案内を致します。

初め東京第六隊に入隊し、一九四九年、四団に転入、五一年に東京連盟で初めての一級スカウトとなる。団委員を歴任。  
妹の富江さんは今田RS隊長夫人である。

## 明日に向って

永 橋 牧 子

このたび、ガールスカウト、ボーイスカウトが霊南坂教会に誕生して満30年を迎えられましたことは、まことに慶びにたえません。私は発足してまもない4団に入団し、ガールスカウト、シニア、レンジャー、リーダー、そしてアダルトにと、4団と共に成長して来た自分をいま見つめながら満30年を迎えた4団での教々のことを想起しています。

4団シニア発足当時、多くの困難に直面してその活動の継続がやぶまれた時、先輩リーダーの云われたことに『活動を止めてしまうことは一番やさしく簡単なことだが、細々でも続けていくことが大切であり私たちリーダーの役目でもあるのではないか』と、その言葉がその後私に力強い支えとなっていま以ってガールスカウトの活動に参加させています。

私は、現在は残念なことに直接4団の活動にお手伝いは出来ませんが、日連役員の一員としてガールスカウトの活動にいまだに参加する機会を与えられていますこと本当に幸せであり感謝の気持で一杯です。

4団30年の成長の陰には多くの方々のご協力とご支援があったことを思いここに改めて感謝したいと思います。

現在の活動の中に多くの問題にぶつかっているわたしたちですが、創始者の求めたものを私たちも求め探して明日のスカウティングに向かって皆さんと力を合わせてこの活動の原動力となりましょう。

ここに30周年を迎えるにあたり、教会と共にガールスカウト、ボーイスカウト4団の真の成長と発展を心より祈ります。

元ジュニアリーダー。現在ガールスカウト日本連盟の書記。四団では長いことレンジャー上級のスカウトリーダーとして御奉仕。四団生えぬきのリーダーで今は世界的に活躍しておられます。

## 楽しかった年長隊

日下部 英 一

初めて私が年長隊長として夏の伊豆移動野営に参加したのは、今から約十年前のたしか七月頃のことです。大浜副長から「今度の隊長は厳しい人です。などと紹介されて」エへへ！と心の中で思い馬蹄型の輪の中に立たされたことをよく覚えています。

以前クラブ隊の副長補を杉原隊長の下でお手伝いしただけで、大学時代クラブ活動に入り、一時スカウティングから離れて多少不安なきにしもあらずでした。でも今考えると心もとないことで恐縮ですが、そこは若さ、ぶつかってみようという気持ちしかなかったようです。

最初の移動野営は、計画はきちんと立ててあり、本当に云うことは立派なので、さすが高校生だなと感心をし、全てをまかせました。

仕事の都合で、私と松野君は最後のキャンプ地北川に着いてみると、途中歩くはずの計画をバスに乗ったり、楽なコースにかえたり、と云う報告を聞いて、「アレレ……」と思っていると、どうも、やはり自分達の立てた計画ができなかったテレくささと、新しい隊長に対する違和感が重なってキャンプ地の雰囲気はとても悪いようです。もっとも私も、北川のキャンプ地で途中道を間違え、夜中に着くはずが明方になり、あとの反省会で、スカウトから「隊長はスカウティングから離れて鈍くなった」などと皮肉を云われて、お互

いにだらしなかったようです。帰京すると、私は生来のせっかちから、どうかしなくてはという気持ちのあまり、早速、百塚副長と針替上級班長に今回のキャンプのだらしなさについて語り、「スカウト諸君への手紙」を書き、自分達で立てたものが守れなくてときつく云いました。急に入ってきた隊長がうるさく云うので、スカウト皆の前で云えば良いのに、「(本当にあとで考えるとそう思うこともあります。)」と多いに批判されましたが、ともかく反省会をして、自分達の失敗は失敗と素直に認めて欲しいと思ひ、皆で集まったのですが、順番に発言した意見は殆んど期待するものでなく、前にも書いたように皮肉を云われる始末です。どうなるかなと思ひながら、なにしろ云いたいだけ云わせて相手の疲れるのを待った形でしたが、約二〜三時間後最後の一人が「でもやはり僕達の計画は自分でやりとおせなかったし、その点は認めなくては」と云う意見が出たときは正直云ってホッとしました。今でも良くおぼえています。M君です。「ありがとう」

そして翌年百塚君と二人でもう一度、西伊豆六十キロ移動野営を計画させました。今度はさすが慎重の様でした。二人ずつ組み、ジュニアリーダーの応援も得て、下田から土肥に着くのを待ち、皆で元気に、すり傷をつくりながら続々と見えてくるのは大変嬉しく思いました。そのキャンプが続いて、渡辺君達の計画した初めての雪中野営に関する読書会、その準備訓練、池の平での雪中野営へと原動

力になつたようです。キャンプの帰り汽車の中でチンピラに囲まれ毅然としていた百塚君、そのあと現在の隊長である渡辺君のどんどん引張っていくスカウト諸君を見てみると、本当にスカウトイングは素晴らしいものだと言長をやめた今も感じています。この経験を是非あとから続く後輩諸君に味わってもらいたく、どうかこの輪が少しでも大きく広がる様OBの方々、父兄の方々も是非力をおかし頂きたいと思います。

シニア五代隊長 団委員

まるさときびしさを併せ持つ方。もちろん外見から受ける印象通りのタフガイ。スカウトを思う気持ちは人一倍強し。隊長引退後の現在も、「スカウトのためならエーイヤコラ！」

### 三十周年によせて

古 谷 久 代

「モシモシ、今年で四団、三十周年なんです。原稿お願いします。」  
約十年前、私がハリキッテ、リーダーをしていた頃のスカウトから電話がかかって来て、ビックリしました。いえ、スカウトなんて云っては申し訳ない、立派なリーダーになっていたのですから。

「私も年を取ったのだな。」と電話を切って思いました。それからはスカウトの頃の事が、次から次へと思い出されています。

入団式のこと、毎週楽しみに通ったミーティングのこと。技能賞をとるため一生懸命、勉強したこと、リーダーになったこと、バスピクのこと。私はキャンプが好きだったので、キャンプの思い出がとくに沢山あります。大きなリュックを背負って汽車で行ったキャンプ。スカウトオーンやキャンプファイヤー。支部キャンプ、全国キャンプ、アジアキャンプ。あれもこれも沢山あって、何を書いたらよいのか迷ってしまいます。

二十周年の記念誌を取り出してみました。懐かしい名が次々出て来ます。笑ったり、涙ぐんだり。それに十年前の私はなんて、「ツッパッタ」考え方をしていたのでしょうか。恥ずかしくて、そこだけ切り取ってしまいたい気がします。

こんな沢山の素晴らしい思い出を持てるのも、私がスカウトであつたからです。思い出だけではありません。今の生活にどんなに役立っていることでしょう。戸外で火を焚いて食事をしては、「こんなに楽しいハイキングをした事がなかった。」と友人から喜ばれたりします。必ず持つて行く救急用品が、役立ったこともあります。

十年後、私は中学生になる娘とキャンプに行つて、得意になって、テントをたてたりしているかも知れません。星空をながめながら昔を思い出して、おセンチになっているかも知れません。スカウトの思い出がどれだけ、増える事でしょうか。

スカウトって素晴らしいですね。  
三十周年、おめでとう。

弥栄

旧G S (B) のリーダーを永年して下さって、お料理が大変お上手です。

## スカウト経験を通して

針 替 茂 人

私が学生時代15年間のスカウト生活を終え、社会生活に入りすでに4年の歳月が過ぎたのであります。最近特にスカウト活動に対して強く感じる事は町中でボーイスカウトやカブスカウトを見かけた時、彼等の姿が本当に希望にあふれ生き生きとしていることでもあります。私自身同年代の頃をスカウトとして過していたわけですが、その頃は唯夢中での重要性などわかりませんでした。社会人となつては時間的制約がある為中々自然にしたいむ機会が少なくなり、スカウト時代の中での野外活動に熱中していた自分自身の過去に強

く引きよせられる時があります。

真冬に山中湖へキャンプにいった時、土がこおりついてテントを張るにもベグがささらず何本もベグを折ってしまったこと、移動キャンプで夜台風になりテントをとばされない様にポールにしがみついていたことなど数かぎりなく、なつかしく温かい思い出となっております。そうした中で自然の厳しさを知り、それを支配される創造主なる神を確信し、困難をのりこえる気迫をつちかわれました。

社会へ巣立ったOBに目をむけると現在あらゆる分野でめざましい活躍をされ、遠く海外においても素晴らしい働きをされています。ボーイスカウト精神をもって仕事に取くんでおられます。私自身卒業後すぐに渡米し、二年間の米国での生活のはじめの一年は、未知の国に於て孤独と仕事の厳しさへの挑戦でした。そんな時少年時代スカウトで得た体験と霊南坂教会教会学校でおしえられた神への信頼と感謝によって困難をのりこえられたのです。それと渡米しておられるOB先輩の励ましでした。何年も会えなかったブランクなど感じられぬ気持のふれ合いは全く感動的でした。スランプに陥った時家庭に招かれなくさめられ、力強く立上ることが出来ました。同じ釜のめしを食ったもの同志というのでしょうか、年の差も感じず、かつては指導者であったOBに本当にお世話になった事をあらためて感謝しております。

現在色々なレジャーが発達し、人間の交流は激しくなっています。何かもの足りなさを感じています。それはやはり人間生活にと

って本当に必要なのは、自然にかえっての人間交流ではないでしょうか。これは私が今までの「やくそくとおきて」のもとに行われているスカウト生活を通して体で学んだ様に感じます。私の少年時代とは社会も大幅に変わりました。

受験戦争、またクラブ活動との両立の難しさなどありますが、それ等を克服して多くのスカウトが育成される様願っています。4団が30周年をこゝに迎える事が出来たことは、本当に嬉しく思うと共に30年の歴史の中のスカウト生活の中で私自身が多くを学び体験をし、生活の基本的な考え方を獲得出来たことを感謝しております。

今後も青春期の若者達がスカウト活動をして大切な時期を自然の中で充分発散をし、真の人間交流を築き上げる事を望みます。

もう一つ4団は教会の団であること、それは神への感謝と応答による奉仕を行っていることであります。よき指導者を多く与えられて、教会のスカウトとして発展していく上に神の御導きを祈ります。

言うまでもなく、現ガール団委員長の御息。シニア上班等をつとめました。就職後は長い間海外に滞在されておられました。帰国され、近々めでたく結婚されるそうです。

## 思い出の中で

矢 沢 宏 子

一九五八年一月十八日、それは丁度私の十五才の誕生日でした。

靈南坂教会に始めて足を踏み入れた日なのです。少々うす暗い階下講堂ではGS八団発足のためそちらのリーダーになられる長瀬（佐藤）さん、三木（松下）さんのお別れの会でした。フォークダンスゲームとまだスカウトとは何をするやら全く解らない私を十年來の友達の様迎え、楽しい一時を過ごすことが出来たあの日の事が昨日の事に様に眠に浮びます。

第三回アジア大会では女子選手村のガードウーマン、初めてのキャンプでは先発でトイレの穴を六ケも堀ったり、戸隠でのアジアキャンプは二〇日間もテント生活、書いても書いても書ききれない程の思い出、その中で「スカウト」であった事の喜びは数知れないのです。月日の経つのは早く、スカウト活動に励んだ十年間、結婚という「ミノ」をかぶって名前だけのリーダーやアダルトそして今、また子供と一緒に靈南坂に通う事をゆるされている私は誠に幸せ者と感謝し、スカウトの道を選び生涯スカウトとして靈南坂のあの鐘聲を思い浮かべ楽しかった青春時代、苦しかった事は思いうかばないのです。そしてこれからの中年時代???を子供と共に何かお役に立つことがあれば、あの坂道を登って行きたいとそんな気持ちの今日この頃です。

弥栄



レンジャー付アダルト。元GS(B)リーダー。  
リーダー経験のある団委員として、大変参考になる意見を持っていらっシャいます。2人のお嬢様が4団のブラウニーです。  
今後の活躍が期待されております。

遠くにて

高野 梓

坂道の 奥に レンガ色  
遠い遠い あかりが灯ります  
もどかしく のぼった坂道も

一人で ほつんとかけ下りた坂道も 同じでした

色あい豊かに はなやかな花の仲間がいて

そんな気持が 今でも続いていられるのです

ライト・ブルー一杯に張り切った

”いつも元氣”な少年達は

今 何処の坂道をのぼりつつ あるのでしょうか

知りたいよな

そっとしておきたいような想いが くり返されます

坂道の 奥にレンガ色

坂道は 一つ

元カブ隊のデンマザー。「原稿が遅れて申し訳ありません。  
…母親としての(これが大変なのです)仕事がありましたの  
で」と言いながらも、ステキな詩を書いてくださいました。

## 三十周年に寄せて

山田紀代

そびえ立つ教会の塔、木造の薄暗い部屋、敬礼と共におきてや約束を唱えるグレーの制服を着た初めての顔、顔、顔、今迄にない緊張感を持って参加した霊南坂第四団ガールスカウト第一日。初めて耳にするおきてや約束は深く考えてみなかった。偉そうな言葉遣ばかりでいったいどうなるのかしらと不安になったのも束の間、同年代のスカウト達は新米の私を暖かな笑顔で迎え入れてくれ、楽しいゲームやスカウトソングを次々に教えてくれました。プログラムも学校と違ってとても新鮮に感じ、ここはずっと通っていると良い人間になれるのだと思ひ込んで、目を輝やかし胸を張って家に帰った日を十数年たった今でもなつかしく想い出します。

通学路である家の前を朝に夕に大勢の小、中、高生が通ります。何気なく見えていますと、何やら覇気がなくて、顔色の冴えない生徒が多いのが気になり、人事乍らこのまゝで大人になってしまつて良いのかしらと心配になります。受験勉強も大事だけれど、若い時にしか出来ない体で覚える体験、色々な人達との接触は人間形成の上で、もっともっと大切な事だと思つたのですが……。

そう云う意味でスカウト運動は素晴らしいし、現代に合ったスカウティングが大勢の人達に理解され、そして大勢の子供達が参加出来

たらなと痛切に感じる今日この頃です。

今迄の四団を支えて下さった教会の方々、諸先輩、御父兄の皆様  
に感謝しつつ歴史ある四団が、ますます充実し発展なさる様心から  
お祈りして居ります。

元ブラウニーリーダー。二十周年当時は、「ホッコリーダー」として御活躍なされていらっしゃいました。

## 感謝をもつてスカウティングを

太田彰

百年近い伝統をもつた教会のもと、多くの先輩が石づえを築きあげたお陰で、はぐくみ育てられている自分達は何と幸せであるかを思い、感謝と祈りをもつてスカウティングに励まなければならぬと常々反省致されており。三十年と云う歩みの中には、楽しい事ばかりでなく大変な波るうの中にもまれながらも互に励ましあい備えあって、今日の三十年を迎えられる恵みに私共は唯々感謝致さねばなりません。「備えよ常に」とありますが、誰でも自分一人で急に成長は出来ません。例えば、芸術の分野でもあの偉大なルーベ

ンスもティッィアーンの作品の模写をしたし、ドラクロアもルーベンスの神髄を知るために模写し、ゴッホもドラクロアの模写をしている。これ等のすばらしい芸術も、模倣する為でなく学びとるため模写したのであるとビューリツァー賞をとった作家ミッチェナー氏は書いております。私達も立派な先輩を盲目的に模倣しないで、先輩を凌駕するようにならなければならないと願っています。そして日常のスカウティングには感謝をもって訓練知識を身につけて、心身をきたえ来たるべき世代に備えたいものです。

ガールスカウト団委員書記。男性というギャップがあるにもかかわらず、御活躍下さっています。今は団にはなくてはならない方です。男性ではじめての父兄団委員です。

## あの頃のこと

石井 喜美江

(旧 今田)

早いものでもう三十年になるのですネ。四団が結成されて数ヶ月後の夏の日、はじめて集会に出席して楽しかったこと、たしか小学校の六年生でした。リーダーの小崎朝子先生を中心とした十数人

の小さな集りでした。川崎さん、栗山さん、平沢さん等、皆さん中学三年生のお姉さん達ばかりなので、私は何もわからないまま、ただついていくばかりでした。

胸をときめかした一人だけの入団式は十月の末、小崎先生のお宅(今の中庭)の応接間でした。リーダーの朝子先生に若草色と緑色の三角チーフ(小さい三角を二枚つないだもの)を首にまいて頂いた時の嬉しかったこと!この日に元リーダーの臼井喜久子さん(現根本)が、はじめてスカウトの仲間入りをするため出席されたようにおもいます。いつもの集会は、教会の庭か小崎先生のお家でした。ナワ結びやゲーム、フォークダンスに歌と楽しい日々でした。英語の歌が多く、「やくそくの歌」・「アワシャレーソング」なども日本語訳ではありませんでした。

私達霊南坂教会のスカウトは、全員が日曜学校に出席していましたが、土曜・日曜は教会で過ごすのが常でした。そして教会への奉仕活動として、イースターにはイースターエッグを作って売ったり、野外の早朝礼拝のお手伝いをしたり、礼拝堂内では、花の日の献花や、クリスマスのサンドルサービスや子供会のお手伝いなどの他、いろいろなことをいたしました。スカウト活動が、日曜学校の人達に知られるようになり、人数も増えてきて、集会は教会の階下講堂で行われるようになりました。当時、制服はなかったので、自分たちで作ろうと、聖歌隊にいらした美しい声の橋本副リーダーの指導でおそろいの白いブラウスを縫い、皆得意になって着ていま

した。それからしばらくして制服が連盟から売り出されることになり、家のお手伝いをしていただいたお金をつためて、神田の需品部まで買いに行きました。グレーの綿ギャバで、長袖・開衿・胸ポケット付の上衣に、六枚はぎのスカートでした。これにエンジのネックチーフです、四角い布の一角にスカウト章が染抜きになっていて、そこを背の中央にくるように三角にたんで上衣のエリの下にまき、胸の結び目の所に会員ピンをつけます。戦後の物資不足の時代からやっと抜けだしはじめた頃で、ガール・スカウトとしての組織もやっと出来、ハンドブックの他は何もなかった時なので、この制服が出来たことがとても嬉しかったことが思い出されます。そして、制服を着ている時だけがスカウトではないと教えられたことも忘れられません。スカウト活動が学生時代の一番楽しく充実した一ページとして、いまでも頭から離れないであります。

どうかスカウトの皆さんも、大人になった時、幼き日の楽しかった思い出の一つとして残す事の出来るような、すばらしいチャーチ・スカウトとして活躍して下さいます。



越谷市下間久里 567130 〒343  
今田富士雄氏の実妹。成人してリーダーにはなりませんでしたが、会計などのお手伝いをしていただきました。

## 挨拶 (あしやう)

杉原正

「おはよう」「こんにちは」「さようなら」「おやすみなさい」  
私たちの生活の中で色々な挨拶(あいさつ)があります。

皆さんは、きちんと挨拶をしているでしょうか。家庭で、学校で、  
職場で、そして近隣社会での生活のなかではどうでしょうか。

確かにひとりだけの生活では挨拶が必要ではないでしょうが、二人  
以上の人々が生活する場においては挨拶は欠くことのできないもの  
です。挨拶の挨拶は「ひらく」、挨拶は「せまる」という意味です。お  
互に心を開いて相手にせまるのが挨拶です。挨拶は、言葉(ことば)  
だけではありません。スカウトの間では、敬礼(けいれい)や握手  
(あくしゅ)がありますが、これも挨拶です。言葉だけでなく動作  
や態度で示すことも必要です。人と人との関係で一番大切なものは、  
お互に心が開き合っていることです。

スカウト活動の中ではどうでしょうか。本心に心が開き合ってい  
るでしょうか。スカウト同志では挨拶が行われ心が開き合い、スカ  
ウトと指導者でも挨拶が行われ、心が開き合ったとしても、指導者  
と指導者(おとなの間)の間で挨拶がきちんと行われていなかっ  
たらどうなるのでしょうか。スカウトには心を開くが、指導者(おと  
な)同志には心を開いてはいるのです。

スカウト教育は、よい少年、よい青年、そしてよりよい社会人づ

くりを目指しているのです。その中でカブスカウト教育は、躰(し  
つけ)の教育ともいわれています。

世界各国の国民意識の調査の中で、「家庭とは」の質問に、日本  
人の多くは、憩と躰の場であるといい、西欧各国の多くは、よい親  
をつくる場であると答えているのです。

スカウト教育の中で躰のことが、そして多くの一般の日本人が家  
庭に期待するものとして躰をあげています。躰とは身を美しく  
と書くのです。身を美しくすることは決して外面だけが美しくなる  
ということではなく、内面(心)が美しくなることです。心を美し  
くするためには、まず心を開くことから始まるのです。具体的には、  
生活の中で朝、お父さんとお母さんが「おはよう」といい合い、ま  
た、集会では指導者がお互に「こんにちは」といい合って、それを  
みていたスカウトが、ああ朝起きたら「おはよう」と誰にでもい  
うんだなあ、人と会ったときには「こんにちは」というんだなあ、と  
いう心を自然に自分で育てることです。そしてそれを生活の中でい  
かしていくことです。

日本人は、古くからお上(おかみ)中心の考え方があり、つねに  
上から下への考え方が流れているのです。教育についても同じよう  
に何かを教え、何かを教われればその人間がよくなり、立派になると  
信じているのです。よい学校を出ればという現在の学歴中心の考え  
方もその現われです。大学進学率が世界で一番高いといわれる日本  
人が、公德心については、調査によると世界の先進国のなかでは最

低なのです。自分の家の回りは美しくするが、道路や公園などの公共の場所は紙くずで汚すことは平気です。紙くずを捨ててはいけな  
いことは教えられても、美しい環境の中で育てようとしたことがな  
いために、教えられたことは忘れてしまい紙くずを平気で捨てるの  
です。

よい少年、よい青年、よい社会人づくり、いいかえればよい父親  
づくりを目指しているこのスカウト活動が教えるという姿勢でなく、  
身を美しくするための育てる姿勢であってほしいと願っているので  
す。そのためには、まず心を開くための挨拶ができる人間を育てた  
い。挨拶ができ、それが実行できる人間として育ってほしい。人は  
教えられて人格が形成されるのではなく、育てられて成長するもの  
だと信じるからこそ、おとなの参加がスカウト活動にとって必要な  
のです。

現在副団委員長

インテリジェンスが、フランス製を着たらこの人になる、とい  
った感じの方。論弁術で杉原さんに勝てる人はまずないと  
言っ  
てよい。今年度よりカブ隊長に再度就任。



## 特別寄稿

四団の創始者の一人、マーチン・ウィリアムス氏よりのメッセージ。

### ——— 訳 文 ———

私は、ボーイスカウト東京第4団の創立三十周年に際し、お祝いの言葉を喜んでお送りするものです。昭和21年の終りだったか、22年の始めだったか、ある日の夕方、ジョージ今井氏（今井襲二氏）と私は、少年時代の思い出話をしていた時、ム達が二人共、当時の第36隊の隊員であったことに気付いたのです。（ジョージはホノルル、私はセンタービル。）そこで私達は、東京で隊を始めることを決めたのです。三島氏と小崎道雄先生との話合いの末、私達は二つの隊を同じ土曜日の午後、始めたのでした。その次の週は、霊南坂教会において集会を持ちました。私の記憶では、その次の土曜日に二つの隊が一つに合併したのでした。

当時、私達は少年達の熱意以外には何も持っていませんでした。ハンドブックも、その他の資料も、制服すらもなかったのです。地区（Black Warrior Council, Tuscaloosa, Alabama）の代表者であったE・クリストファー氏と秘書だったマックスウェル嬢、そしてローカル・スカウト・マスターであったB・レヴィー氏らが、私達を援助してくれたのです。

ジョージがスカウト達に教えた歌のうちの二つである「キープ・クライミング」（登り続けよ）、「トレイル・ジ・イーグル」（イーグルにつづけ。イーグルとは米国スカウトにおける富士章にあたるバッジ）は、わかりやすい歌でありまた隊や、過去に隊にかかわった人達や、現役の隊員やリーダー達、さらに、これからかかわろうとする人達に対しても、ボーイスカウトのスローガンをそのまま示しているものです。

隊の創立の日は、ジョージ・ワシントンの誕生日であり、また、ロード・ベーデン・パウエル の誕生日です。

隊はアメリカのスカウトのやり方と、イギリス、日本のそれを用いて育ってきたのです。第四隊が始められてから、3～4ヶ月たった時に、私達は東京の他の隊、五つと共にラリーを行いました。その頃東京には、およそ百か百五十名のスカウトがおりました。昭和27年、私が日本を去った頃、私の考えでは日本にはおよそ4万名のスカウトがおりました。

スカウトのモットー、誓い、そしておきては高い理想を具体化するものです。また、それらは自然に少年達に対して肉体的、精神的、社会的、霊的な理想として要求されるものです。スカウティングというのは、重要な人格形成の場ではありますが決して、少年達が皆スカウトにならなければならない、ということではないのです。

私は第4団が霊南坂教会によって育成されている、ということを特に喜びと感じます。

それは

- (1) 教会はスカウト活動に最も適した育成団体であるということ。
- (2) スカウト活動は教会のすべてのプログラムの中で重要な位置を占め、他の教会のプログラムを強化することのできるものであるということ。

以上2つの理由によるものです。

私はスカウト活動を育成していない教会に属する、当時の第4隊の隊員諸氏に要請します。あなたの属する教会がスカウト活動を始めるか、あるいは援助を必要としている隊に力を貸すことができるように努めなさい。

私は現役の第4団のスカウトヤリーダー、君達の先輩(当時の第4隊の上級班長、班長であった荒垣、小崎、今田、飯田、志水各氏)そして君達につづく人々に私の熱き願いを伝えます。それは、第4隊は日本が様々な困難な状況に直面していた時に始められたにもかかわらず、今まで歩み続けてきたのですからたとえ、より高い障害が迫ろうとも、歩みを止めることはないという確信なのです。

私は自分が第4隊を創ること、また日本全国のスカウト活動を育てることに費した努力を私の人生における最も幸福な出来事であると考えます。

「登り続けよ」と、私の母校であるアラバマ大学の学長、R・C・フォスター先生の最近の言葉からの引用である「神、汝と共にいましたもう、汝、神と共にいましたもう。」この2つの言葉を贈ります。できることならば記念式典に共に集いたいと思います。もし、それが不可能になったとしても、私の心は君達と共にあるのです。(翻訳、BS 菊地)

(マーチン・ウィリアムス氏のプロフィールは、今井初代隊長のインタビューのページを御参照下さい。)

I am happy to comply with your requests to send a congratulatory message on the 30th Anniversary of Tokyo Troop 4, February 22, 1977, but which is to be observed in April.

One evening, in late 1946 or early 1947, George Imai and I were discussing boyhood experiences. We discovered we had both been a member of Scout Troop 36 - George in Honolulu and I in Centreville.

We decided to start a Scout Troop in Tokyo. After some discussions with Viscount Mishima and Dr. Michio Kozaki, we started two troops on the same Saturday afternoon, the second meeting at Reinanzaka Church, the one earlier that afternoon at a nearby elementary. As I remember, on the following Saturday the two troops were merged into one.

We were short of supplies (handbooks, other literature, uniforms) - just about everything except the enthusiasm of the boys. The local Scout Council (Black Warrior Council, Tuscaloosa, Alabama, -its Executive, Mr. Eggar Christopher, and the office Secretary, Miss Maxwell, as well as the then local Scoutmaster, Mr. Bill Levy, came to our rescue.

Two of the songs which George taught the Scouts - "Keep Climbing" and "Trail the Eagle" proved popular and could well serve as slogans for the Troop and those who have been associated with it in the past, are now members or leaders, and those who will be in the future.

The Troop's birthday is also that of George Washington, and also that of Lord Baden Powell.

The troop grew, by using some American Scout ideas and some British and some Japanese. About three or four months after Troop 4 started it participated in a rally with 5 other Tokyo troops - there were Japanese cities). When I left in 1952, I believe the total national membership was about 40,000.

The Scout Motto, and Law embody high ideals - and ones that naturally appeal to boys - stressing physical, mental, social, and spritual ideals. Scouting is an important character building activity - but that's not the reason boys become Scouts - they enjoy the program. That must always be so.

I am particularrly happy that Troop 4 is sponsored by Reinanzaka Church - (1) churches are among the most suitable sponsoring institutions; and (2) Scouting can be an important part in the whole program of the church, and strenghten other parts of the church's program. I appeal to former members of Troops 4 who may now be members of churches which do not sponsor troops - get those churches to start a troop or take over the sponsorship of an existing troop which may need help!

I extend my warment wishes to the members and leaders of Troop 4, their predecessors (among the Senior Patrol Leaders and Patrol Leaders of Troop 4, I recall Aragaki, Kozaki, Imada, Iida and Shimizu and their successors. Troop 4 started during a time when conditions in Tokyo (and all Japan) were difficult, but it kept going, and the most happy events of my life.

I could write several pages of reminiscen as, but I hope this brief message will suffice.

In conclusion, "Keep Climbing", and to quote the words of the late Dr. Richard C. Foster, presidint of the University of Alabama (my alma mater) - "God be with you, and you be with God". I wish I could be with you for your celebration; I will be you in sprit.

注釈(1)の表

昭和22年5月17日

ラリーで行った20種結索ゲーム

20本のロープを用意し、1分  
以内に結び終る。

1. BOWLINE ON A BIGHT
2. GIRTH HITCH
3. CLOVE HITCH
4. MILLERS KNOT
5. SQUARE KNOT
6. TWO HALF HITCH
7. BOWLINE
8. SHEET BEND
9. CARRICK BEND
10. FISHERMAN'S KNOT
11. FISHERMAN'S BEND
12. SINGLE PIPE HITCH
13. DOUBLE PIPE HITCH
14. TIMBER HITCH
15. HITCHING TIE
16. SLIP KNOT
17. LARIAT LOOP
18. FIGURE OF EIGHT KNOT
19. STEVEDOR'S KNOT
20. SHEEP SHANK

注釈

- (1) 別表を見よ。
- (2) 必ずしも本人は不幸と考えているわけではない。(飯田)
- (3) 耳が聞こえないだけで、訓練によって口はきけるようになる。  
(飯田)
- (4) 「ほくろもみんなできるんだ」  
文部省選定、BS日本連盟企画、日経映画社製作。
- (5) 「すべての青少年にスカウト活動を」  
―障害児スカウティングへの挑戦― 日経映画社製作
- (6) "One of us" 運動
- (7) 1970年、デンマークのYMCAスカウトが始めたことであり、正式なプログラムとなったのは第十四回世界ジャンボリーが初めて。

## 第二部

# スカウトのページ



## カブ隊のページ (年少隊)

### 活動報告

カブ隊は、現在仮入隊のスカウトを含め約50名の大所帯。だから毎土曜日の集会のプログラムには一苦労する。

ある土曜日のプログラムをのぞいてみる。2時頃からスカウトが集まってくる。みんな様々な事をしている。野球をやっているスカウト、リーダーにカブブックを見てもらっているスカウト、1人であるスカウト etc である。

2時30分、リーダーが全員集合の笛を吹く。集会の始まりである。開会式、ゲームをやって、今日のメインテーマである隊集會が始まる。この日から、ダンボールで教の模型の製作である。今日は第1段階でダンボールの切断である。月の輪と仮入隊のスカウトは別行動。月の輪はあと2ヶ月余りでBS隊に上進。だから皆、真剣な目つき。仮入隊は早く慣れようと必死。しばらくすると、そろそろあきてくるスカウトが、ほつほつと出てくる。また少したつと、約

## 無 題

副長 高橋 徹次

半数のスカウトが別の事をし始める。リーダーが注意する。このくり返しである。これが4時頃まで続く。またゲームを行なう。このときは月の輪も仮入隊も一緒。このときのスカウトの顔はどれも皆生き生きとしている。これが4時30分近くまで続く。4時30分から閉会式。これで集会はおわりだが、暖かくなると、集会が終わってから7、8人でハンドベースをやっている。またあるスカウトはカブブックをリーダーに見てもらっている。

こんなスカウトの表情を見ると、心が洗われるような気がする。

来週、スカウトはどんな顔をして教会へくるのだろう。またあの生き生きとした顔を見たいと思う。

(高橋 記)

最近、よく個性がなくなったとか、没個性化ということが言われる。何故そうなる

かといえば、教える側と教えられる側両方に責任があるように思う。まず、教える側の方からいえば、教える側が教えられる側のレベルに立って物事を考えないからである。これを解決する一つの方法として、教える側が教えられる側のレベルまで下がり考えて見る。そして、それを自分の描いているイメージにあてはめてみる。そうすれば、ある程度までは解決できると思う。次に、教えられる側からいえば、決して受身になっただけはいけない。受身になったその瞬間から進歩はなくなり、停滞もしくは退歩が始まる。だから、常に前進するには、対決の姿勢を崩してはならないと思う。

以上述べたことは、現在のスカウト活動についても当てはまる。思うに、今までリーダーは、自分たちのレベルにおいてプロ

グラムを考えていたのではないだろうか。確かに、スカウトを経てきた者は、自分の経験である程度まではわかるであろう。しかし、それはあくまで、リーダーがスカウトだった時のものであり、それをスカウトにそのまま消化させるのではないと思いたい。今と昔では社会における様々の価値が異なるのだから。一方スカウトは、すでに述べたように受身になってはいけない。もっと積極的な態度で集会に参加してほしいと思う。この二つの事が、滑らかな行なわれた時に、スカウト活動はうまくいくのではないかと思う。もちろん、父兄の協力というのはいくらでもない。

我々がスカウト達の個性を奪ってしまうことはできない。彼らには無限の可能性を秘めているのだから。

## 元氣なカブスカウトに!

副長補 朱 鴻 梁

土曜日、たまたまカブの集会が無い日であった。教会ではカブ以外の隊が集会を行っていたが、なんとという静かな教会なんだろう。悪く言えば活気の無いさびしい日という感じがする。カブの集会の有無によってこんなに違うのだろうか?カブの集会を見ると活気に満ちたスカウト達がいっぱいあられ回っているといった第一印象をだれでも受けると思う。カブにとってこの元氣というものが一番大せつなものであって、この元氣をカブから取ってしまったらカブに残るものは無いと言えるのではないだろうか?

ここでしっほ取りゲームを一例として見てみるとスカウト達は無心になってゲームを楽しんでいた。が、ここでちょっと気になるスカウトそ二、三人居た。そのスカウト達は比較のおとなしくしっほを抵抗無しに取られてしまう。「自分は弱いんだ。何

もする気が無い。」といった感じが受けられる。このような元氣の無いスカウトが居無くなるようにしたい。たとえ他のしっほが取れなくても相手をころばすくらいの抵抗をする元氣がほしいと思う。

この事はゲームだけでなく他の事にも言えることで「自分は不得意だからやらない。」「めんどりだからやらない。」といった事にもあてはまるのではないだろうか?何事にも「やってみよう。」と前進の氣持を持つ事であって、このやってみようという氣持は自分から進んで行ない、そして最後までやりとげることが大せつである。

元氣ということは以上の事も含まれているのではないだろうか。カブでの元氣とは「ワンパクでもいい強い子なら。」という事だけでなく、この元氣の中には物事のけじめ、例えば遊ぶ時にはおもいっきり遊び、静かにする所では静かにするといった事や、「こんにちわ」「さようなら」といったちょっとしたアイサツが言えることも含まれていると思う。

このような元氣あるカブに全部のカブスカウトがなってほしいというのが、一人のローパー隊奉仕リーダーの考えである。

## 三十年後の僕

小林 元文

ぼくは三十年後、病院の先生になりたい。むりだと思うけど、いい大学をうけ、自分で病院を造り自分で先生をやりたい。それで、大ぜいの人をたすける。またいろいろの研究をして、いろいろ発明する。発明したいものは、寿命がのばせる薬を作りたい。ほかにもつくりたいけど、寿命がのびる薬をつくりたい。

工藤 紫麻

三十年後の僕は、けいじになっているだろう。そしていろいろなどろぼろをつかまえる。そしていろいろな人をたすけ、いろいろなけんをかいつする。けいじになるのはむずかしいかもしれない

けど、いい中学に行き、いい高校に行き、いい大学に行きそして大学院にも行く。そしてたらぼくはきつといいけいじになって、日本一いいけいじになりたい。

小林 雄平

きもの染二葉の仕事をすることになるだろう。そして大きい家にすみたいが、あまり大きい家にはすみたくない。ふつうの家より少し大きい家ぐらいの家がいい。そしてそのころには、カナダにいて、ドイツニールランドにいきたい。

梶 正尚

三十年後のぼくは四十才。仕事をしたい。その会社は車屋でカパーをはったりいすをなおしたりして、お金をもうける。すぐくはたらいて、会社の社長になりたい。いろいろなところに出かけて仕事を聞いて、なにをやれば良いかそれをひきうけて、仕事にかかっていきあがったらお金をもらってはたらきたいと思っている。会社の人の

数もおおくするため、社員をほ集して会社を大きくして、会社の人たちに給料の分はたらいて、お金を多くあげたいとぼくは思う。

北川 讓治

三十年後のぼくは、ガソリンスタンドか自動車しゅうり工場ではたらくだろう。ぼくは自動車が好きだから、ガソリンスタンドや自動車しゅうり工場ではたらいればいい車が見られるだろう。それにぼくは、きかいをいじるのがだいのだいすきだし、車のりたいたいからぜったいにめんきょうしょうをとる。

浦野 真生

30年後、ぼくはリーダーになっているだろう。そして、みんなの先頭に立って指導しているだろう。それでみんなにいろいろなことを教えたり、ゲームをしたりして、楽しくスカウトの指導を試みたいと思っている。そして、みんなにスカウトの道を

ちゃんと教えてあげたい。それから、いばらないで、やさしいリーダーになりたい。そしてさいごに隊長になりたい。

柏木 昌夫

三十年後には、この教会も変わっているだろう。カブ隊のリーダーも、かわっているだろう。ぼくは教会もリーダーも、かわってほしくない。なぜなら、教会はこのままのほうが、とても古いと思われるし、リーダーは、いまの人のほうがとてもおもしろいからだ。だけど、三十年もリーダーをしていられないだろう。だからそのあとを、ぼくがやりたい。

大槻 将嗣

三十年後には、リーダーもこの世からいなくなるかもしれない。ぼくは、今はせが小さいが、大人になったらせが高くなって、リーダーよりもせが高くなるかもしれない。そうしたら、教会もすごく変わっているだろう。火事や地しんに強くなって、りっぱ

になるかもしれない。もしかしたら、ビルがたつて教会がなくなるかもしれない。

山 寺 健 基

三十年後は四十才になっているが、仕事にはげんでいるだろう。ぼくのしょうらいのゆめは、おとうさんのあとをついで船をつくりたい。もし、おとうさんのあとつぎがきたらうれしくて、いっしょうけんめいはたらくだろう。そして、お金をもらって、それをためてそのお金で、みんながおどろくようなことをしてみたいと思う。もしそれができなかつたら、あきらめてふつうのせいかつをしたいと思う。

藤 井 優 介

三十年後のぼくは四十才になっている。三十年後ぼくはなにかの仕事をやっている。何をやっているかはわからない。たぶんうちの仕事をついでいると思う。それから、車がほしいと思う。子どもは4人ほしい。三十年後はいろいろとべんりになっている

のでらくだと思う。三十年後ボーイスカウトやカブスカウトはあるのかと思う。リーダーになってもいいと思った。電気会社になってもいいと思いました。

藤 井 大 輔

三十年後のぼくは、三十九才です。ぼくは、三十年後にはひこうき会社に入りたいです。わけは、パイロットになって、たくさんの人をのせて空をとびたいからです。そのためには、今のうちから、べんきょうをたくさんしたいとおもいます。

富 田 恒 雄

三十年後のぼくは、三十九才になっている。だが仕事にはいっているだろう。それからおそろくしょうらいは、おとうさんになつていふことと、しょくぎょうは会社いんであるといふのですが、タクシーのうんでんしゅもいふと思います。ただ、しごとのみつからないとぼくもちょっとかなしいきもちです。あとちよ金をた

めて家もかうかもしれない。おまけに、わもたしたらお金は、かかりそうに思いません。

宇 佐 美 暁

三十年後の僕は、三十九才だ。水泳の選手か、作家になっているだろう。おかささんも大さんせいだった。早くおとなになりたい。

福 富 丹

三十年後には、ぼくは三十九才です。そのころぼくは、何かの仕事、そしてはたらいっているだろう。リーダーたちは生きているのだろうか？ぼくのかよっている学校は、つぶれているだろう。お父さんやお母さんやおねえさんは生きていますか？ぼくはとっても気になります。

葛西邦武

「三十年後」になるとぼくは、三十九才になる。その時ぼくは、おさげやたばこを飲んだりすったりしてしまいうだろう。教会はいま、木ぞうモルタルでなく、コンクリートだてになっているだろう。教会のまわりがかわり、その音もすごい。その時、ぼくは教会をおぼえているかわからない。ぼくは、オートバイに乗っているだろう。

Petter Farrell

僕はアメリカに帰って、F・B・Iのようなそうさのしごとにつきたいと思います。それも、ただのF・B・Iではなく、えらい人になりたいのです。F・B・Iというのは、テレビのSWATみたいなカッコいいしごとですが、もっとすごいやつです。SWATもおもしろいと思いますが、F・B・Iになりたいのです。そして、年をとってしごとをやめたら、お百姓さんになって、犬と小鳥をかいたいと思っています。

(原文を翻訳)

石井 浩

ぼくは今9才。30年後は39才。しょうらいのゆめは、今、ブームの外車をデザインすること。なぜかという、今、ブームの外車を自分で作ってみたいから。外車が人気あるのは、はやくてかっこいいから。はやくてかっこいい車を作りたい。はやくてかっこいい車を外国で作る。それが30年後のぼく。

斉藤 文治

「30年後」。39才になるなあ。すごい年とるなあ。おさげのむかな。それともタバコかな。どんな人になるんだ？ぼくはなんにだっていいんだ。だってあれになりたいと思っしてっばいするといやだから。だが車かオートバイにはのってみたい。とくに車がいい。オートバイは音がうるさいけど車はあまり音がしないから。これからどんなことがおこるかな。39才ともなるとたいへんだな。お金をかせぐために会社のことですっばいすることがあるかなあ。うっか

りもののぼくのことだからきつとするだろう。会社くびになることがあるかもしれない。会社といってもどういう会社に入るのかなあ。みらいのことをそぞうするのってあんがいむずかしいな。

藤井 潤

三十年後のぼくは、何になっているだろう。野球の選手になっているかもしれない。飛行機のパイロットになっているかもしれない。両方ともなりたいけど片方にしかない。どっちかになるようにがんばりたい。

野田 豊

くるまののって日本一しゅうする。くるまはないかもしれないけど、ボルシェ911ターボをかう。なかったら、かっこいいくるまをかう。

小坂 秀 一

三十年後のぼくは、四十才である。車をかいぞうしてみたい。そしてキャンピングカーをつけ、キャンプをしたい。

そして料理を覚え、うちのお店の手つだいをしたい。そしてフランスやいろいろな国にいききたい。いろいろな人としりあいたい。四十才には、ローバーかOBになっていると思います。そしてテントをはってキャンプをしたい。川でつりをしたりして、自分たちで料理をして食べたい。それにスキームみんなですべりたい。

高井 英 治

三十年後のぼくは会社いんになってみたい。それがだめなら電きやにになりたい。

千 島 慎 一 郎

ぼくは、海洋学しゃかどさんかになっているだろう。そして、今八才だから、三十年たてば三十八才になっているよ。はやくおとなになって、こんなことをしてみたい

な。でもできないのなら、会社のかちようになりたいたいな。

渡 辺 英 治

三十年後のぼくは、ハイヤーのうんでんしゅになりたい。人もたくさんはこびたい。けれども、このかおじゃだめと思う。けれども、がんばればいいと思う。朝も昼も夜もしごとをしたい。おとうさんも、ハイヤーにはいつている。しんばして、電車のとるる下にある。2日たったら帰ってくる。おとうさんは、いつも帰ってくるすぐねてしまう。ねほけもする。ぼくは、かぞくのために、おかねをためて家をかかってあげたい。おとうさんのためにもなる。

渡 辺 健 三

三十年後のぼくは、電車のうんでんしゅになりたいとおもっています。もし、だめだったらバスのうんでんしゅになります。そしてみんなっから、すかれるようになります。そして、ちょっとやすみがとれたら、

長野へおかあさんとおとうさんをつれていきます。

吉 田 祐 治

工場の自動車を作る人になって、自動車をたくさん作りたいです。それから科学しゃにもなりたいたいです。科学しゃになって、エンジンを作って自動車工場にもついたりしたいです。

矢 崎 洋 祐

30年後のぼくは、タクシーのうんでんしゅになって、そしていっばいおきやくをのせて、お金をもうけてらくになりたいたと思います。そして、いろんなところをはしつたりしたいと思います。きゅうりょうをいっばいもらいたいたと思います。一回もやすまないでやりたいと思います。

大 和 健 一

30年後のぼくは科学者になっています。

そしてうちゅうにいきます。それから生物をさがして地球にかえってきます。科学者はくんれんがいるけど、そのくんれんにたえて世界じゅうで知られるほどゆうめいな人になってみたいと思います。それがだめだったらあきらめて、サラリーマンになります。そして部長ぐらいになってきゅうりょうをふやしてお金をかせぎ、楽なくらしをします。でも人の何はいもはたらいて、まじめな人になります。

依 田 直 純

三十年後は野きゅうのせんしゅうになりた。巨人にはいて二るいしゅうになって、お金をいっばいもうけて、ハンドバックをおねえさんに買ってあげるんだ。おとうさんには切手を買ってあげるんだ。そして、はんしんやたいようやヤクルトや広島をこてんばんにやつつけてやるんだ。野きゅうのせんしゅうになれなかつたら、ひこうきの

パイロットになって世界一しゅうするんだ。

野 本 裕 和

30年後は、ひこうきのばいろつになつて、いっばいおかねをもらつて、おとうさんとおかあさんにいろいろなものを買つてあげて、ゆうめいになつて、どんだんおきやくさんをのせて、いろいろな国へいって、いろんな国のえいごをならいたい。

三 村 達 也

三十年後の僕は、もう三十八才です。きつと、三十八才になつたら、いろいろなものがかわると思う。車がなくなると思う。東京はビルが多いけど、もっと多くなると思う。家もぜんぶビルになると思う。のりものは、自動になると思います。

藤 元 孝 志

ぼくはきまり正しいせいかつをします。カブのきまりをまもります。けんかをしないようにどりよくします。ぼくはうんどう

をして強い体になります。えらい人の本を読んでいい子になります。なんでも早くできるようになりたいと思います。

大 久 保 文 貴

今から三十年たつと、2かいだてのいえがなくなつて、ビルだらけになつて、こうがいひろがつてしまふ。ほどうきょうがかいだんでなくなつて、エスカレーターになり、いにくらしになると思う。

30年たつたら38才だ。こどもを2人ぐらいつくっているだろう。自動車、ガソリンがいらなくなつたらいいだろう。

若 林 憲

ぼくは、今8才だから38才になる。きつとえらい人になる。でなければ、人にやくだつ人になりたい。どんなことがあつてもわるいことをする人にはなりたくない。30年後の町は、こうがいもないきれいな町であつてほしい。

阿部 浩 昭

ほくは37才です。

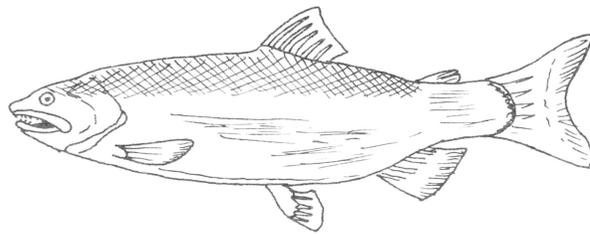
パイロットになってみたいです。そして、  
ばくだんをつんだひこうきとたかかって、  
かっぺしてみたいです。じゃんぼりよかっぺに  
のって、そのままとんでいきたいです。

鈴木 晃

ほくは38才で、野球のせん手になってし  
あいに出ているでしょう。そして、しあい  
でホームランをうって、みかたをゆうしよ  
うさせたりしているでしょう。そして、足  
の早いせん手になっているといいです。

加藤 祐 二

三十年後のほくは、会社いんになってい  
る。いいおとなになりたい。





## ボーイ隊のページ (少年隊)

### 活動報告

現在、少年隊は毎週土曜日、四時半から六時半までのペースで集会を持っています。リーダーは2人、スカウトが二十数名。二十数名とは言うものの、実際に集会に来る、いわゆるレギュラーメンバーとなるとその半数近くなくなってしまい、ひどい時にはスカウトが十名を割ることもあるというのが現状です。毎年何人かのスカウトがカブから上進してきます。さて、そのうちの何人がシニアローバーへの道を歩んでくれるでしょうか。「全部行くさ！」と胸を張って答えられないのが本音です。今年も何人かの休隊者が出ました。ある者は手紙を持って、またある者は口伝えで。「あの…塾と時間が重なるので…」こういったスカウト達に私達リーダーが何をしてあげられるといるのでしょうか。「あ、またか、ブルータスお前もか」と心中秘かに嘆くのがオチです。精神公害とか、…誰が言い出した言葉やら知りませんが、スカウト達は思った

よりもそれにむしばまれていくようです。

そしてまた、そういうスカウト達を引きつけるだけの魅力のあるプログラムの編成ができないリーダーも、ひょっとしたらスカウト達以上にむしばまれていくのかもしれない。リーダー側の技術が低下していることも否めないでしょう。当然スカウトの技術も低下します。このことは一昨年の世界ジャンボリーに、四団から一人のスカウトも参加できなかったということを見れば、すでに明らかだと思えます。「今の四団もどこか病んでいる」と言うMr・SMILEの言葉がぐさりと突き刺さってきます。隊長が正面で活動できないというのも痛いことです。ハチのアタマなしでやれ、というのはこれは大変なことです。

昔日の栄光を追い求めるといふのは無駄な話です。指導的立場というのも御免こうわりません。ただ、毎週集って来るスカウト達に希望を与えてやりたいと思うだけです。生き生きとした姿が見ればそれで良いのです。ただ、そのためには、もっとはつき

りした方向性を持った努力をリーダーがしなくては、と思うのです。持っていないというのには、それ程恥ずかしい事ではありません。ただ少くとも持てる物を最大に用いようとする姿勢は本当に恥ずかしいものです。報告にならないような報告で済みますが、これを以って、活動報告を終わりにします。

(52・3 安藤 記)

## スカウト活動に思うこと

副長補 菊池 千春

昨年の終りから少年隊の副長補として、東京第四団に加わってきた。それ迄のぼくにとつてのスカウト活動は、スカウトとして与えられた内容を消化し、発展させてゆくことのみを終始していた様に思う。今は、現実の問題として、毎週の集会について、またハイキングやキャンプのプログラムを

考えながら、スカウティングといふことの本質的な問題点を自ら感じる様になった。

個人としての自分と、集団社会としての隊や団の活動、このかね合いが、しばしば矛盾をもって具体的問題としてあらわれることがある。言葉の上では逃げ道はたくさんあるが、そうは行かない。自分で納得して解決させたいと思えばそれだけ、問題は大きくなってゆく。今、ぼくが問題としているのはチャーチ・スカウトについてのことである。個人的な問題である宗教と、団体である隊組織、さらに教育規定における宗教のとり扱い：etc 考えなければならぬことは山の様である。スカウティングの本質にもどって、じっくりと取り組んでみたい。現在、ぼくが自信をもって言えることは、チャーチ・スカウトこそが、理想のスカウトの具体化された姿であるということだ。

## 雑言

副長補 安藤 昭良

先程、「活動報告」に名を借りた、独断と偏見に満ちた独白を果たしてしまったため、改めて僕のためのスペースを与えられなくても、何も書こうと思うオビニオンがありません。ごめんなさい。それじゃ、何を書きましょうか？えーと。そう、この後のスカウトの文章は、「ここ2〜3年スカウティングをやってきて楽しかったこと、ばかりしかなかったこと。」というテーマで書いてもらったんですけど、どうしてそんな物を書いてもらうに至ったのかを少々書きましようか。その時、僕はこう言ったのです。「楽しかったことか、ばかりしかなかったこと。その両方でも良い。ひょっとしたら一番ばかりしい事が一番楽しいことかもしれないし……。」ひょっとしたら、と僕は言いましたが、ひょっとしなくてもそうなんじゃないか、と今になって考え始めている次第です。だって、そうじゃありませんか？僕が

今までスカウティングをしてきた中で、一番心に残っているのが、年長隊における3年間（受験のため実質は2年間でした。）だったのです。苦あり、楽ありの2年間、しかしその間にあったことを常人の目に立ちかえて見返すと、どうも、ちょっと、確かに僕にとっては素晴らしい2年間ですが、いわゆる常人の目には少々異常に見えるようなことばかり。たとえば初めての移動野営、三日目にして僕はフライテントをどうしたむか、という単純な理由で一年上の先輩とケンカしています。常人にとってはケンカというのは極力避けるべきものなのかも知れません。しかしながら、僕にとっては、あのケンカは本当に貴重な物でした。そして僕は今にしてそのことを「楽しかった」と確かに自信を持って言えるのです。みなさん、ばかばかしいこと、無駄に思えることを決して軽んじてはいけません。その姿勢で生きているうちには、みなさんの生きている世界が、とてつもなく退屈で、平凡で、うつろなものに見えてしま

うでしょう。生きることすらも馬鹿馬鹿しく思えてくるかもしれません。でも、でもそれは違います。馬鹿馬鹿しいと見えることに価値を見出すことこそ、生き生きと生きる第一歩だと思ふのです。スカウト諸君、僕は君達に、いわゆる「常人」になって欲しくはない。世の中にはどうやら創造的な人とそうでない人の二種類がいるようです。僕は君達には何としても後の方になってはもらいたくないのです。そうならないために、ガンバレ、スカウト達、いや、一緒にガンバろうよ。ね。



ここ二、三年あつた一番  
楽しかった事、又は一番  
ばからしかった事

皆 沢 嘉 幸

48年の12月に入隊していらい、三年と少し、あつというまの年月だった。

生まれて初めてのキャンプ、今思えば、ホームシックになやまされたことも、楽しかったことだ。班員にいびられながらも、班長にやさしくいたわられながら、いっしょけんめいにごしてきた。なにしろ初めての体験だから、なにからなにまで新鮮にみえた。

初めてのときは、今思えば、ばからしいこともそのころは、いっしょけんめいにやってきた。なにごともしょうけんめいやることはよいことだ。なんか話したいにずれてきたからもとにもどしたいと思う。

ボーイでいちばんの楽しみは、人をだし

ぬいて進級できるということにあるかな。それから一般の人の知らないようなことができるということ。キャンプ、ハイキングと野営活動ができることだ。

以上の3点が、ぼくがボーイスカウトに入ってよかったことだ。

永 山 茂 樹

僕は46年にボーイスカウト東京第四団に入団してから、楽しかった事、馬鹿らしかったことなどは何も無い。ただし目標がある。世界ジャンポリーに参加すること、そして四団をもっとまとめて、ガール・ボーイ合同で数々の行事をやっていく事である。そして、現在の人数の倍のスカウト数にして、日本中に知れわたるようにしたい。

金 子 和 樹

昭和48年に、年少隊から少年隊に上進し、あと何日で年長隊に上進しようとしている。このぼくは、この世界に入って7年になる。あつという間に過ぎてしまったような気が

するが、別に今さら過去のことを言う気はなく、これから精いっぱい活動したいと思う。

海老原 伸 一

昭和48年に、初めて東京4団に入つて以来、楽しいことやつらいこといろいろあつた。しかしあと数日で、年長隊に上進する時期に来た。

東京4団にはいって、はや4年をむかえる。この間、ボーイスカウトでは、春の舎営キャンプや、夏の野営できたえられ、よりいっそう大きく人間的に成長したと思う。しかし3年間のきびしい訓練もあつという間に過ぎてしまったような気がする。

そして、あと数日で少年隊を去り、年長隊に上進して、このボーイスカウト生活の経験をじゅうぶん生かしたいと思う。

大内 理人

ここ2、3年でおもしろかったというか、楽しかったことは、昭和52年度大島の舎営だ。出発は夜の午後9時頃。晴海から東海汽船で一夜を過ごし、到着は翌日の午前5時。船に乗ったことは何回もあるが、船で夜を過ごしたのは、この時が初めてだったので印象に残っている。そして3日目、班で大島をサイクリングした。最初は楽な道だったが、途中から坂道、平道、坂道、平道の繰り返しで、ヘドがでるほど苦しかった。大島の舎営ではこのくらいだが、その他には51年夏の野営でのリンツに参加したことです。この時は小雨が降っていて、しかも食用油をわすれてしまい、夕飯が半減してまった。

反対にくだらないと思ったことは、毎年バザーでのスカウトの出し物がくだらないと思う。お客を扱い、金をとっているのだからもう少し工夫するとよいと思う。

池 沢 英一

昨年ナイトハイクに行ったのが、一番楽しかった。金子君の班に入って、10時半に新宿を出発した。伊勢丹のあたりで、よっぱらいに話しかけられた。あまりからまれなかったのよかったです。学習院のあたりで金子君が中学生講座を始めたので、ぼくと土屋と小崎でそれを聞いていた。駒込あたりになり、気がついてみると道がわからなくなってしまう。やっとのことで交番を見つけたら、その巡査が全然たよりにならないので適当に行ったら、どうにか道がわかった。

いちばんつらかったのは、日暮里のあたりで弁当を食べた時が一番寒かった。それからずっと歩いてきたが、上野にけっこう人がいたのにはおどろいた。大手町で車道の真ん中を歩いた時はおもしろかった。大手門でまた茶会を開いていたら、門番に文句を言われてしまった。

いろいろあったが、これが一番楽しかった。

井 原 操

昭和五十一年の春に、大島へ舎えいに行った。この時におこったのが「大島コンクリート事件」である。

大島でのハイキングは、班ごとにそれぞれ計画をたてていた。ぼく達スワローズ班は、大島一周の計画をたてた。

朝ユースホテルを出てバスに30分ほど乗り、ハブ港まで行き、そこから

2時間30分ほどあるいた。その時ぼく達の前に、地図を作っている人がいたので道を聞き、そのとうりに行った。森の中を下っていくと海岸にでた。そこに道があるはずであった。しかしそこはガケつぶちで道などない。その時12時を回っていたので、火をたいて、昼食を作った。とてもうまくいった。ここからが問題である。地図の上でいけば、北へ向ってこの森を、5kmほどよこぎれば道に出られるはずだった。しかし道がないかもしれなかった。しかし、それにちようせんした。その森には、地図に出ていないが道があったので、それを通

って行った。しかしその道もなくなり、もう完全にぜつぼうした。太陽の光は、うしろにある山にすいこまれて、うすぐらかった。しかし、北へ向って道のない所をひっしり歩いて行った。何時間位あるいただろうか、はるか下に、日の丸の国旗が見えているのだ。「そこへ行けば、人がいるだろう。」と希望をとりなおし、そこをめざして歩いて行った。すると一本の道があり、そこを下って行き、やっとあの旗の所についた。その時、ついて来た小沢リーダーの級友がそこにいた。つり部で来ていたのだ。そして道を聞き、大通りへ出るために坂を登っていった。すると、ぼくたちの班のT君が、もうあるけないと言って坂道にすわりこんでしまった。小沢リーダーが、T君をひっぱり、ぼくたちは少し先に行った。

その時隊付の金子君と、「夕日を見るんだ」と言って走って登っていた。左右のぞう木林のつらなりがきれた時、そこには、砂丘がひろがっていた。三原山にしみかかった、まっかな夕日がぼく達の影を長くつく

っていた。その砂丘をあがって行くと、大きな道に出た。ぼくたちは、そこにねころがった。すると下の方から、小沢リーダーにおされてきたT君が来た。

ここから「大島コンクリート事件」がおこるのである。

コンクリートの道に入ると、さっきまであるかなかったT君が、さっさと歩き、ずっと先の方へ行ってしまった。ぼく達は、車に乗せてもらうために、手をあげてがんばっていた。15台目で、やっと乗せてくれると言う車があり、ぼくたちはうしろのざせきに乗った。その時、チャッカリT君が、トウゼン乗るといいたいどで、もどって来た。そこでわざと車をうごかし、T君の横をとおると、T君は何ともいえないかおをしていた。

これが、「大島コンクリート事件」である。今でも、都会の道で、はるか前を歩いている太った少年を見ると、あの時の事を思い出す。

あの夜、ぼくは班ごとこの教会で、テントをはって寝るために来た。来るとすぐめしを作る。ちょっと家の用事でおくれた、そのことを班長のT君に言うと、「まあ、いいだろう。ところで軍手、はんごう持って来たか？」そうだ！ぼくは割あてで、ハ

ンゴウ、軍手、コメなどを持ってくるはずだったのだ。「わすれた」と言うと、「きちがい!!」とT君。さいわいぼくの家は自転車ですぐ行けたので、とってきた。暗くなるころ、めしを作りはじめる。こん

だてはわすれた。とにかくそれを食べる。忘れていたが、わずか4人(おそらく)の班員で、2人でめしを作る。のこりの2人でテントをはる。寒い日で庭でふるえていると、あのいまわしいリーダーAの集合のふえがなった。リーダーAの話によると、例によって、印を追ってどこかへ行くやつ(ついせきハイク)をするのだそうだ。まず、4班あるので順番にでて行く。ぼくたちは一番最後であった。まず、いままでの

例からして、ひかわ神社でかんけりでもするのだらうと思つた。みなそのように考えたのだらう、行ってみるとみんな来ていた。事実サインはそこでできていた。しかし、みなはアベックをからかつたりしていたが、リーダーのAたちは来ない。おかしいなと思ひ、先に行つて見る。三つの班がいっしょになつて歩いていき、六本木まで来た。しかしなんのサインもない「これはおかしいぞ」と思ひ、一同でもどつて見ることにした。さて、いざ教会にもどつて見ると、リーダーAが「おまえらどうしたんだ」と問う。「サインがないんです」と答える。青山ぼちのどことだとおしえてくれた。なんということだ、六本木まで行つたのに、苦勞して行つて見るとリーダーTがいた。みんなの来るまで、「目黒エンペラー」がどうのこうのなどと話して、けっきょくそれで帰つて、寝たのは12時すぎであつた。そして起きたのは5時、ああばからしい。

小崎 公平

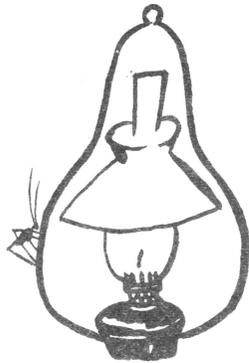
昨年の春、大島に舍営へでかけたとき東海汽船にのつた。その船の船員は、僕たちに対して、あまり人間あつかひをしてくれなかつたのでとても頭にきた。ぼくたちの荷物が大きいのもんくをいつたのである。ぼくたちはちゃんと、荷物だいをはらつたのに……。そしてろうかにはみだすくらいにやつと入つたときにくらくなり、二時間くらいしたらみんなだねてしまつた。ところが一時を回つたときに、きゅうにゆれだした。すると「うおー」といいながら、口をおさえてトイレにかけこむ人などが、ぞくしゅつした。大島についたが雨で、けっきょくさいごまで雨でつまらなかつた。かえりの船でなんとあの船員とまたでくわしてしまつた。小ざわさんはまるでなぐりかからないかのようにだつたが、そこはボーイスカウトせいしんでこらえたようだった。あのような人間にはならないように、こころがけてこれからのスカウトかつどうをおこないたいです。

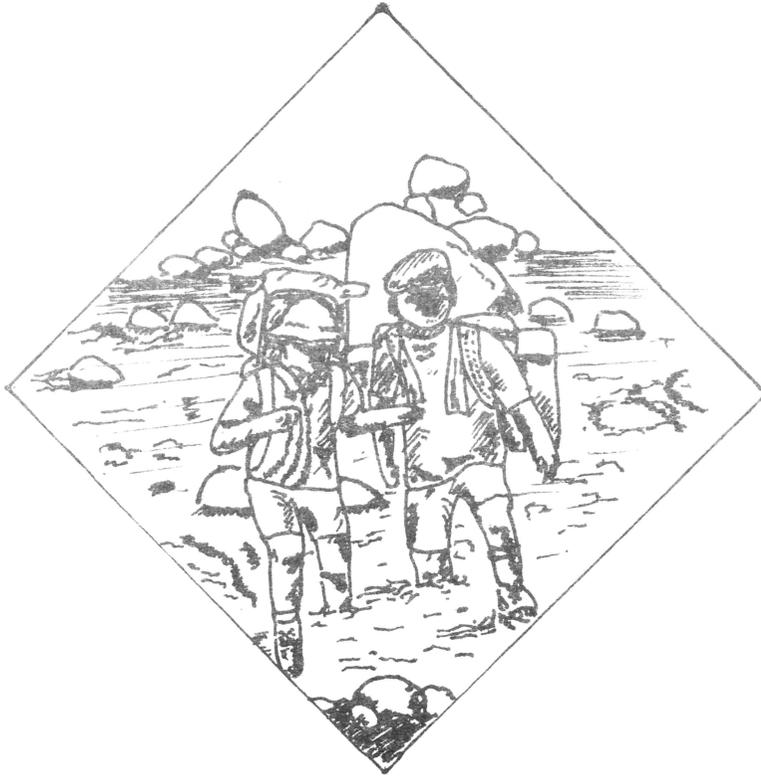
加藤 隆 弘

ぼくは、一年ボーイスカウトにはいって、おもしろかつたことやつらかつたことがあつたけれど、ぼくは一ばんいんしょうにのこつておもしろかつたのは、一泊キャンプだ。ボーイスカウトにはいってはじめのことだ。カブスカウトとくらべてちがうところは、まずごはんを作つてもらうのではなく自分で作るのだ。しかしぼくはその方がたのしい。それからテントでねることだ。ねぶくろでねるのは二回目だがたのしい。しかしたのしいだけではない。つらいこともあつた。つらいことは班で一ばん下なので、なんでもいいつけられることだ。たとえば、まきをはこんだり朝はやくおきたりすることだ。しかしぼくはキャンプがすきだ。その理由は、ねぶくろでねたり、自分でごはんを作つたりすることだ。しかし去年のキャンプは、塾でいかれなかつたので、今年のキャンプはいこうと思ひ。

ほくは5ヶ月間、ボーイを休隊していたので、とくにおもしろいことはあまりない。

その中でとくにおもしろかったことは、テントはりのれんしゅうだ。ほくははじめたので、わからないことばかりだった。これはキャンプのときのためのことなので、ぜひおぼえておきたいと思った。テントの材料がたりなかつたりしてくろうしたが、どうにかそろったときはうれしかった。2級の人が手本を見せてくれたので、やっとテントのはりかたがわかった。ほくたちのテントはひもがたりなかつたので、いろいろなところをさがして、やっとみつけた。わからないところは班長が教えてくれた。やっと半分できたが、ほかの班はもうすぐできそうだったので、ピッチをあげた。できあがってリーダーが点検した。ほくたちは、土のもり上りをなおすように言われた。班が悪いところをなおしたら、こんどはたたみかたをやった。たたむのは、はるよりむずかしくわからなかった。テン





シニア隊のページ  
(年長隊)

活動報告

昭和四十七年度より昭和五十一年度までの活動を報告します。

昭和四十七年

上班 杉田英彰 三島完次 隊長

龍 忍 小林 裕 日下部英一

高橋徹次 平林厚幸 副長

渡辺 博

原 陽一

春 茨木泉南守谷町にて一泊キャンプ

夏 能登半島移動キャンプ(七十km)

秋 歌集製作

冬 第四回雪中キャンプ(妙高高原)

(ガールスカウトと交歓会)

昭和四十八年

上班 三島完次 安藤昭良 隊長

小林 裕 日下部英一

副長

渡辺 博

原 陽一

小池四郎

春 I C U にて一泊キャンプ

冬 第六回雪中キャンプ(妙高高原)

副長

夏 木曾移動キャンプ(六十km)

原陽一

秋 パン製作

昭和五十年

飯泉和行

東京・茨城県間六十km ナイトハイク

上班 安西武彦 大内真人 隊長

冬 第五回雪中キャンプ(妙高高原)

鈴木隆太 筒井雅隆 日下部英一

。温い食事、テーブルで食べられるよ

副長

うになった。

渡辺 博

。スキー講習会を行なった。

原 陽一

秋 ワッペン製作(三十周年記念)

冬 神津島キャンプ

三十周年記念行事運営  
(渡辺 記)

昭和四十九年度

上班 安藤昭良 安西武彦 隊長

龍 忍

鈴木隆太 日下部英一

三島完治

小林宏之 副長

春 新人スカウト歓迎会

伊藤武司 渡辺 博

夏 ベンチャーキャンプ参加

原 陽一

秋 芦ヶ久保ナイトハイク

飯泉和行

冬 第七回雪中キャンプ(妙高高原)

。新入スカウト二名に行う

夏 北海道千歳原にて日本ジャンボリー

参加

昭和五十一年度

秩父移動キャンプ

大内真人 須賀宏明 隊長

秋 年長隊十五周年記念トレーナー製作

筒井雅隆 渡辺 博

十五周年記念式典

### 年長隊活動理念

年長隊は、現在までのさまざまな活動を、次の四つの行動理念を柱として運営して来ました。

- 一、野外技術の習得
- 二、自主性
- 三、協調性
- 四、責任感

まず第一の野外技術の習得は、一級以上の技術を持つことが望ましいと考えま

す。ボーイスカウト活動の特長は、野外活動にあります。したがって、読図、調理、設営、縛材に関しては円滑な展開が出来る  
ことが、あらゆる活動の基本となります。

次に第二についてですが、あらゆる計画は、スカウト自身の自主的な立案によって行なわれることが基本であります。その中で私達リーダーの役割は、計画の安易性、つまり努力せずに簡単に行なえるもの、危険なもの、ボーイスカウト活動になじまないもの等に対しての良き忠告者の役割を果たします。第三の協調性につきましては、あらゆる活動を通じ、人の和なくして成り立たないという事、活動そのものが協調性という太い絆を介して成り立つことを学んで欲しいと思います。最後の責任感、これは自分の受け持った事については断固として最後まで遂行するという事、活動の中では人間性の本質にかかわるのだという事を学んで欲しいのです。以上四つ掲げましたが、特に(一)(二)(三)(四)に関しては、どの過程(カブ、BS)、どの教育分野(家庭、学

校)においても唱えられていますが、ボーイスカウト教育においては、野外活動こそが、これらの大切ではあるが恐ろしく抽象的な言葉を具体的提示物として、実感をもって教えてくれるのであります。つまり、自然こそが最良の教師であり、学ぶべき事の多くが自然界との接触より得られること、これこそがボーイスカウト全課程を通じ、共通の理念だと思えます。

## キャンブ！

原 陽 一

スカウト活動のなかで中心的な位置を占めるキャンブが持つ意味は、人によって様々だとは思いますが、何といても一番大きいのは、普段とはちがう自然のなかで、全力を出して共同生活を営むということではないでしょうか。そこでは、週一度の数の時間の集会ではなかなかわからない一人ひとりの長所や弱点も明らかになって、私たちの成長を助けられるとともに、各々の

日常の生活を新たな眼で見直す機会が与えられます。

私自身にとって最も印象に残っているキャンブの一つは、シニアスカウトとして経験した第一回目の雪中キャンブです。私たち東京近辺に住むスカウトにとっては、雪のなかで野営するということが体が一つの冒険であり、一九七〇年三月に行なわれたこのキャンブも、先輩たちの数年にわたる準備や研究の産物でした。私たちにとって初めての試みだっただけに、皆出発前から緊張しており、出発当日は上野駅に着いただけで、早くも目的地である妙高高原から寒い風が吹き込んできているような感じを持ったものです。現地に着いてからは、吹雪のなかで雪を踏み固めて雪のブロックを切り出し、それで壁をつくってそのなかにテントをたてるという作業にとりくみましたが、この時改めて、みんなが自主的に協力しあって仕事をする事の楽しさと大切さを感じさせられたことを覚えています。料理も食事もある雪の上ですから、鍋の煮物が

ちょうどできかかった時に、火の熱で下の雪が溶けてカマドがひっくり返ったり、熱い紅茶をみんなに配り終っていよいよ飲むという時には、すでにアイスティーになっていたなどということもありましたが、終りには誰もが「行ってよかった」と思えるようなキャンプでした。

今後より多くの仲間たちが、このようなキャンプの味わいを知ることができるように、私も微力ながら努力したいと思います。

## 木曾の移動キャンプ

渡 辺 博

私がリーダーに成って早五年経ち、幾つか楽しいキャンプを経験しました。その中でも一番思い出深いのは、一九七三年木曾福島、中津川間の移動キャンプです。参加スカウトは、当時高二の三島君と高一の安藤君、それに渡辺、原、小池の三リーダーであります。木曾福島駅に着いたのは午後

二時頃だったと思います。駅にて、わらじならぬキャラバンシューズとTシャツ、短パンの現代旅姿に身を固め、いざ出発とあいなったのであります。ところがどっこい、今の今まで晴れていた空に暗雲一つ二つ、みるみる真暗の大粒雨、第一夜の上松にはみるも無残のびしょ濡れ姿で着いたのであります。着いたには着いたが、さてどこに泊まろうか、地図を開き、こと指したお寺に来てみれば、山寺の和尚さんひとにらみ、「君達ここに泊まりなさい」、地獄に仏とはこのこと、今日のお宿はお寺の幼稚園となりました。翌朝、境内の掃除、廊下の雑巾がけと、しばしの御奉仕、身じたく、お礼を述べ今に宿場の面影残す上松後にし旅立ちました。空は青空、緑はまぶしい、足どり軽く木曾五人衆三度笠、と思いきや、そろそろ始まる移動キャンプ病、前方15度傾き、足の運び少なく、ふらふら夢遊病、この病気にかかるのは移動キャンプ一年目のスカウト、二年目からは免疫が付きかかりません。病気にかかった安藤君、みんな

で励まし合いながらのんびり二十km、今夜のお宿は村の公民館前庭、村の人は親切で、キューリだ、トマトだどっさり、ほんとうに有難い事です。これも移動キャンプならではの一場面、三日目はあの有名な妻籠の宿、旅立ったはいいいけれど一年生は体力不足、歩く姿に疲れがみえます。木曾川の対岸の自然道をすたすたと、途中二キロに一軒のお寺の軒先借り、お昼をたべて、相撲して、高いお山に目を向ければ、足も休まりさて出発、歩けば先はがけ崩れ、戻れば時間もかかり、くたびれ損、最後に残るは木曾川渡り、渡り渡り堤防見れば「サイレン鳴るとダムから水の放出あり、増水するから気をつける、中部電力」、気は逸るが川巾広い、なんとかかんとか無事たどりつき、安心安心とあるき始めれば、目的の手前一キロの神戸という無気味な所、がれきの河原にテントを張ると暗雲より大粒雨、肩よせあって寝たのも束の間、テントの中は川床と、たつき起され無残な一夜を過したのであります。

翌朝の気持は、あの低くたちこめた鉛色の雲の様、気をとりなおし一気に妻籠の宿を通り抜け、エネルギー不足の安藤君を、しりたたき、しりたたき馬籠峠、男の意地もこれまでかと思いきや、はいつくばって辿り着く「峠の茶屋の湧き水のうまさかな。」登り切って遙か後方に濃尾平野、あの雨空ともお別れ、空は夏空、日ざしはまぶしい、下りは快調、移動キャンプ最後のお宿は中津川市手前四キロの落合村の神社の境内、ちょうど門前のおみやげ屋さん。御主人の親切にあまえて、今日は久々のお風呂をいただき、汚れたあかをさっぱり落とし、いりり困んで五平餅つつけば、長い通のり今いずこ、「後は四キロ、どうってことない」と、安藤君の声にも旅で付けた自信がちらり、彼を終始リードした三島君も何かほっとした様子。こう言い私も甘露、甘露の高笑い。斯くして、木曾福島、中津川間六十キロの五人衆三度笠、明日をもって終幕とあいなだったのであります。

## 雪中キャンプ

小池 四郎

雪中キャンプの計画が打出されたのは昭和四十三年のことであった。当時シニアの上班であった渡辺博氏らが、春休みを利用して何かシニアスカウトらしい野外活動を行なおうと雪中キャンプの準備が始まった。しかし、この時には実現まで至らなかった。翌昭和四十四年春、ブレ雪中キャンプの性格をもつ春期耐寒キャンプがボーイスカウト山中湖野営場で行なわれた。このキャンプが私の年長隊に入って初めてのキャンプとなった。出発の前日スカウトハウスのダumasトープを囲んで、キャンプ場の下見に行った盛田・小松両氏より、現地では雪が三十センチ以上積っておりキャンプを行なうには相当の覚悟が必要である旨の注意を受けた。杉田・原それに私の新米スカウトは、えらい事に首を突込んだものだと心底ビビったものだ。しかし現地に着いて、雪の「ゆ」の字もないのを知った時、ほっ

と安心するよりも雪の存在を我々に信じこませた両氏のリーダー根性に感心したものである(尚、その後の両氏の弁明によれば下見の際には本当に雪があったそうだが、その真実性は我々の間でかなり疑惑が持たれている)。さて、雪はなかったものの水は氷のように冷たく、皿洗いを配分された我々新米スカウトは一つしかないゴム手袋を交代に使って、皿を懐中電燈の下で夜洗ったのがつい最近のことのように思い出される。

昭和四十五年雪中キャンプが実施されることになった。場所は池の平にある 堂庵の畑を、御主人である中川豊久氏の御好意によりお借りすることになった。期間は三下旬と決まり、本格的な準備は年明けから始まった。本格的な雪の中の生活が初めてな者ばかりであったが、生活の基礎だけは確保しようと集会毎にない知恵を出し合っ

て考えぬいた。テント内にはビニールシートを敷き、その上にエアーマットを敷いて寝ることとし、カマドは菓子カンのコン

口を作りマキで炊事を行なうことにした。これらの発想が、いかなる悲劇を体験させてくれるものであるかは無知な我々には知る由もなかった。そうするうちに春休みとなりいよいよ実行段階に入った。冬型の気候は三月下旬になっても衰を見せず、我々は吹雪の中で設営することになった。雪が乾いているためブロックがなかなか切り出せず、テントの周囲のブロックが完成する頃はもう日が暮れていた。悲劇は夜我々を襲った。テント内に敷いたビニールがつるつるすべするため、寝ている間にエアーマットからずれ落ちることがあり、又、マットの上でもビニールに断熱効果がないため、マットの中の空気が冷え氷まくらの上に横になっっているようで、いくら着こんで寝ても寒くて寝ていられない。このような夜が三日間続いたのである。食事の面では杉田君が非常に苦労した。コンロに欠陥があったのか、準備段階での炊飯の練習にもかかわらず毎回がんだ飯が出来上る始末で、杉田君が「がんだ直しの杉田」の名を受ける

ことになった。この食事面での苦労は帰りの車中で、遠チこと遠藤友紀夫君が「日々の糧」を寝言で歌ったという事実にも最大限象徴されている。紙面の都合上あまり詳しく書けなかったが、とにもかくにも全員無事で計画を終了することができたことは何よりも幸いであった。

このキャンプ以降、昨年まで試行錯誤をしながら雪中キャンプも進歩してきた。しかし、それによって居住条件が良くなるとともに、スカウトに課せられる試練は減少していく。スカウト活動の本質が、自然環境における共同的活動としての試練の克服を通じて、協調精神を養い友情を深め合うことにあるならば、雪中キャンプもさらに他のプログラムへと発展的に転換されていくことが望まれる。最後にこの七年間、雪中キャンプに深い御理解をお示しになり、温い御援助をして下さった中川豊久氏と御家族の方々に御礼を述べ、筆を置くことにする。

安 西 武 彦

## シニア紹介

我が東京第四団シニア隊は、リーダー三名、スカウト五名で構成されている。集会は土曜日の午後五時半から。

シニア隊の特長は、と聞かれて真先に思い浮かぶことは、活気にあふれているという事です。ことにキャンプ直前になると、みんなの顔が一段と輝いています。シニア隊とは、高校生ばかりが集まっています。そして集会計画も、キャンプ計画も全て自分たちで考えるのです。リーダーは助言やアドバイスをするだけです。ですから、へたをすれば、集会を開くことすらできなくなってしまう。私は思います。自由とはむしろ何かすると、何物よりも強い拘束かもしれない、と。そして、このことを強く感じ取れることができる所がシニア隊です。ですから、厳しい中に生まれた協調とか連帯とかいう結び付きは本当に強いものだと思います。

つたない筆で書き綴りましたが、わかっ  
ていただけましたでしょうか。

## 理想の女性像

理想の女性像か。一口で言うとしたら、  
和服の似合う人かな。つまり僕が純日本  
な男だから女性にも日本人らしさを求  
めているのかもしれない。しかし理想  
の人というのは、変わるものだと思う。  
つまり自分が愛した女性がたとえ己の  
理想像と違っていても、その人が理想  
となってしまう事もあると思う。

生まれてからやっと十九年の僕に、  
こういう間は非常に酷なのだが……  
つれづれなるままに書き綴ってみた。果たして……。

## スカウティングについて

scout…斥候、scouting…scout

の現在分詞形、偵察機としての意もある。

〔三省堂クラウン英和辞典参照〕

要するにスカウティングとは、斥候のよう

に調査し、偵察し、そして前進するのだ  
と思う。僕たちが活動をしていく上にお  
いても、この事は念頭に置いておかな  
ければならない事だと思う。しかし、  
必要なのは、計画と実行する為の行  
動力だと思う。スカウティングとは、  
すなわち行動という事だと断言して  
おきたい。

## 私のプロフィール

スカウト紹介で自分のことを書けとい  
われて、はたと「困ったな。」と思っ  
た。自分のことほど書きづらいもの  
はないからである。要するに自己  
紹介を書けば良いのだが……。

まず、大学のことについておこう  
と思う。今年の四月から二松学舎  
大学文学部に進学することが決ま  
っている。やはり、なかなか筆が  
進まない。

私の性格だが、これは書きにくい。  
一言でいえば、明朗である程度短  
気というところかな。しかし、他  
にもまだまだあるのだ

し、性格などは、だいたい自分ではよく  
わからないものらしい。

私は四月からリーダーになると思っ  
ている。自分の全てをぶつけてがん  
ばってみたい。これ以上書きようが  
なくなってきた。この位の文章で  
私のことがわかるわけがない。し  
かし、普段の私を見ていただけ  
れば、あるいはわかるかもしれない。  
相当、自分から逃げてしまっ  
たが、勘弁して下さい。



## 理想の女性像・

### スカウティングについて

一言で言うならば、私の理想の女性とは、大変にしっかりして退屈しないさっぱりした気のきく個性的な人が理想です。私達ぐらいの年令は、年上の女性にあこがれるのが正常だから、私も御多分にもれずそうだが、女性を好きになる事と愛することは違うと思っています。私は、愛するという言葉が好きという言葉の何倍も重いことを知りました。でも、やっぱり女の人を好きになるのは恋すること、恋することはその人を愛することなのかもしれない。好きな女の人ではなくさんいるけど、理想の女性というのはなかなかみつからないものです。次に、非常にかたい事について書きます。スカウティングについてですが、自分にとってのスカウティングとは、人間関係の輪を広め視野を広める事だと思っています。ボーイスカウトの活動はスカウティングで

はなく、ふだんの生活の中にスカウティングというのが含まれているのだと思う。だからスカウティングがあつて初めて、スカウト活動になるのだと思う。

### 私のプロフィール

△氏名▽筒井一雅 △級▽一級 △スカウト歴▽六年 △主な経歴▽少年隊上級班長約二年間、年長隊上級班長、年少年臨時隊付など △年齢▽十七才 △生年月日▽一九六〇年三月十七日 △学校▽都立九段高校三年 △主な活動▽第六回日本ジャンプリー参加 キャンプ三回 移動・雪中キャンプ各一回など △趣味▽スキー、歴史、音楽(クラシック&ソウル)、旅行、料理など △クラブ▽サッカー部(部長) △得意な科目▽地理、世界史、体育、現国 △不得意な科目▽英語(嫌いではない)、化学 △性格▽私の性格は、と自分で書くのもおこがましいが、しいて言えば、何事に対しても積極的な態度で臨む事である。しかし、それ以上に、言う事が派手なので

言うだけで実際に行動していないように思われる所が欠点だ。そして、言葉使いが粗暴な為に各隊リーダーから煙たがられる存在だ。でも自分としては、努力して良いリーダーになりたい。こんな少ない紙面では、自分の良い点を書けないのが残念だ。紹介終り。

大内 真人

### シニア紹介

ボーイスカウトというところは、カブ・ボーイの時に基礎を身につけ、シニアはその基礎が身につけていることを前提として活動をするところです。カブ・ボーイの時は集会に出るとリーダーからやる事を与えられたり、技術を教わったりしていました。しかしシニアはリーダーから与えられた事をやるのではなく、自分達でやりたいと思つたことを行なえばよいのです。例えば自分達がキャンプをやりたいと思えば、計画

書を書き、それをリーダーに見せて、もしリーダーと一緒に行ってくれるならそれでキャンプに行けるのです。また極端な例をとれば、集会を毎週土曜日に決まって行なわなくてもよく、自分達の都合のいい時に皆で集まればよいのです。しかしそれゆえにスカウト自身の責任も重く、自分達が一担言い出した事は、最後までやり通さなければいけないのです。けれどもそんなに形式ばったところはなく、「私はリーダーだ、私はスカウトだ」という事にとらわれないなどやかな雰囲気の際はです。

### スカウティングとは

スカウティングとは「思考力」と「実行力」を養うことであると思う。何故なら人間にはこの二つが必要であるからだ。人間考えるだけで実行が伴わなければ、計画倒れで何の解答も反応も得られないし、何も考えずに唯事を行なうだけではあまりに無謀で必ず行き詰まり失敗する。つまりこの両方が兼ね備わってこそ物事をよく考え、

またそれをきちんと実行できるのである。だからこういう一人前の人間をつくるのがスカウティングであると思う。

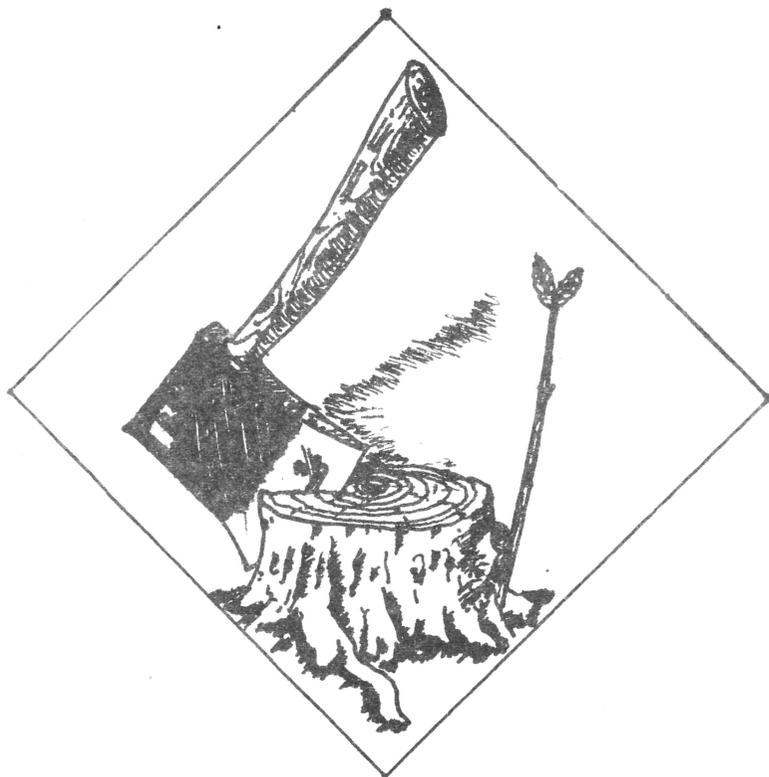
### 理想の女性

外面的・顔は美人タイプよりはかわいいタイプの感じで笑顔のとってもかわいい人。全体的に見ると自分がやせているせいか少し(ほんの少し)太めの人。背は自分より低くて、目のきれいな人。内面的・まず何を聞いても優しく暖かみのある人。あまりおとなしすぎる感じでもなく三枚目の感じでもなく、その中間ぐらいの人。一見気が強そうだけど実はたいへんもろい人。これが理想の女性です。はい。

### スカウトからの活動報告

シニアは今年一年間、スカウトは実質二人だけで行ってきました。だから幅広く色々な事が出来なくて残念でしたが、こじんまりとして全体的にまとまっていたようです。活動の中で一番大きかったのが、夏の

移動キャンプです。今年は、岩手県の岩泉から田老というところまで48kmを歩きました。我々としては初めての経験なので色々まごつきました。失敗したことは数多くありましたが、やはり無事終えたということで、満足感はあるものです。他に団行事であるキャンプファイヤー等を手伝ったり、合同礼拝の準備をしたり、小さなことではスカウトハウスの窓ふきや、我々の部屋の改造をしたりしました。一泊キャンプも計画したのですが雨で中止してしまい、根性がなかったと反省しています。他にも計画はあったのですがスカウト二人でやるには少々手広過ぎて、実行へは移せませんでした。また十二月からは、四団の三十周年にあたってスカウトの手で四月三十日の会食を準備したり、ワッペンを作ったりしようということ、レンジャーと合同でその計画を進めています。



## ローバー隊のページ (青年隊)

ぼくたちのローバー活動

朱 鴻 梁

ローバースカウトって何をしているのだ  
ろうかという疑問を持っているスカウトが  
多いと思う。現にBSのあるスカウトが「  
ローバーは何をするのですか?」「ローバ  
ーってリーダーじゃないの?」「リーダー  
とローバーの見分けはどこですの?」そ  
の答に「ローバーは何をやるかは人によ  
って違うから答えることは難かしい。」「ロ  
ーバーは各隊にリーダーとして奉仕して  
いる隊員が多いけれど、このリーダーとし  
ての奉仕はローバースカウトとしての一つ  
の活動であるんだ。」「ローバーとリーダ  
ーの見分けはガーターの色で見るとだよ。カ  
ブはソックスに黄色線が二本あり、BSは  
線のガーター。シニアは紺色のガーターで、  
ローバーは赤色のガーター、そしてリーダ  
ーはBSと同色の緑色のガーターを付けて  
いる。ついでに年功章の座台の色も同色で  
あって、その色の年数でそのスカウトが

の隊に何年いたのかがわかるのだよ。」といった問答があったり、ローバーは何もやっていないじゃないかと批判されたりしている。一部の人はローバーはカブの副長補を行なっていて、そしてキャンプではリーダー不足の隊には奉仕リーダーとして行ったり、GSのキャンプでは手つだいをするものであると思っている人が多いのではないだろうか。このようなこともローバー活動の一部かもしれない。しかし、これだけのことからローバー活動でないと思う。

ローバー活動とはこのようなものだと一口で言うのは難かしいものであり、また原稿用紙で一人五枚の割当ではどれ位のことか書けるかわからない。そこで、ぼく達RSコスモス班の活動となっている表面的なことを、カブやBSのスカウトにわかりやすく書くことにした。

カブの集会を見ると土曜日の二時半に集合し、教会で集会を行なっている。これは定期集会であり、キャンプ、ハイキングなどの特別集会とによって成り立っていて多

多くの人数が集まり活動しているので目に付きやすく、多くの人々がこのように目で見えていることがスカウト活動であると思っっているのではないだろうか。それに対してローバーは、大学生の年代のスカウトが集まっていて、学生もいれば就職しているスカウトもいてプログラムも自己修養が目的となっている。その為に土曜の何時に教会に集まって集会を行なうということがほとんどないので、目に見える活動が少なくローバーの集会を見たという人はあまりいないのではないだろうか。

それではローバーは何をするのだろうかというと前記したように自己修養が目的となっていて、各個人のプロジェクト活動が、今のぼく達RSコスモス班の中心となっている活動である。このプロジェクトとは何なのだろうかと疑問があるだろう。話しは少しズレるが、ぼくがローバーへ上進したときは、一枚のプリントを渡されただけでそのプリントには「自分のカヌーは自分でこげ」とローバーリング・ツウ・サクセス

の一節が書かれていた。この文はカブでの「自分のことは自分でします。」という意味も含まれているがそれだけでなく、とても深い内容の言葉であってぼくはこの言葉の内容を「自分の行動することは自分で考え、自分で決めて責任を持って行動する。」と考えることができると思う。このプリントをもらって四年過ぎた今、少しローバーの活動がわかりかけてきた。

プロジェクトの話しにもどすと、このプロジェクトとは自分で問題(プログラム)を持ち、次にその準備・計画をする。そして実行する最後に反省・評価を受ける方式である。

このような活動を行なっているのがローバーであり、この活動を直接にスカウト達が見ることが少なく、関係者以外はあまり知る人がいなく、またプログラムを考え、準備・計画まで進んだが実行できなかったということが多くあった。このような活動である為に、ローバーは何をしているのだろうかという人が多い原因の一つだと思ふ。

ここでRSSコスモス班のことについて書かせてもらおうと、今田隊長と四名のスカウトで成り立っていて、各自のプロジェクトは各自の紙面で紹介があると思うので自分の今行なっているプログラムと小宮君のプログラムを書かせてもらう。小宮君は東京から大阪までのハイクを計画し、今ハイクの途中であるので代わりに代筆させてもらっている。彼はこのハイクと写真集のプログラムを計画し行なっている。

ほくのプログラムは大ざっぱなことであまりわからないと思うが、①リーダーについて(抽象的であるが) ②小型器具・軽量食料・非常食についてであり、この内のいくつかは三十周年で展示発表する為にローバー活動をよりわかってもらえると思う。大ざっぱな活動説明であったのでわかりずらいと思うけれど、説明よりもカブ・BS・シニアのスカウト達が上進してローバー活動を行えばより一層理解することが出来る。説明を聞くよりは、自分の目で見て自分で考え行動することがスカウティング

にとって重要であるので、ぜひスカウトにらローバーに上進して自分のローバリングにアタックしてほしい。

## 私の勝手な理想の男性像

龍 茂 久

世間では、男の「カオ」は25才を過ぎてからといわれております。4団が出来て30年。男性ならば、顔立ち、風格、信頼等、全ての面で円熟期になろうとする頃では無いでしょうか。私はまだその年にはなっていないので、もし、そういう時期になったら、果して自分なりの考えを貫いてゆけるかどうか不安があります。

さて、現在に至るまで、歴史、或いは小説の中で、男の中の男と呼ばれてきた人は数多くあります。しかし、その中の殆んどは俠客であります。俠客が、なぜそのように好かれているのでしょうか。

俠客は、暴力団とは違います。強きをくじき、弱きを助けることを看板にしている

男をあらわしています。

私の好きな俠客は、「人生劇場」に出てくる「吉良常」です。彼は、俠客としては、少し御粗末な気もしますが、憎めない人柄で、特に、私はその人柄が好きです。

男性が、俠客を男の中の男と見るのは、彼等が何人斬ったとかいう事ではないと思います。私は、彼等の人柄や、物の考え方、人との接し方等によるものからであると思うのです。

いよいよ本題としての男性像であるが、何も俠客の様になれというのではありません。仮にも、スカウトとしての私が、そのような事を言えば、リーダーの影響が大きく反映されるカブの場合、皆、「人生劇場」を読み出すかも知れないからです。まず、誰から見ても、若々しい好人物になりたいものです。人との接し方ですが、自分が好きな人であろうと、嫌いな人であろうと、相手の目を見て話したい。私も心掛けてはいるが、かなり難しい事でありませぬ。特に、相手が女性だと、大抵の場合、目を伏せて

しまいます。話をする時には、堂々と胸を張ってほしい。胸を張って話すという事は、自分の意見に対して自信を持たなければいけないという事でもあると思います。そして、言いたい事は、はっきり言いたい。しかし、これは自分の事だけを示すのではなく、回りにいる人達の事も考え合わせた上での事です。人は一人で生きているのではなく、友人、先輩、後輩、兄弟とともに生活しているのだから、地球は自分一人の為に回っているのだという意味は全くありません。弱きを助けるのが俠客であるのなら、こういう時は、俠客となったつもりで、それなら俺が言ってるやろうという気構えが欲しい。言うだけではなく、行動もそれに伴いたい。これも、ある程度という事があります。言いたい事を言えば良いというものではありません。その事でどれだけ相手を傷つけるかという事も考えるのが本当でしょう。それは、相手の身になって考え、相手の話を真剣に聞くという思いやりの心こそ、真の男と呼ぶに相応しいものではない

かと私は考えています。また、言い合い、その他で相手（敵）がいる場合、常に勝つという事はない筈です。もし、何かの場合、相手の意見で自分の方が非を認めざるを得ない時があります。そういうときが難しいと思います。それはそれでカラッと、うじうじせずに、そういうものと素直に反省するのも潔しと写るのではないのでしょうか。相手が友人同士等、親しい場合も私は同じ事と考えます。友人間の場合は、一番自分を良く知っている者の言う事であるのだから、それこそ素直に受け止める心のゆとりが必要ではないのだろうかと思えます。

ところで、話はがらっと変って、疲れ切った何もしたくはないという時に、友人がどこかへ行こうよと誘いに来ることがあります。こういう時は、本当に困ります。その友人の為に仕事をした訳でもなし、また一緒に遊んできたものでもないというときは、決してそのことを顔や口に出すものではないと思います。そういう時に、相手に愚痴等言ったら、相手は気を悪くするどころか、彼に対して不信感までも抱くかもしれません。疲れた顔は、自分の家ですでけでよいのではないのでしょうか。

まだ、いろいろの事がありますが、自分の仕事、スカウトならば与えられたプログラムを如何にうまくこなすかというとき、つい自分の事を中心に考えてしまうのが人間だと思えます。その時、少しでも心に余裕があれば、いろいろの局面が開かれるものでしょう。

4 団はこの30年に渡って、坊ちゃん育ちをしてきたとは考えられません。その中で、スカウティングをしてきた人達が、2年であらうと10年であらうと、その時が一番良かったと考えていた人はいなかったでしょう。今、過去を考えて、あの時が一番良かったと思えるという事は、その時のリーダーが良かったのか、スカウトがまとまっていたのか等を考えた上で、それならもう一度と団を盛んにしようと思う心が、今、誰の心にも足りないのではないのでしょうか。毎週、足を運べば良いというものではありません。

ません。

これから、しばらくたつと4団は、将来、団史上の中で「激動期」と呼ぶに相応しい状態に入ると考えられます。その中で30年間、男を磨きあげてきたスカウト各自、ここが一世一代の大勝負と心に決めて、一気に男を上げてみせるのが意気地ではないでしょうか。

## 私の勝手な「友情観」

小沢 宏 巨

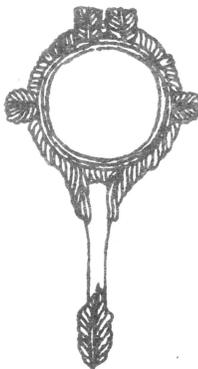
「私の勝手な：」シリーズ第2段として、友情について取り上げてみたいと思います。まず、友情というものについて、今一度考えてみたいと思う。

たとえば、狼についていうならば、孤立した一匹狼（聞こえはいいのだが）は、敵からの襲来を警戒せねばならなくなり、それだけで疲れきってしまいうだろう。それが一匹でなく、数十匹と群（社会）をなして、生活をしていけば、そのうちか一匹が敵からの警戒、又は別の狼が獲物を狙う任につけば、敵の襲来などを容易に、かつすばやく全体に伝える事ができるはずである。

つまり、社会はこのようにみんなが、生き続ける為にあるのだが、とかく人間社会においては、有利な地位（ある特定のものだけがその仕事を免がれようとする考え）をめぐり、醜い争いが起こり、協力し合うという事をまるで考えず、自分本位に走っ

ってしまったのである。しかし、これは人間自身が作りだした物なのだから、克服できない訳がない。そして、それを克服するために人は何かをやりだし、それに共鳴する人との間にある連帯感が、友情なのではないかと思う。

くりかえせば、友情は、ただ単なる社交・おつきあいなどではなく、知性・批判・任務・協力・団結の上に成り立つものであり、そして、年齢・性別・地域などの境遇を越えたものだと思う。



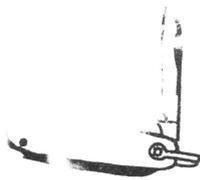
## 「今」、思う事

小宮 忠 紀

私共の住んでいる地球は人間が中心になり社会を築き、自然の中うまく適合しています。私共人間はその地域により体付き、顔付き、毛髪が異なり環境や風土に適應し、それぞれ違った人種に區別されてきます。ほかの動物や植物もそのように適應し、教えきれないほどの種類に分かれていて、教えます。これら自然の中に生物として存在するものの共通点は多種多様ですが、その中でも共同で生きている事、顔や形を持っていることなどは大きな共通点ではないかと思うのです。顔や形を持つ物はそれぞれに個性を持ち、人間や高等な動物になると顔に表情を持つようになってきます。たとえば悲しい時の表情、楽しい時の表情、うれしい時の表情また憤慨した時の表情、これらは高等になればなるほど表情豊かになってきます。私共人間はこの表情により相手に言葉で話す以前に意志を表示すること

ができるのです。不満な表情をしていますと相手の印象を悪くしたりします。また日ごろにこやかな表情をしていますと、自然と難問も解けてくるようになる。つまり表情は話すことよりも大切で話し合いをする時の前置詞のような役割をすると思うのです。私共の持つ表情は一つの形となって現われ、人それぞれの顔付きができてくると思います。顔付きは地域の違いによるものや年齢差、そのほか性格を表わす目安ともなるのです。子供はあどけない顔付きを持ち、若人になると気品のある高貴な顔付きを持ち、年輩になると貫録のある顔付きを持つようになる。但し、これらは私の心象の中には年齢に伴わない人もいるわけで、常時悪人的な顔付きをしている人、子供っぽい顔付きの人、温和で落ち着いた顔付きの人、これらはその人の性格を感じさせ、唇が厚く野性的な顔付きの人、こじんまりとした顔付きの人などは地域の違いを感じさせるのであります。人々は個性ある顔付きを持っているのです。内的には人それぞれ

れ才能を持ち顔付きや風格に備わったものとして現われ、才能をうまく生かせることにより自己の確立も見い出せるようになると思うのです。未知の世界と言われる宇宙の中に点のように浮いている地球が永続するには、よりよく共存していくことが大切であり、それには自然を侮らず、盲目的な行動や煽動家たちを避け、衆知を集めて遺賢な人々を慈しみ、良き表情を持ち、良き顔付きになることが大切であると思うのです。





## ブラウニーのページ

### 活動報告

52年度、ブラウニーは小学校1〜3年生の31名のスカウトが毎週霊南坂教会の階下講堂やすみれの部屋に集っています。

4団の中にブラウニー部門ができたのは、昭和29年でその時のスカウトは4人でした。そして49年に20周年を迎え、現在は新プログラムによる3本の柱「自己開発」「人と人の交わり」「自然と共に」を3つの島ブラウニーランドの中に取り入れて活動をしています。

46年度夏舎営キャンプ	軽井沢
47年度夏舎営キャンプ	箱根強羅
48	甲府
49	忍野
50	長野原
51	中軽井沢

池 田 香代子

エンジのスカートとんがり帽子のブラウニー。みんな大きく成長し毎年GSに巣立ちます。

ラーラーラーにブラウニー物語、ふくろうのおばさん、花、山、水、森、田畑の精やブラウニーだけのかわいい歌。みんなおぼえてるかしら？

御 堀 邦 子

二年前：元気いっばいのブラウニー達の住む「ブラウニーの国」へのお誘いを受けました。二年前：大きな地図を広げながら恐い物知らずで、「キャンプの森」や「一日一善通り」をずんずん進んで行くブラウニー達を見ているのが大好きでした。リーダー（導く者）の私？森や通りをブラウニー一人一人に道案内されながらどうにか迷わずに。きっとこれからも……。

須 藤 るみ子

リーダーとしてはやくも一年が過ぎ、自覚ある行動、責任ある行動の必然性、重要性を強く感じました。スカウトの基礎となるかわいいブラウニーと共に、これからも進んでいきたいと思えます。

鷺 崎 千珠子

ブラウニーからレンジャーを巣立ち、再びブラウニーへ、去年の四月には、不安と期待が胸の中を満たしていました。そして今は、去年一年学んだことを生かして、良いスカウティングをしていきたいと思えます。

## 私はブラウニー

石田 令子

ブラウニーに、じゅうだんしたばかりで、  
なにもわかりませんが、リーダーに、いろ  
いろなことを教えてもらったりして、また  
おともだちと仲よくしていきたいと思いま  
す。

斉藤 朋子

ブラウニーにじゅうだんできて、とても  
うれしい。おともだちと、おいしいおやつ  
をたべるのがたのしみ。おねえさん、なか  
よくしてください。

さどはら よお

わたしは、はじめてブラウニーにいった  
とき、ブラウニーのちかひのことをおほ  
えました。たくさんのおともだちの名まえ  
もおほえました。さいごに、みんなでおや  
つをたべました。早くブラウニーのせいふ  
くをきて、ゆきたいと思います。

篠原 永子

はじめていったブラウニーのあつまりは、  
とても楽しかった。ちかひのことをいっ  
しょうけんめいおほえました。これからブ  
ラウニーできめられたことをまもって、お  
ともだちとなかよく、きょうりょくしてや  
りたいです。

瀬崎 真生子

わたしはブラウニーにはいって、おやく  
そくをおほえました。ようちえんとちがう  
ことは、おりょうりをしたり、まるくなっ  
てうたったりするのがたのしみです。そし  
てともだちをいっばいづくるのもたのしみ  
でたまりません。

林 貴子

いよいよブラウニーに行くことになりました。  
した。はじめてなので、少しドキドキしま  
した。うれしくて、どうしても足がはずん  
でしまいます。ブラウニーってどんなこと  
をするのかしらと、少し心ばいになりなが

らドアから中にはいると、エビ茶のせいふ

くをきたお友だちがたくさんいて、中には  
ようちえんのころの友だちもいました。

それから私たちは、「やくそく」を紙にか  
き、それをおほえながら、私は「ブラウニ  
ーって、人々をたすけるものなのだ。」  
と思いました。

早くエビ茶のせいふくをきて、本もののブ  
ラウニーになりたい。私は、小さな声でお  
ほえたばかりのやくそくを、ゆびをたてて  
いってみました。今に、「林貴子リーダー」  
なんていわれたら、私テレちゃうな。

八木原 実子

土ようび、おともだちの京子ちゃんと、  
ガールスカウトにいきました。ブラウニー  
の中におともだちがたくさんいました。や  
さしいおねえさんがいて、みんなであそん  
だり、おいしいおやつもたべました。

はやく、おともだちといっしょにブラウニ  
ーのおようふくをきて、なかよくしたいと  
おもいます。

矢 沢 のり子

ぶらうにいになったら、おりょおりをし  
たいです。パパやママにたべてもらうので  
す。きゃんぶにいつているんことをした  
いです。

山 田 まい子

わたしはブラウニーになれて、とつても  
うれしいです。いつもげんきで、いわれな  
くてもすすんでなにかができるぐらいにな  
りたいです。人をたすけ、じぶんがしても  
らうのではなくじぶんから人をたすけるブ  
ラウニーになりたいです。

小 峰 麻 奈

ブラウニーはとつてもたのしいです。で  
もわからないこともいっぱいあります。な  
かよしの人は、とてもやさしいです。ブラ  
ウニーは、うたやこうさくでにぎやかです。  
ブラウニーでは、わからないことをともだ  
ちにききます。

須 藤 多恵子

わたくしはブラウニーになって二年めです。  
こんどだい四だんが三十かいめのおたんじょ  
う日をむかえます。わたくしは七さいですか  
ら、うまれないずつとむかしできたのです。  
わたくしはこれからも、ひとのためになるよ  
い人になりたいとおもいます。

塚 原 麻倫子

私は、ブラウニーに入れてとつてもうれし  
い気もちです。はじめていったとき、じろじ  
ろ見られたけどあの人もこの人もいつかはし  
たいお友だちになれるのだから、また一つ  
ゆめがふえました。早くリーダーのお姉さん  
のようにになりたいです。

加 賀 千 景

まいしゅう土曜日、ガールスカウトに行っ  
て、みんなとなかよくあそんでいます。はじ  
めに、ガールスカウトのおきてをいい、それ  
からくみべつにわけて、けっせきはいるかど

うかをしらべます。つぎに、ゲームをし

たり、うたをうたったり、いろいろなこ  
とをします。こんどはおやつ時間で、  
みんなでおいのりをして、おやつを食べ  
ます。これでガールスカウトは、おわり  
です。でもたったこれだけでも、たのし  
いからガールスカウトが大すきです。

河 村 徳 子

わたしはブラウニーのなかで、道しる  
べと、ブランタリウムがすきです。道し  
るべのなかでは、やじるしのとおりやる  
のが楽しいです。ブランタリウムは、い  
ろいろなせいざが見れるのでたのしいで  
す。そのほか、ブクブク先生や、てつな  
げおにがすきです。

木 内 のりこ

二月十九日のしゅう会で、一、二年生  
はサンドウィッチを作りました。おやつ  
の時にみんなで食べました。三年生の人  
たちは、「おいしい。」と、よろこんで

くれました。わたしはうれしくて、家でも作ろうと思いました。

鬼 島 希薫代

おりょうりゲームに、道しるべ、たのしい歌も歌います。ドレミファソラソラできました。おいしいクーキができました。わたしは、かわいいブラウニー。

杉 本 公 美

わたしは、ブラウニーのしゅう会で、リーダーのまねをすると、みんながわらうのでいやになります。くみはリーダーが好きです。リーダーはやさしくて、いろいろなことをおしえてくれます。わたしはリーダーになりたいと思います。そのためには、リーダーのべんきょうをいっしょうけんめいにやろうと思っています。

田 中 美 帆

わたしはブラウニー。わたしは、花のせい。わたしは、水のせい。わたしは、森の

せい。わたしは、山のせい。わたしは、なわむすびがだいきらい。わたしは、ゲームならなんでもとくい。ブラウニーは楽しい。

藤 井 千 鶴

わたしは、学校の生活だけでなく、もっとほかのことをしりたくて、ブラウニーに入りました。今までぜんぜんしらなかったことが、一ばいありました。友だちもふえ、そしていろいろなことを教わり、わたしは、ブラウニーに行くのが今ではとても楽しみです。これからは、リーダーの教えをよくまもり、人のためになれる子どもになりたいと思います。一生けんめいがんばります。

松 原 祥 子

わたしは、土曜日にもブラウニーに行きます。行くときには、いつも赤いぼうしと赤いすかーと、白いぶらうすをきていきます。ブラウニーにつくと、ゲームやうたをやったりします。そのほかにも、いろいろなことをやります。そのなかでわた

しがいちばん好きなのは、おりょうりです。わたしが、おりょうりでやったことのあるのは、サランラップをきったのと、たまごのかわをむいたことがあります。そうゆうことがおわると、てをあらっておいしいおやつがあります。おやつがおわると、かえります。かえるときと、きたときにはうたをうたいます。いつもいいことが、いっぱいあります。だから、やすまないようにがんばっていきたいとおもいます。

水 谷 千 世

ブラウニーになったら、お母さんが「ラララ。」というようになりました。わたしは、「ラララ。」と聞くとすぐ行きます。けれど、お母さんが「ラララ。」といっても「なんのことかしら。」と考えることもあります。

森 田 雅 子

ブラウニーに入込んでもうすぐ三年目です。いままでに、ロープや道しるべにゲーム、あとガールスカウトがどこできたかなど、リーダーがおぼえやすくおしえてくれます。しゅうかいがとてもたのしいので、できるだけやすまないうりにしています。

矢 沢 直 子

わたしは、こんどブラウニーの一番上の三年生です。組長さんや、ふく組長さんになりたいです。今はふく組長さんなので、こんど組長さんになりたいなあ、と考えています。なれるかなあ、なれないかなあ、と心ばいです。

米 本 朱南美

わたくしたちのだい4団は、30しゅう年をむかえます。わたしたちが、うまれるまえのブラウニーは、どんなことをしたのかなと思います。いまのブラウニーは、たの

しいです。わたしはリーダーのようになりたいです。

小久保 祐 子

私は4団のブラウニーです。もうじきジュニアになるので、もっとブラウニーにいたいなあと思います。なぜかと言うと、私はブラウニーが大好きだからです。

小 峰 佐和子

わたしはもう3年です。今年ガールスカウトです。わたしは一年しかはいていないのは、なかなか人数が多くてはいれなかったのです。でも、うた、こうさく、ろうぶ、みちしるべ、キャンプ、それからいろいろあります。それでもせいっぱいやっているつもりです。

佐 藤 貴 子

わたしは、ブラウニーに行くのが大好きだ。ここは楽しい所。おやつを食べたり、

キャンプへ行ったり、クリスマス会。

ときどき庭に出て、ゲームをして遊ぶとき。三年生がジュニアに行くのを送るとき、悲しい。わたしは三年生、もうすぐジュニア。ブラウニーのともだちとおわかれだ。わたしは、いつまでもブラウニーに、いつまでもいたいと思う。

砂 田 悦 代

私はブラウニーで、こくぼさんといっしょになってうれいす。それは、いっしょにいろいろなことができるからです。いっしょにやっているとおもしろくて、楽しくてもよいのでわたしはいっしょになってうれいす。

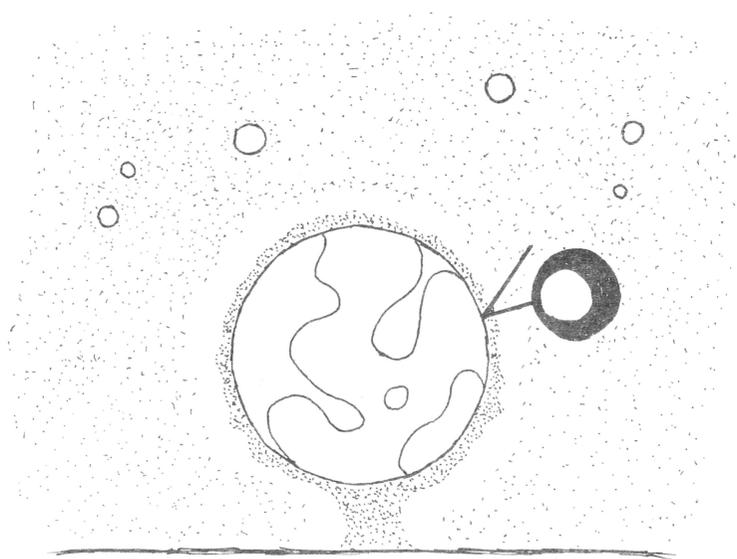
立 木 理 賀

今、わたしはブラウニー。花のせいのは長です。もうすぐジュニアなんですけど、あまりうれいありません。おやつはでないし、やくそくやおきてをおぼえなければなりません。おやつがないのでおなか

つか、心配です。

水谷 有香

たのしかったブラウニー。さいしょは、どきどきだったけど、一人でバスにも乗れるし、キャンプにも行けるようになりました。道しるべの勉強が一番おもしろかったな。





## ジュニアのページ

### 活動報告

土曜日の三時になると、スカウト達は教会に集まってきました。

身体を動かすことの好きなジュニアには、三階のミーティングルームはとても狭く感じられます。お天気の良い日には外に出て、ゲームをして発散します。

集会のプログラムは、リーダーたちで考えておりますけれど、その中でもスカウトたちの意見はもちろん取り入れます。母の日会・夏のキャンプ・クリスマス会・夏のキャンプ、これらは一年間のおもな行事で、毎年行なっています。

母の日の会には、お母様にスカウトたちの手で作ったハンカチ、なべつかみなど、やはり女の子らしく器用にかわいいものが作られ、お母様たちに喜んでいただけるようです。ジュニアになって初めてのテントでの生活、夏のキャンプは、慣れない手つきでかま土に火をつけ、砂が入ったり焦げたりしたお料理を、文句をいいながらもおい

しそうに食べています。四年生の時のキャンプは、全てが経験するものばかりで、ただついてくるだけです。五年、六年ともなるといろいろ応用して、自分たちのキャンプをしています。八月までの集会は、ほとんどキャンプの勉強と準備に追われてしましますが、キャンプが終わると一段落ついて、後はその年度によって自由にプログラムを作ることができます。昨年度は、粘度をこねることから始まり、指人形で「白雪姫」を、老人ホームで行なってきました。現在のジュニアのスカウトは、行動力が大いにあるので、身体でいろいろなことを経験して、そこから自分たちの創造力を生かしてほしいと思っております。



坂 口 美 幸  
十年前、私が息をはずませて登っていた霊南坂教会の前の坂道を、今スカウト達が元気よくかけ登ってきます。十年間の開きは、大きいようでもついこの間のような気がします。

私自身がスカウトの時、毎週集会をし、何回もキャンプに参加し技術を身につけていっても、自分自身ではどの程度上達しているのかはわかりません。けれどリーダーになつていろいろな学年のスカウトを見ると、四年生と六年生では違いますが、一年の最初と最後では違いますし、たった一年の間でも大きく成長していくのがはっきりとわかります。ジュニアのスカウトは、GSのおきて八「ガールスカウトは、快活であります」そのものだと思います。いろいろなプログラムを組んでもすべてに對し活発に行動してくれます。そして笑顔が絶えません。そんな笑顔に囲まれ、スカウト達の事が多少でも理解できるようになるのと、私自身にも自信がついてきます。その

今のスカウト達が、十年後立派なリーダーに成長して、再びこの教会で四十周年を迎えてくれることを願っております。

坂 本 桂 子

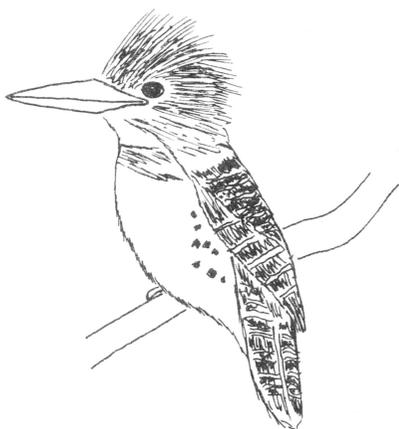
毎週土曜日の教会は元気なスカウト達でいっぱいになります。彼女達のかわいい笑顔を見ると、今日も集会に参加してよかったですとも思います。スカウト達の成長はとも早く、日増しに大人びていく姿には目を見張るものがあります。元気に活動している一人一人の動作に個性が光り、五年後、十年後にはそれがどのように開花しているか楽しみでなりません。私も入団して十一年目を迎えようとしています。一段一段と階段を昇り、今、リーダーとしてスカウト達をみた時、自分もそうであったように、新しいことを知ろうとして一生懸命な姿を見て、何か一つでもこの子供達の手助けができたらと思えば幸いです。ジュニア・スカウトはいつも笑顔を絶やさない明るい存在です。その笑顔は何にも

まさる素晴らしいものだと思信しています。このスカウト達の、将来の可能性を秘めた笑顔が4団のスカウト活動を一層充実させてくれるのでしよう。

#### 坂口利香

20周年の時、私はブラウニーでした。あれから10年たっているとすると、すごく長かったようにも思われ、すごく短かかったようにも思われます。10年前、ブラウニーだった頃は、10年後の現在の様にリーダーをしているとは想像していませんでした。私がスカウトだった時、リーダーとは、とても大人でたいへん尊敬していたことを覚えています。だから、自分がリーダーなんてできるとは思っていませんでした。ところが、10年なんとなく過ぎてしまいました。となくリーダーをしています。まだまだ指導されなければならぬけれど、指導する立場となり今だに不安が残っています。しかし、やるからには、責任をもってしたいと思います。リーダーをしていて感じる

ことは、大きかもしれませんが、自分自身としても、人間をしていく上で、たいへんプラスになるのではないかと思います。



#### 私のしたいこと

岡名雅子

私はしょうらい、保育園の先生になりたいのです。どうしてかというところはまだ子どもだけでも、かわいい赤ちゃんや、小さい女の子や男の子が、私はとても好きだからです。私は、今二階の赤ちゃんとおそんでいる。でもいたずらっこだから、私が保育園の先生になったらこんないたずらの赤ちゃんがいたら、おむつをかえたり、洋服をとるかえたりするとたいへんだろうな。私はほんとうにかどうかわからないけれども、保育園の先生に今はとってもなりたいと思う。

尾沢 知江子

私のしたい事は、今はスケートで一日中友達とかと、すべる事です。それからお母さんのおてつだいです。その中でも一番したい事は、クッキーやケーキを作る事です。でもお母さんは、「ちょっとまちなさい。」

と言われます。二番めは、お皿などをあらったりする事です。これは、お母さんが、病氣などなった時などやっていて楽しかったからです。

立木香好

今、私のしたいことと言えば、図書館に行っているいろいろな伝記を読むことです。その中でも、「ライト兄弟」と「ふくざわゆ吉」です。このごろは、学校で読書感想文のカードを作って、たくさんカードが集まれば賞品がもらえるので、今は、読書してたくさんカードをためたいのが私のしたいことです。私は、大人になったら、本を書いたり、詩を書いたりして、「むくはと十」さんの様になりたいと思います。

若林恵理

わたしはしょうらいかんごふさんになりたいと思う。人のせわができるからです。今はバスの中で席もゆずってあげられないけれど、いつかはきっと人にいい事をして

あげられるようになりたい。そして、今かなるべく、せきをゆずったり、こまっている人を助けてあげようとおもいます。そして人にしんらいされるような人になります。

今田文江

わたしは、スカウトの勉強や集会になるべく多く出席してがんばりたいと思います。けっして、自分が楽しむことばかりではない奉仕や、みんなと仲良くなれるキャンプなど、ガールスカウトのとくちょうをもったプログラムにそって、いろいろなバッヂをとってみたいと思います。

三十周年にわたしも、小さいながらおてつだいできることがとてもうれしいです。

岡部加苗

わたしの一番にやりたいことは、おきて三番にあるように、人を助け、人に役つくとをたくさんしたい。たとえば、老人にバスや電車などの席をゆずるとか、ゴミなど

を歩道などに平気ですてる人を注意したり、こまっている人にいろいろ教えるということを、たくさん進んでがんばりたいと思います。

小久保尚子

私は大きくなったら、マンガ家になりたい。小さいころは、なにになるかなんてよくかわったけど、たぶんこのゆめはかわらないだろう。今は、イラストでいどのものしかかいてないけど、そのうち、日本中の人が読むようなものを書きたい。そのことを思うと、今でもむねがワクワクするんだ。

桜井雅美

私が今年中にしたいことは、水泳で三三秒をきり、全国大会に出場することが、私のしたいことです。それは、二月の大会で三十五秒だったので、先生にいわれたことと、大会に出場して他の人の方が速かったので、くやしくてたまらなかつたことで、「こんどこそは」と、思いました。それで、

私のしたいことになってしまいました。

鈴木孝子

私が今したいことは、旅行です。どうしてかという、今年私は受験生で、たぶん旅行などはいかれないと思うので、いまのうち旅行を楽しみたいからです。どうせなら、子供だけで旅行したい。おとながいると、あーだこーだってうるさいからだ。とにかく、今私がしたいことは旅行です。

(その他↓ねる、たべる、あそぶ、まんが)

須藤陽子

私は、北海道へ行って牧場をひらいて、馬や牛をかってみたい。でも、それまでに公害で北海道がよごれてしまったらいやだから、環境庁へ務めて、鳥じゅう保護課に入っ、北海道だけでなく、日本中を鳥やけもの、緑でいっぱいにして、天然記念物をもっとふやし、天然記念物をなくして、この日本中を自然でいっぱいにしたいと思います。

永山理恵子

私は、東京四団に一年生の秋に入団しました。ブラウニー、ジュニアと、四年間が過ぎました。そして、大ぜいのリーダーや友達ができ、いろいろな事を勉強しました。これからも、シニア、レンジャー、アダルトになれるまで、一生懸命にがんばっていきたいと思います。

三村比奈子

ピアノを弾いていると、からだがういてくるような気がして、何もかも忘れてしまうの。困ったことや悲しいことがあって、ピアノに助けを求めると、返事が返ってくるの。ピアノとは、六年もの長いおつき合いだから、私にとっての一番の親友。先生におこられてしょんぼりする事もあるけれど、ピアノが語りかけてくれるので続けた。いつまでも。

黒川祐子

勉強法にもいろいろありますが、私は、近所の赤坂図書館を利用して、読書や、科学館・博物館などに行っ、勉強してみたいと思います。読書では、童話ばかりでなく、理科又は社会科学に関する物も読んでみます。また、作文の下手な私は、一冊の本について読書感想文を書いたり、科学館・博物館などの見学途中メモをとったりするのもよいと思います。

砂田晴代

私の好きな言葉は、「勝利、希望、輪」である。なぜかという、輪は希望に結びついて、希望は勝利に結びつくからである。自分一人ではできないことは、みんなが輪のようになり、一つになれば何でもできる。希望は自分の夢、勝利はその夢がかなって勝利になる。人はみなこの三つの言葉と同じである。私はこの言葉が好きだ。私もこのようになんでもたえていきたい。どんなことにものりこえてゆくような人になりたい。

い。それと、人のことも自分のようにやさしくしてあげるのが私のしたいことである。

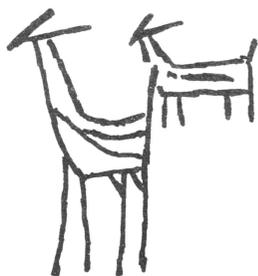
びたものもいい。大道具や小道具、衣装などもこってやりたい。

中 根 浩 子

私は、将来スノービーやミッキーマウスなどをうっている小さなお店を、もちたいと思っています。お店をもつということは、たいへんなお金がかかります。ですから今のうちから、お金をためたいと思っています。この夢は、中学になって忘れてしまいかもしれません。でも、私は自分できめた夢を大切にしたい、心の広い人間になりたいと思います。これからも、勉強やスポーツに、がんばっていきたいと思います。

檀 上 り く

今現在、私がやりたいと思うのは劇である。それは私の学校の学芸会で、劇じゃなく歌をやる事になったせいでもある。劇は劇でも、「アラビアンナイト」や「白雪姫」のような童話劇や創作劇よりも、「若草物語」や「悲劇の王改」などのちょっと大人





## シニアのページ (GS)

### 活動報告

シニアのスカウト数現在16名。時代とい  
うか、食生活の向上か、みんな足長、長身。  
リーダーがスカウトか、スカウトがリーダ  
ーかわからないというのが実状。

4月のフライアップに始まり、5月・6  
月・7月は夏休みのキャンプに臨むべく、  
1ヶ月単位の釜戸、クラフト、テントに関  
しての実施訓練を行ない、本番への準備を  
していよいよ本キャンプに入る。3泊4日  
の本キャンプでスカウトは各々に確実に成  
長して帰ってくる。9月になってミートイ  
ングが又始まると、一層スカウト間のつな  
がりが増しているのである。

10月・11月と野外での活動も気持ちよく、  
フィールド・アスレチックへ行き、帰り道  
はゴミ拾いをしてきたり、夏キャンプの復  
習としてダンボール箱利用のオープンでケ  
ーキを焼き、仲々火が起きず、日の暮れる  
のも忘れて皆まで頑張ったり、BSとの合  
同クリスマス会はなんとなくすましていて、

いつもと少し違っていたりして。

1月を迎え、1月・2月は3月に慰問の老人ホームで上演する劇の練習を毎週必死にならなければならない、そして1年の終わりの3年生送別会の春キャンプ設営と違い、舎営で夜遅くまで1年生から3年生までまくらを寄せ合って、おしゃべりをして夜があける。そして、各々フライアップ。これが76年度の主なプログラム。

唇に歌を！いつも微笑を！シニアのモットー。みんな忘れないでほしい！

リーダーからのお願ひ。

シニアリーダーのコメント

村越ルリ子

シニアのリーダーをやり始めて今年で4年目を迎えた。スカウトの延長でリーダーになってしまい、振り返ったらもう私はスカウトではないのだとしみじみと実感した。毎週毎週スカウトはミーティングの中に秘められた何かを求めて、土曜日の午後を霊南坂の教会の一室、書記室に目標を定めてやって来る。焦点が合った日はその日の集会記録に実にリアルに記されている。

『楽しかった。』集約された一言に多くの意味を考えさせられる。皆で一つの物を作り上げている時、完成させた時のスカウトは充実感に満ちた顔をしている。リーダーとしていつも多くの怠りない準備をし、スカウトの笑顔を絶やさず努力をしなければいけないのだと、これを書きながら自ら言い聞かせている。

## 十年後の私

増田 和子

10年後のわたしは23才で、たぶんしゅうしょくしていると思います。でも10年後なんてまだ想像もつきません。10年間には、いろいろな事があるでしょう。あっという間に10年たってしまおうでしょう。でもそのいろいろな事があるために、わたしの思っている10年後の世界とは、ちがう世界がでるかもしれません。そしてその世界の中で10年前のことを思い出すでしょう。そしてたぶん10年前は、よかったと思うでしょう。わたしはそう思います。でもやはり、一時一時でなやみがあるから今もしあわせだといえないかもしれません。とにかく、くいがない一生にしたいです。

10年後の私……。

岩田 佳津子

10年後の私はどうしているだろう。よく妹とふざけて話し合うことがある。すると私

は必ず「イラストレーターになってるか、

〇〇くんか〇〇くんと結婚してるだろうな。」

と言う。こんな感じで、まじめに考えてみたことはない。でも、今から10年たったら私は23才……。だれか男の人と結婚して、よい家庭をもっているかもしれない。会社に勤めているかもしれない。夢がかなってイラストレーターになれるかもしれない。やっぱり未来のことはわからないなァ……。

皆沢 美幸

10年後、私はどうなっているのだろうか。考えてみたこともない。また考えたくもない。10年後なんて、しわしわのおばあちゃんにだんだん近づいただけだもの。そんなになっちはもう夢も希望もなくなっちゃう。10年後、もう大学も出て会社勤め、その時を必死に生きているだけみたいになっちゃうと思う。そんなのよりは今みたいになっちゃうと失敗したって希望の半分も欠けない。そういう時がいい。いまの時間を大切にしたいと思う。

杉本 夏世

10年後の私は23才である。23才、私は卒業できずにまだ大学にいるかもしれない。

それとも家庭の主婦となりあくせくはたらいっているかもしれない。又はOLとなっはたらいているかもしれない。それとも家でポケーと空をながめているかもしれない。だいたいこの四つの内のどれかだと思う。

しかし、私とてやってみたい仕事もある。医者になってガンの研究をしたいと思うし、かわいい小物のお店を持ちたいと思う。

又私は、おしゃべりが好きでみんなの笑っている顔を見るのが好きだから、まんざいしにになりたいと思ったこともあるし、井上ひさしさんのごとくの小説家になりたいと思っただこともある。又、演げきの方にも進みたいと思う。どれをとってもなれそうもないと思う。どの仕事になっても、いっしようにけんめいやって、又笑顔をたやさずにやっていきたいと思う。10年後の私、オッチョコチョイはなおっているだろうか？

山本純代

時間の流れにさからうこともできず、二十四歳になった時、私はどのような人間になっ  
ていられるだろうか。幼ない頃の純真な心を持  
ち続けていられるだろうか。それとも一九八  
七年という年の世相にどっぷりとつかって  
いるであろうか。しかし、それでもなおかつ  
毎週土曜日になると、霊南坂へ足が向くこ  
とをひそかに期待しているのである。

山田 富美恵

10年後：もう24才になり、25才にさしかか  
っているところだ。両親達にいわせると早く  
結婚させたいらしいが、私としては結婚する  
前にやりたいことがある。しかし、それは希  
望というよりも夢に近いであろう。その夢を  
私は追いつづけていきたい。それが私の今  
の一番の希望である。現実では：それは今  
の私にはまったくわからない事である。そ  
れに、今はまだ夢を追い、夢をかむことを  
目標とし、そのように生きるこ

の方が大事に思える。だから今をせい  
っぱい生き、いつでも死ぬるように思  
い、こすことがないようにがんばり、私の夢  
をつかみたいと思う。

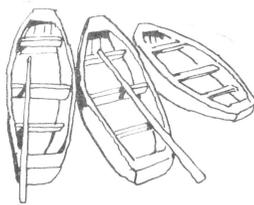
太田 幸子

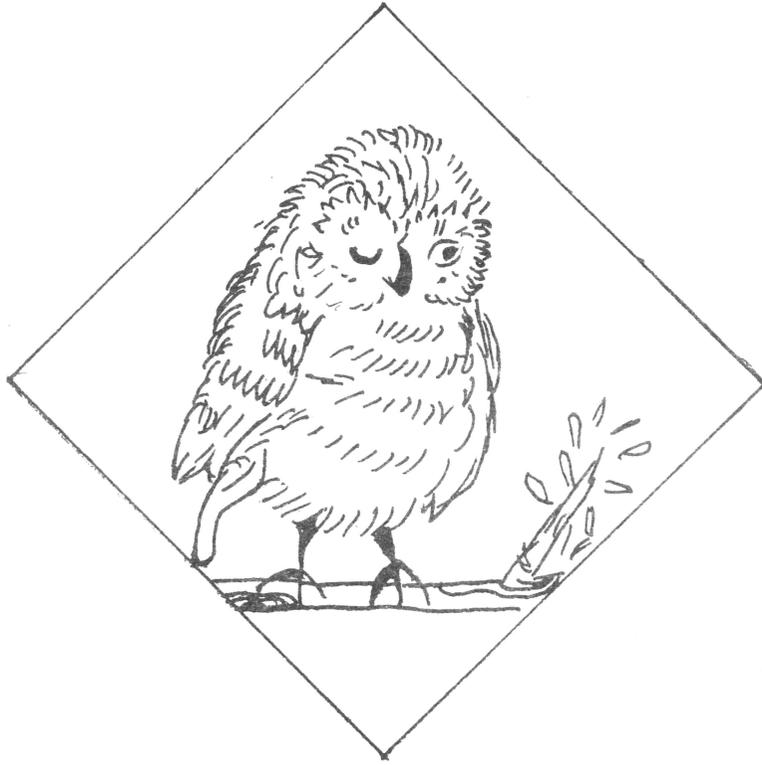
10年後だと25才になる。まだほど遠いよ  
うな気がする。今までになりたいものは、  
それこそ山のようにしこたまあった。小  
さい時なりたかったのは恐竜だったし、そ  
次はバスのガイドさんだった。そして今、  
別になにになるという考えはない。でも金  
もちになりたいと思う。わけはごく単純で、  
お金があるとほしいものがわけなく買える  
からです。それはとっても魅力的な事で、  
今の夢です。しかし金持ちになるのはとて  
もむずかしい事で、25才までに金持ちに  
なるのはなおさら困難な事です。でもそれ  
私の知恵で解決して、きつとお金持ちに  
なるとしよう。10年後：私は金持ちです。

小林 恵子

私はまだ目標もなく、十年という長い  
月が流れた後、私がどのような人間になっ  
ているかということは考えられません。た  
だ何年かたつたあとで何かの役にたつか  
と、思っ、毎日を過ごしているだけです。  
今よりも少しだけ良くなっていればい  
と思っ、思っています。

私は、本を読むたびにその中でてくる、  
ある女性になりたくなったりして、一冊  
み終るごとにどんなふうに生きたいか  
が変ってしまいます。最後に読む本の女  
性になると思っています。今は少しも  
多くの本を読んでいろいろな女性にあ  
こがれたいと思っ、思っています。





## レンジャーのページ

### 活動報告

レンジャーは十数名のスカウトからなる規模からいえば小さい部門です。しかし、高校生活のあいまをぬっての活動は、かなり活発にやっています。四団内外のブラウニーの集会のお手伝いをはじめとする奉仕、毎週恒例のスケート会、夏のキャンプ、春のキャンプと盛りだくさんです。夏のキャンプひとつをとってみてもわかるようにフィールド・トリップあり、ワイルドパーティーあり、オリエンテーリングありでジュニアやシニアとはひと味違うものとなっています。スカウトは家庭でエイドの勉強をし、レポートを提出してバッチの獲得に努めています。レンジャーの悩みといえば、集会に出てこれるスカウトの数が少ないこと。何かみんなでしょうとしても人数がそろわなくては、せっかくのプログラムも大なしです。これからは人数的にもにぎやかなものになっていくことを期待します。

白石章子

エンジ色したあのブラウニーの帽子をかぶってから、もう15年目を迎えようとしています。私のスカウト生活は人生の半分以上を占めて、それは私自身に大きな影響を与えているに違いありません。幼なかった私達を、あの頃のリーダーは、なんと素晴らしく導いてくれたことでしょうか。長い歴史が伝えてきたスカウティングを今、リーダーとなって次の世代へと伝えていきたいと思っています。

高田 あつ子

早いもので初めて集会に来てから、もう十四年の月日が流れた。数多くの友人、リーダーに恵まれ、スカウトならではの経験も積んだ。土曜の夕暮れ時、習いたての歌をみんなで合唱しながら、坂をおりていたあのころがなつかしい今日このごろである。



## 私のすきなもの

鈴木祥子

私のまわりには、好きなものがありすぎて、どれを取りあげて言ったらよいのやら……全部書くなんて、もちろん、できないし……だから、今は秘密にしておきます。大事なものはかりだから、心の中の宝箱にそっとしまっておきます。

秋永晴子

しゃぼん玉、くれよん、俺は鉄兵、スキ、星の王子様、いちごの五月館、ミルク、ココア、プバリア、ぞうさんバボール、金比羅ごぼろ。どんどんふえていく私の好きなもの。とかしたバターにお砂糖とたまご、牛乳、バナナとふるいにかけて粉。みーんなませてオーブンで焼くの。そしたらね、ホラー！できた。一番新しい私の好きなもの、私の作ったバナナケーキ！

石川芳子

今、トランプ占いとタロットカードにこだわっています。当たりはずれは別として、未知のことを占うのは楽しいものだし、特にタロットは絵を見ているだけでおもしろいものです。ナカナカ神秘的な趣味だと満足している今日このごろです。

佐藤智子

私の好きなもの……それを一七〇字以内でまとめるのは、ちょっときついような気がします。なぜなら私の好きなものってたくさんあって、何を書いたらいいのかわかりません。特に好きなものって言ってもむしろ楽しいものです。考えに考えぬいた末、私の好きなもの……というより好きな事と言った方がいいかもしれないけど、遊んでる事と食べてる事とやっぱりガールスカウトの集会です。

鈴木富士子

風に揺れるコスモスの花。甲子園のサイ

ン。キャンプファイヤーの残り火。生まれ

てから一・二時間目の赤ちゃん。インクのはいった薬のビン。想い出。真夏の日ざしに光る海。友だち（例外あり）。答えがないことを考えること。映画。不思議の国のアリス。こたつとみかん。オレンヂ色の秋。ヘッセの理解できない小説。マンガ。

高瀬恵子

「好きなものは何か？」と尋ねられても、正直にいつてすぐにでてこない。何かあるだろうと自問して気づくのは、童話を書いている時が一番楽しいということだ。何かを書くことは、読み手という対象があってなのかもしれないが、私にとっての童話は空想が作者で心が読者だ。作品は立派でなくとも、心が満足できるものなら、最高だと思っっている。

増田悦子

海、空、太陽、こもれび、春、そよ風、そして流水。一度、真冬の寒い日に流水を

見に行きたいと思っています。愛読書は、三浦綾子さんの「道ありき」。好きな言葉は、「真心」と「神のなさることは、その時にならって美しい。」そして、最後に一番大好きで一番恐れているもの、それは生きるということ。

## 他己紹介

藤井由佳さん

鈴木祥子

ここに、昭和35年9月9日の菊の日に生まれた一人の女の子を紹介します。名前は藤井由佳とって、かの有名な、東京女子館にかよっているのです。

かの女は、気が強いけどやさしい子です。よくしゃべる子で、一緒にいると笑いがたえないけど、悩み多き16才、まじめな話だっているのです。

佐藤智子さん

秋永晴子

一見人見知りのおとなしい子!?彼女と私の仲は小学校の一年生から続いています。

彼女と私、いつも男の子に混ってワイワイ遊んでおりました。ハンドベースの時、彼女は偉そうにピッチャー。小学校4年生の時はずっと教室で張切っていました。そんな彼女でも、ピアノをやっている長いフワーとした洋服で発表会に出たりして。やっぱり一見おとなしそうな子。

鈴木慶子さん

石川芳子

知り合ってからまだ一年足らずでごく外観しかわかりませんが、彼女のイメージから連想されるものをあげてみるとー青山、プロ級のスキー(上手かどうか知らないけどなぜかそんな気がする)、ミニスカート、東京女子館、アグネスラムete... 何となく良いイメージばかりになって、「チキシウ」などと思ったりもしますが、確かにとても「カッコのよい人」だといつも痛感しております。

石川芳子さん

佐藤智子

彼女は現在高校2年生。だけど背が低くて、かわゆくて高2には見えない感じ。でもさすがに長女だけあって、しっかりしているところがあります。彼女はけっこう見た感じとちがって話をするとおもしろくて、いがないところがあります。最近集会に顔を出してないみたいだけど、ずっと続けてほしい人の一人です。一度彼女といろんなことお話ししてみたら？

鈴木富士子さん

白石佳子

すずきふじこー愛称ふうちゃん。当年とって18才のうら若き乙女。何を隠そう私めとはブラウニー時代からの古い古いお友達、良き(?)お友達どうしなのです。いつもニコニコ、笑顔のとっても似合ふふうちゃん。は、まるで汚れを知らぬ少女のよう。ところがどうして、「人間」のできた人として、時々泣けてしまうような思いやりを見せてくれるのです。ヨッ我らのふうちゃん!

高瀬恵子さん

鈴木富士子

クラブは落語研究会。丸顔でポチャッとした彼女は、細長い漫画家の卵と漫才のコンビを組んでいる。部はJRC。部長としての責任を果たし、有志JRCの発展においてに貢献した第一人者だ。将来は福祉関係の仕事に進むべく、その方面の大学を受験し、見事パスした。他人の事を実によく考えてくれる、ワライジョーゴである。

増田悦子さん

高瀬恵子

これから、増田悦子さんの紹介をします。中学の頃、初めて彼女に会った時、おとなしくて、目立たない人なのかな： などと思っていました。あっという間に覆されました!! ホントは大変積極的で、物事に真剣にとりくみ、顔を会わせるとニコニコ笑っていて、一緒にいて楽しくなる人だと思えます。紹介不十分ですが、ともかく、いい人なのです!!

町島名月子さん

増田悦子

あだ名はナコ。もの静かで、美人で、スタイルもセンスも抜群。とにかく、非の打ちどころがありません。彼女が私たちと一緒に騒ぐことがあるなんて、信じられないでしょう。でも、キャンプに行ったり、お茶を一緒に飲んでいる時は、一番ほがらか。こんなステキなナコを、今後共よろしく。



## 第三部

### 現状の問題点と未来への展望

座談会 その一

三月四日 神谷町にて

司会 鈴木君子

メンバー

龍 茂久  
龍 忍  
小沢 宏 亘  
朱 鴻 梁  
坂口 美 幸

④ 四団の現状について、全体的にどう思われますか。

A リーダーのまとまりがないのではないか。

B リーダー間のミーティングがない。

だから、集会内容が行きあたりばったりになったりするのはないか。もっとリーダー間のミーティングを多くすべきだ。

A それにリーダーが勉強不足だと思う。もっと講習会に出た方が  
良いと思う。

B まず、講習会に出る前に勉強が必要だ。

⑤ 他には、

A スカウトとリーダーの考え方の相違を感じる。

スカウトから見て良いリーダーでも、リーダー同志の間では良くない人もいるのではないか。

C 誰でもリーダーができるという訳ではないし、やっぱり量より質だと思う。リーダー同志の気が合うという事も大切だし。

A 目的が一諸なら関係ないのではないかな。

B それから地域活動ができないという問題点がある。

つまりスカウト活動というのは理想的には町ぐるみのものはずだ。ところが、スカウトとリーダーの住んでる場所がちがう。それはリーダー不足の問題につながる。

B 組織がピラミッド型だから、リーダーが少なくなるのだ。

結局、BSならシニアが頂点になってしまいうからね。それに高速度路ができたせいもあるのではないだろうか。子供が少なくなったし。加えて、スカウトもリーダーも昔ほどスカウト活動に対する気力がなくなったみたいを感じる。

A 三十年間、内容的に変化してないのに子供達の気質が変わったから、プログラムを子供達が嫌うのではないか。

B 順応性の問題もあると思う。

B ある面で、スカウト活動は社会教育の一つだと思う。

そして進級制度とか、キャンプに対する子供達の興味がうすくなったみたいだね。しかし、それを乗り越えるのがリーダーの役目ではないか。それにしても進級制度が大きく変わったね。

C 簡単になつたんではないかな。

A スカウトがついてこれられないからなのではないか。

B 最近の子供はねばりがないようだからね。

A でも、時期的に少々遅いようにも思う。あと五年早くやった方が良かった。スカウトが大人になって改革すべき事に気がついたのかもしれない。

B 火のつけ方一つでもちがう。

A 作るキャンプから利用するキャンプになった。

B そろばんから電卓に変わったのと同じようだね。

C しかし、そういう事を考えたとキャンプ技術が必要でなくなってしまう。キャンプというのは最悪の条件でもできるのが本当ではないかな。

B しかし、そこをうまく本当の目的にもどしてスカウトをひっぱるのが、リーダーの役目ではないだろうか？

D それにもう一つ。学習塾の問題を考えるべきではないかな。

A でも、学校の授業が良くないから、塾は必要だという面もあるのではないだろうか。

B 上進させる条件はリーダーにかかっているとと思う。集会をおもしろくすれば子供もついてくると思う。

結局、隊長格がしっかりしないと発展しないんじゃないかな。

C それはリーダー間のコミュニケーションの問題に返ってくるようにも思う。

㊦ GSについては？

B GSとBSのシステムがちがうからずればあると思うけれど、内容を知らないから文句は言えないですね。

E スカウト達が集会に魅力を感じなくなったみたい。

塾に行ってもGSを続けたいって思う子がいなくなったのですね。魅力ある集会を作ろうと思ってもスカウトの質が変わっていて、興味をもつ物も昔とちがうみたいに思います。

B 結局、今のスカウトが集会に来る理由によってというのが、勉強からの解放なんだね。遊びたいから来るという感じがある。

E でも、別に閉じこもってるから来てるっていうのでもないと思う。遊び下手な子供がGSより塾をとるみたいです。

ただ小さい時っていうのは、集会やゲームが楽しいから来るけど、大きくなると他の事に興味をもって、例えばクラブなんかやりたくなるから、それで、スカウトが少なくなるようですね。忙しいから集会に来ないというのは、本当なのだろうか。

E 結局、魅力がないからではないかしら。

C 自分の理想と喰い違うからではないか。

D そこまでわかっているだろうか。

B 小・中学生の場合、あまり自分の意志とは関係ないのではないかな。親に左右される時期だと思う。

A でも、中学ぐらいになると自主的に休むこともあるのでは。例えば受験とか。

B それにみんなが来ないから行かない。

E 本当はGSに入るといろいろな友達ができるのだけど、親はひっこみ思案を直そうと思って入れても、そういう子供はなかなか

か友達を作れないようです。友達ができないから、どんどん来なくなる。

D そういうことの仲裁に入るのがリーダーだと思う。

E でも、どうやっていいかわからないことが多いです。

B カブの場合なんかは、先に大人しい子供を鬼にさせたり、リーダーが鬼になった時、その子供をひきたてたり。

A でも、それはカブに限ると思う。例えば途中から入ってくる子なんかどうなのだろう。

D やる事は同じではないかな。

B とにかく、そういう感じでやれば、少しは変わると思う。

E ひとつ成功例があります。子供がホームシックにかかって、わけを聞いてみたら、いじめっ子がいるというのです。いじめっ子は本当はただからかっているつもりらしいのだけれど、それで、

GSをやめたいという所まで発展してしまい、一回目は親にひきとってもらったのですが、二回目は親が電話で話しました。

そうしたら強い子になってしまった。それでも、いじめっ子と組を一緒にしないように気を使ったのですが。

B たてのつながりを利用したりもする。班長にめんどうを見るようにアドバイスしたりして。

E やっぱりスカウト間のたてのつながりは大事ですね。

B でも昔ほど、班長に権威がなくなったようにも思います。

A 昔はとにかく無敵だった。

B でも、それを指導したのは昔のリーダーだからね。

E 昔のリーダーはもっと権威があったような気がする。

もっとリーダーとしての自覚を持つべきだと思う。自信をもって怒る時には怒る。

A それからスカウトの前ではリーダー同志でも呼びつけはしない。子供達にリーダーという事を意識させる為に名前の後にリーダーをつけるかね。

A でも、リーダーというより、お兄さんの立場でいたいような気もする。

B 古いリーダーが新しいリーダーを完全には育成しなかったようにも思う。その影響は、GSよりはBSの方に強く見られるね。高校生なんかは特に、リーダーの影響が強いね。だからこそリーダーは通す所は通すべきだと思う。

E だからこそ講習会に出て、リーダー自身もみがかれるべきではないのですか。

司 リーダーとスカウトの関係は？

E けじめがないというのは、学校にも責任があるみたいですね。

B 最近の教師は子供の心をつかもうとして、ややもすると甘やかしてしまいう傾向があるようにも思える。

D でも、スカウトとは一緒になってやりたいですね。

司 集会の内容については？

B ゲームなんかはもっとリーダーが考えてやるべきだ。

D 手抜きでやるのは恐いですよ。

B 子供でも甘やかしすぎたりするとリーダーを軽視するから、そこを考えなくては。

A その意味で、今までのカブキャンプはふざけすぎだと思う。

B それはやはりリーダーの責任だ。リーダーはもっと能力別にすべきだと思ふな。

D つまり、人の使い方が問題なんだけどね。

A 人に使われてみなければ使い方はわからない。例えば、初めての仕事をやらせるには手順を教えるべきだと思ふし。

④ 合同リーダー会について何か？

A 昔の合同リーダー会は、プログラム紹介をやったね。

B 今の合同リーダー会は、スカウトと数人だけでやることがあるね。

A 例えば、今はスカウトが中心にやってる事もあるのだから、時と場合によっては、スカウトが出て良いと思う。

④ では、移動問題については。

A 余り問題はないと思う。

C 強いてあげれば、集会場所が戸外になった時、雨の場合は困るようだ。あと、備品についても少しは問題が残ると思う。

④ では今日はどうもありがとうございました。

# 座談会 その二

三月八日 教会すみれ室にて

司会 安藤 昭良

メンバー 渡辺 博

杉田 憲彦

間宮 邦子

飯泉 和行

テーマ I、地域再開発に伴う教会の移転とスカウティング

II、教会とスカウティングのかかわり

III、スカウト、リーダーの減少

IV、リーダーの技術低下の問題

安藤（以下A） 最初にお断わりしておきたいのですが、ここで録

音したものは、私が編集して記念誌にのせるのですが、参加者の皆さんの実名をのせて差しつかえないでしょうか？

渡辺（以下W）、杉田（以下S） いいですよ。

A では始めます。まずテーマIとしては、教会の移転とスカウティングのことなのです。移転の計画の概略をまず渡辺さんに説明していただきたいと思います。

W この計画はARK-14といって、都市再開発のことなのですが、

こちら辺り帯の谷町地区がなくなって、この教会から元の小崎先生の家あたりがなくなるわけです。そこに森林公園ができて、教会はおよそその中心になり、高速道路に面したあたりに五十階や二十階のビルが建つわけです。それが騒音防止になるわけです。具体的な話ともちあがるのは今年の12月頃になる予定だと思います。

A それで教会は今どういうふうに身を振るようになってますか？  
W 教会の敷地は少々増えることになりそうです。今の公務員住宅の所は幼稚園になるといふことです。それから、教会も少しは動きそうです。その際、防災上の関係から鉄筋コンクリート製

に立てかえられるかもしれない。スカウトハウスなんかはなくなるらしいです。

A そうすると集会に直接的にはどんな影響がありますか？

W 建て替えの工事中は、ここではできないので、ビルの中の集会場を借りるとか、神社や小学校を借りて根城にするか、雨の時などは困りますね。

A するとこの辺が大変動するというのは現実なわけですね。

W ほぼ確実です。

A するとその時、私達が集会をする権利は保証されるわけですか？

W 森ビルと交渉するという形になるらしいです。

A するとこのあたりの住宅はみんな撤去することになりますね。

W それでスカウトの通って来る範囲はますます広がりますね。

だとすると、地元に着した活動はできなくなるといふことですか？

W だから、教会があつてそこに人が集まつて来るといふ形になるわけですね。スカウト活動は本来地域の中において見られるべきだけれど、今日、既に地域とは遊離してしまつています。

S だけと実際問題、谷町に住んでいるスカウトはいないし、影響はさほどないと思いますが。

W もはや地域性はないですね。だから、“四団”、“教会”、そして“チャーチスカウト”であるということを目指してスカウト達が集まつてきています。

A もうⅡのスカウトと教会とのかかわりというテーマに入つてしまふわけですが、教会といふことでやってくる子供は多いんでしようか？それに教会員の子息はカブには何人いますか？

S 余りいないと思いますが。

A うち（ボーイ）の場合も一人ですね。すると、これはあまり関係ないんでしようか。

S 大半は宗教とは関係なしで、集団生活を経験させるというのが入団の理由ですが、チャーチスカウトだといふのも多少あるのではないでしようか。まあそれでもそのような理由で来る人は年に一〜二名ですが。

A にもかかわらず、地元でない子供が集まつて来る理由とはどこにあるのでしよう。

S 地元という考えそのものも広がつていくことも事実ですね。

たとえば第一地区全般というようにね。まあ本来スカウティン

A グは地元の町会等と密着すべきなんだろうけれど。

と見ていいでしようね。現在カブの入隊申込みをする人で遠い所というところの辺から来るものでしよう？

S たとえば、世田谷区とか江東区…入隊時にはそういう人は断わつてますが。

A 繰り返すようですが、それは何故に？

S 一つには四団の歴史というのがあげられると思います。四団はいいという評判ですね。また学校を通じて評判が伝わり、友達や親の口づてに伝わる場合が多いようです。また学校だつて現在越境入学というのがとても多いそうですしね。

A 話を戻します。Ⅱの問題なんです、私達と教会との望ましい関係というのは、どういふものなんでしようか。私達は半ば儀礼的に集会の終りには“主の祈り”をするし、年に一回、クリスマス礼拝もやりますが、それで私達が“チャーチスカウト”と言えるのでしようか。

W チャーチスカウトの概念が余りはっきりしてないと思います。確かにB—Pの発想の基盤にあるのはキリスト教的な考え方だと思ふけれど。

A 教会員の一部には、スカウトはハイキングだからといって日曜

を礼拝以外のことに使うのでけしからんという方もいらっしゃるようですが。

W 毎週のことではないのだからちょっと大目に見てほしいですね。

A 一方こう言う人もいます。教会の間借り人ならそれに徹するべきだ、何も儀礼的に礼拝も祈りもしなくていいじゃないかと。

W 確かに儀礼的かもしれないけれど、やっているうちには、何かを感じとる人もいると思いますよ。それでいいんじゃないですか。

S 教会の中でも、スカウトを教会教育の一つと見なすか否かの姿勢の差があると思いますが。前者は当然、日曜にはスカウトも教会に通うべきだと考えているでしょうし、そういう人は日曜のハイキングを良くは思わないでしょう。一方後者の考えによれば、これは教会の社会奉仕である場所貸しだということもできるでしょう。ただどちらにしろ、スカウト側の意見というのは、はっきり言ってバラバラですね。団としての見解もないです。

W 元来四団の発足当時、半数以上のスカウトは教会員の子供ではありませんでした。そういうOBからすれば自分達はチャーチスカウトではないと言えるかもしれないですね。でも今、間借り人的立場にあるとしてそれに徹するのも結構ですが、それなら自分達の集会場を常にきれいにしておくぐらいの配慮は必要

ではないでしょうか。

A さて、この問題は、ここで割り切ってよいのかどうかかわからなくなってきたのですが、間宮さん何かありますか。

問宮（以下M） あまり一般論で片付けるべきではないように思います。確かにB・Pの内ではスカウトの精神とキリスト教の精神とは一つであったかもしれないけれど、私達の問題意識とは多少違うと思うのです。私達が問題にすべき事は、教会の行き方とスカウトの行き方との間に、どれだけ接点を見出せるかということですか。

W 接点ということでは言うならば、私達は、教会の人たちに私達の方々は私達が何をやっているかほとんど知らないんじゃないでしょうか。私達のアビールの仕方も悪いと思います。お互いに相手が何をやっているのかを知り合うことが必要だと思いません。話し合いも結構ですが、もっと自然な形で、例えばバスピク等の行事を通して、それを一緒にやることによって理解し合うのが一番良いと思いますね。

A それが以前から渡辺さんがおっしゃっている“運命共同体”となるわけですか。

W そうですね。一緒にいる者同士は、やはり理解し合う必要がありますね。

A 何か他にこのテーマに関してありますか？

S 私の意見を言わせてもらえば、信仰の問題というのは、結局個人に返ってくることであって、団体が対象となるべきものではないと思います。連盟の規約にもそう定められていますしね。

私は、それ故、これからも宗教とのかかわりを団として積極的に求めるべきではないように思います。ただ牧師が、スカウト個人に対して信仰のすすめをすることはいっこうにかまわないと思うけれど、それを団としてするのはおかしいし、あるべき姿ではないと思います。

A そう思いますね。団体へかぶさってくるものは大きいけれど、個人への働きかけというのは、どうもあまりなされていないようです。

S 私は、集会に牧師がきてキリスト教の話をするのはかまわないというより、もっともっと大切にしていいんじゃないかと思います。スカウトの精神は当然キリスト教の精神にも通ずるはずだし、教会にいるスカウトにとってはいいチャンスですから。

W 本当は、私達が行う活動の精神的なバックボーンが、そこから与えられるといいですね。

A 私自身は教会員でキリスト者だから、できることなら伝道したいのです。しかし、それはリーダーとしてすべき事ではないですね。

S 君自身がそう信じてやるのなら構わないでしょうし、BSだったら君がリーダーとしてではなく、個人としての立場で話して

くれていることを理解してくれると思います。ただカブとなるは無理でしょうね。カブは言ったらみんなリーダーが言ったこととして受けとるでしょうからね。でも実際はあまり感化される心配はないからいいと思いますけどね(笑)。

W 私がキリストチャンだったらすめますね。日曜の午前中、ゼミナールへ行くんだったら教会に行くほうがいいですからね(笑)。  
S 塾へ行くのだったら教会へ来て友達をつくったほうがいいと思いますよ。

W ”塾と教会“というのもこの場にふさわしいですね。

A もちろん、それも含んでいるつもりですよ。私達の隊(ボーイ)の話なんです、休隊者が非常に多いんです。中三は仕方ないとしても、中には中二の、それも秋頃から「塾に行くから休隊します」という子供がでてくるわけです。精神公害という言葉を誰が言い出したか知りませんが、確実に触まれていますね。そんな時、私達リーダーは子供達に何をしてあげられるのだろうかと思うのです。塾に行けば勉強時間は確かに多くはなりませんが、成績も上がるかもしれません。だから、それに代わる魅力のあるものをリーダーが差し出してあげられない限り、子供達は離れていってしまうでしょう。

W 今、塾を云々する前に、もうちょっと自分達のプログラムを見直して考える必要があるのではないのでしょうか。塾を口実に辞める子供だっているかもしれませんね。まさかプログラムが

面白くないからやめますとはちょっと言いにくいでしょうね。まず自分たちは自分たちで精一杯やっているという自負をもって塾を云々するならいいですけど、自分の所が充実しない時点で論ずるのはちょっとどうかと思うんですが。

A 私にとっては非常に耳の痛いところです。

W 責任転嫁論！

S 責任転嫁論と決めつけるのはかわいそうですよ（笑）。

M ただ、今はスカウト個人の問題として見てきたけれど、はっきり言って御父兄の意識というのがとても大きな要素になっていると思います。塾に行かせるのも辞めさせるのもそうでしょう。

A 昔の私のことを思い返すと、私は極めて無気力な、矢章もとれない、ろくな進級もできない、というようなダメなスカウトだったんです。今もそうかもしれないませんが、そういうスカウトであったにもかかわらずうちの母は、土曜日、私が行きたくないと言っても尻をたたいて追い出したものでした。それを今のスカウトの御父兄がやっておられるのか、というところ、これはとても疑問に思えます。

S 難しい問題ですが、入隊時の御父兄の考えというのははっきりしない場合が多いんですよ。ここの二年カブでは、入隊時には、御父兄に対して、五、六年生になって塾に通わせて集会のほうを辞めさせるのなら、今から入れないでほしいとはっきり言ってるんですけど、実際には二、三年たつと、塾ですって

休隊させる場合が多いですね。やはり、根本的なところが変わってくれないことには解決がつきませんね。

W 御父兄が子供たちをカブに入れる動機っていうのは、確かにボーイスカウトのうたってある奉仕の精神などのことだと思んですが、やっている内容といえ、ちょっと見たところ遊ばせているだけですからね。それなら塾やおけいこごとのほうがいいような気になるんじゃないでしょうか。ただ遊びの大切さから言うと、昔はどこにもガサ大将がいて、リーダーシップをとるみんなを遊ばせたわけですが、今は悲しいかな……。遊びの中にある目には見えない何か、例えば友達とか、協調精神とか、そういったものですね。それに今の御父兄がどの程度まで価値を置かれるか、が重要な点だと思います。価値観が変わってきましたからね。

S 今の子供たちにとっては、遊びというのは学校から帰ってきてから塾へ行くまでの休憩の場でしかないようですね。

W 一服のタバコだそうです。

A ウワー！（絶句）

S 集会にしたってたまたまこの時間が空いているから、日曜は塾なんだから遊んでらっしゃい、というような考え方が全くないとは言えないと思いますね。

W 私は教育の中で大切なことだと思っるのは考える時間ですね。今はベルトコンベア式で六三三四という具合にそれに乗っかって

いないと駄目なんですよね。それでカブからボーイに上がる時にも、全然落第なんかしないでし、浪人もないわけです。

S スカウトはそういう性質のものじゃないですよ。

それはそれですけれど、やはり漠然と上進する必要はないと思います。僕はもう少しカブをやりたいっていうスカウトもいるかもしれないですね。もうちょつと、間があるといいと思うんです。教えたものをすぐ形になって現われるのを求めるんなしに、待ってみる、というような余裕がほしいですね。

S

でも、スカウト教育というのはなぜ一貫性が強調されているのかというと、結果は後になって出てくるものだからでしょう。カブのうちにある程度結果が出てくるのなら、これこれほちょっと足りないから、本人の希望をいれてもう一年置いておこう、というようなこともできるけれど、カブのうちは何もでてこないんですよ。ボーイだってしかりです。シニアだけ通ってても、どうなるかわからない。カブからボーイ、シニア、ローバー、そしてリーダーを経験して大人になってはじめて今までのスカウティングというものの結果が少しずつ現われてくるんですからね。

W 私はカブの場合についてはこうしたらいいと思う。たとえば半年間は遊びの仕方をリーダーがスカウトに教えるわけです。

歌とか、ゲームとか、クラフトでも、料理の仕方でもそれはいいわけです。その後は、自分たちでプログラムをたてていくと

か、逆にリーダーを楽しませてあげるといった具合にする。そうすれば、つまり、自主性を前もって与えておけば、シニアになってうろたえることもないと思うんですがね。シニアになって初めて自由にはばたくのではなしに、カブの時代から自由にやれる状態にしてあげば…。

A

ある人から言われたことなのですが、どんなに小さな子供にも自主性というものはある。それをいかに引き出していくか、ということが重要なんだ、と。これは教会学校の教師としての自分に言われたことなのですが、スカウトにも同じことが言えるんじゃないでしょうか。

W

スカウトの中にある発想をいかに伸ばしていくか、というのが、これからのリーダーの課題ですね。

S

引き出し方と言っても、子供たちに全面的に任せてしまってもいい時期とそうでないつまり誰かが見ている、良いと思った所をこちらから引き出してやらなければならぬ時期というのがあると思えます。小学生というのは後者ですね。一つの方向を示してやらなければなりません。シニアぐらいになれば、自分で機会をつくり、自分達でやって自分でそれを発見するということが可能になるわけでしょう。だから同じ個人を育てるにしても、おのずから方法論の違いというのは出てきますね。目的は同じにしても。

W 現在、三十周年記念のプログラムの一部をスカウトだけで自発

的につくってますが、これは非常に新しい方法だと思います。

カブスカウトたちでも目を輝かせてすぐやる気になっているというのを聞きました。私は、人間が最も自発的にやれる時というのは、自分に責任を持たされて、やりたいようにできる時だと思います。それはどんな世代にも等しく、そうだと思います。だから、この方法を今の三十周年だけにとどまらず、もっと広げていけたら良いと思います。そうでないといつでも来てリーダーから与えてくれるのを待っているというようになってしまふ。ウマイものが食いたかったら、自分達で作れ、ですよ。そのためにはバトロール・システムを用いたプログラムをたてたらいいと思いますね。そうすればスカウトももっと増えると思うんですが。

A スカウトが増える、という発言が出たところで、Ⅲのスカウト数の減少の問題に入るわけですが、スカウト数の減少の理由の端には、リーダー側の創造力の欠如という問題もあるのではうね。すると同時にⅣの問題、すなわち、リーダーの技量低下の問題にも入るわけなのですが、…夢を与えてやれるだけのプログラムを私達がつくれるかどうか…。

W 夢というのは与えるのではなくて、引き出さなければ駄目だと思いますね。そうでないと与える人の夢になってしまふから。しかし、引き出すにはスカウト一人一人をよく知る必要がありますね。

ますね。

M 余談になりますが、今私二才半の女兒のめんどろを見てい

るんですが、その子とその子の四才になるお兄ちゃん、私にいろいろなことを教えてくれるわけです。ゲームとかおぼえた歌とかをね。だから、小さな子供達にも自我というものがあるのだということを知ることが大切だと思います。ただこちらの器が大きくなないと困りますが、とにかくリーダーと呼ばれる人に必要なことは、スカウトが過度に恐がったり毛嫌いしたり、憎んだりしさえしなければよくて、とにかく自分をぶつける相手になってあげれば良いと思うんです。一人じゃボール投げはできないけれど、壁があればできますね。キャッチボールまでできなくても彼らにとって彼らの潜在力をのばすには十分だと思います。そういう意味でリーダーにとって能力云々というより、それ以前の条件があると思います。テクニクではなくて姿勢の問題ですね。二才半の子供でも自主性をもつことができます。だから、リーダーは、何かがスカウトよりできるから、リーダーでありうるのではないと思うんです。人間には、できない段階<sup>々</sup>がかならず来るわけですから。ただスカウトを知ることが大変重要です。知り、意見を聞き、うけ入れる、ということができるなら、もうリーダーはつとまるのではないでしょう。単に勤勉だからリーダーになれるとも、リーダーだという自覚があるからリーダーになれるとも、それは言えな

A  
いと思います。リーダーとか先生とかいうものは、自分が自覚するよりも、スカウトや生徒が、ほんとうにそう呼ぶときに実在するものではないかと思えます。その意味でそのような指導者と学習者との関係のひな形は、今日の学校教育や家庭教育の中には見つけにくくなっていると思えます。だからスカウトのリーダーくらいは、ダメ人間の集まりであってもいいのじゃないでしょうか。

ついにリーダーダメ人間論が出たところで本格的にⅣのテーマに移りたいと思うのですが。リーダーの技量低下ということが近頃聞かれます。また私自身も、今さら言うまでもないことですが、技術のないリーダーの一人です。ただ今、開き直って考えていることは、持っていないということとはさほど恥しくないのだ。ないものはこれからどこかでおいおい習得すれば良いこととでそれよりも現在少くとも、持っているにもかかわらず、それを最大限に生かそうとしないことこそが、本当は恥しいことなのではないか、と思っています。ところで一昨年の世界ジャンプリーには四団からは一人も参加できませんでした。そして昔のことは見ると、それこそ四団からは大変多くのスカウトが派遣されていたわけですね。技術的に模範隊だったんです。そこで、今はどうか、というと、どうもそうではないらしい。しかし、現在の時点で昔に戻せば良いのかどうかというと、どうも疑いをもってしまふんですが。

S  
技能が低下するということは、リーダーがスカウトに教えられなくなる、ということもあるけれど、それ以上に、スカウトティングに可能性が与えられなくなる。さっきの「夢」というのに近いことですが、結局まきを使って飯が炊けて、テントを張って眠れば、子供達には、山の中に行ってキャンプができるんだ、という可能性が生まれてくるわけでしょう。今のスカウトに対して、テントをたててみる、飯炊いてみると言ったところで、どの程度までやれるかということですがね。私達はそれをB Sで習ったからできる。それでシニアになってからは、それをいかに一人でやるかを考える。一人でやれば何人かいる時には、全体の作業能力がはるかに上がるわけです。そしてキャンプが楽しくできる。少くとも食って眠ることに追われることはないですからね。ところが、技術を持っていないスカウトは、他人に依存しなくてはなにもできない。そうするとスカウトティングなんてつまらなくなっちゃうわけですよ。はっきり言って今、世の中を見渡せば面白いことなんかはいっぱいあるわけですから。子供達の数が減るのも、そっちのほうへ引かれるからでしょう。

W  
かつてシニアでた結論なんです、スカウトにとって大切なのは、やはり野外に出ることだと思えます。屋根の下のスカウトというのは本来のものではないですね。そして野外に出るためには、まず個人個人が、しっかりした技術を持つことが必要

です。地図が読めて、歩いて、テントが張れて、飯がつくれて、そのあとで、はじめて協調性だの、自主性だの、責任感だのを問題にすることができるとかと思えますね。食うや食わずでは、質の高い生活を望みませんか。

A  
それで、話を繰り返すようですが、先程も言ったように、かつて四団からはたくさんのジャンプリー参加者が出たし、日連においては指導的立場にあったわけですね。今、そうでなくなつたのは、どこに原因があるんでしょう。

W  
スカウトの技量不足と、参加応募の手續きに関する手違いと、それから、他の団ではジャンプリーのための特別な進級があるらしいけれど四団ではそのようなことはしませんし。そういうところにあるでしょう。ただ低下と一言に言っても、ある世代を境にして顕著に見えるわけですね。私達は豊富に技術があるとは言えないけれど、まあ野に放たれても、何とか生き延びていけるわけです。それは昔のリーダーが、確かに技量もあつたけれど、それ以上に、たくさん機会を作ってくれたんですね。たくさんキャンプをやつて、たくさんハイキングをやつて……。もし、仮に今いるリーダーが、自分達が与えられなかったから、自分達も与えなくてもよいという幻想を持っているとするならば、そんなのは即、捨てるべきだと思います。

A  
“指導的立場”について言えば、四団の方針と日連の方針がずれてきたのではないんですか？今、確かに四団は、曲がり角に

来  
来ていますね。それは誰の目にも明らかだと思います。ここ

で私達は切り盛りすることに努力するのは大切なだけども、ある方向性を見出さねば空しいとも思うんです。その方向性というのが、また昔みたいに技量をアップさせて、指導的立場に！というのはどうも受け入れがたいんです。

W  
昔と比べると、隊の数も飛躍的に多くなっているわけですから、今、君が“技量アップだ！”といつていかにバリバリやつてもそれ以上にやっている所だつてあるんだから、追いつこうなんて思わないほうがいいんじゃないでしょうか。それより、技術は標準でいいから、その上で四団の特色を出したらどうでしょうか。

S  
昔、四団が技術が高かつたというのは、よそに誇れるような努力を団としてバリバリしていたのでは決してなく、それはみな個人の努力だったのじゃないかと思えます。だから、外に見せるための技術向上というのではなく、もし昔の四団のレベルが高かつたとしたら、それは結果としてそうならにすぎないと思いますね。

A  
OBの方たちは、さっきいったような“曲り角”の状態をどれほど知っておられるのでしょうか。知らなかったとしたら、今の状態を見てどう思われるでしょうか。

W  
まあ、嘆かれるでしょうね。

S  
あまり現状をとらえているとは言えませんね。昔話になると、

やっぱり技術の高さのことが出てきますからね。そういうところから見ると、「現在は……！」てなことになるわけですよ。

A そういう幻想を今の四団に重ねられるのは、本当に重荷ですね。私なんか、あちこちで「昔の四団はよかったが、今は……」と言われるんですよ。それから私自身もOBの方やコミッション

に研修会へ出ると言われるんです。でも私自身はそんなところまで行くつもりはなかったので出なかったんで、その点を批判されたところで何とも思っていないんですがね。

W 技術軽視はいけませんよ。危険だし……。私自身は、一級まででとまったけれど、それなりの実力はあると思いますし、その辺からは、自分で作ったプログラムを自分で消化することに興味を覚えはじめたんです。もちろん、基礎はガッチリ固めないといけないけれど。

W 批判する以前に日連の方針そのものをよく知る必要がありますよ。

S 現時点では、あまり関係ないんじゃないですか。

飯泉（以下I） B—Pの書かれた「隊長の手引」を安藤君は読んできますか。とても良い本だと思えますよ。あれがボーイスカウトの原点だと思えますね。最近我々は、あれから非常に離れたところで活動していたと思います。日連云々よりも、その辺に問題があるんじゃないでしょうか。今のリーダーの中で、いわ

ゆる「スカウト四部作」を読んでいる人が、どれほどいるのだろうか。安藤君は書名をあげられますか？

A “スカウティング・フォーボーイズ” “ローバリング・トゥーサクセス” “隊長の手引” “えーと、あとは何ですか？

I 杉田君は？

S まん中の二つしか知りませんね。

I “ハウ・トゥーランナバック”ですよ。

A さて、大分、話も出つくしたようですが、何か付加えたいことはありますか？

W 子供をどうやって続かせていくかという問題ですが、自分達リーダーを刺激していかなければいけないと思います。そして刺激していくためには、外に出て、他の隊と接触することが必要ですね。一六四団でも、二二五団でもいい。いい人がいるし、いいアドバイスをくれるかもしれませんよ。出ていくと恥をかくこともあるかもしれませんが、反対に誇れることもあると思います。例えば私事ですが、シニアの雪中キャンプなんか誇れるもの一つですね。自分の隊に閉じこもっていると、陰うつになってダメなところばかり目に入って絶望してしまうわけです。生きのびる方向を考えなければいけないですね。

I 四団は独自性があって、その面ではいいセンスがあると思うけれど、非常に見方がせまい気がしますね。独自性がこうじて閉鎖的になってしまうようなところがあります。

他団との接触もそうだけれど、講習会や、円卓に出ることも、やはり必要だと思えますよ。何故かというのと、自分達のやり方を持つてるのは良いのですが、他のやり方もあるわけですからね。自分の方法が他からどう批判されるか、そしてそれにどう答えられるか、というのはリーダーにとって非常に勉強になりますよ。その点が今のリーダーには欠けているのじゃないでしょうか。

W 他団との接触はプログラムの面でのゆき詰まりも打開できます。たとえば五団ですが、あそこでは、本物のおすもうさん呼んできて、子供にぶつからせるんだそうですよ。子供はとても新鮮な感激を覚えると思えますね。そういう点では他団を見ることはよいと思えますよ。

I 本本スカウトというのは、横のつながりのために、あとから連盟などの組織が出来たので、プログラムの自然独自性があってよいわけです。ただ一つまちがえて閉鎖的になると、デメリットが大きいし、恐いですね。

A 他に何か付け加えることはありませんか？

W この三十周年のことですが、今の四団の状態は、三十周年のために結束しているという面がありますが、本当は逆であって、普段の結束の結果として、三十周年が生まれるべきだと思うのです。でも今さらこれを言っても始まらないし、一度結束したなら、その結束をずっと維持してほしいと思えます。でない

と、これだけの時間と財力と労力を費した価値がないですからね。

A これから、どう進んでいくかが、本当は大きな問題なんですね。それでは、もう意見も出つくしたようなので、そろそろ終りにさせていただきますと思います。今日は御多忙のところ、ありがとうございました。

終

(文責 安藤)

## 《明日への提言》

BS・GS・「三十周年」総務から

BSより

三十周年記念式典の目的

この五年間の歩みの中で最大の問題は、それ以前の二十数年の歩みの中でも難題であったに違いないと私は思います。その難題とは、この一つの教育課程をいかに間断なく、最良の形で永続させ、

明日の世代に継げるかということであり、私は三十周年運営委員会総務に就いた時から、この記念式典の一つの目的として、「つなぐ」ということを常に意識し、今回の式典が「つなぐ」という目的のためのヒンジにするには、いかに運営すべきかを考えて来ました。つまり、現在というミクロ的視野の中で考えますと、四月二十九、三十日の記念式典、記念祝会をいかに最良にするかであり、今後数十年というマクロ的視野でこの目的を計れば、四月二十九日は単に一つの礎でしかないと思うのです。したがって「つなぐ」という永遠不変の目的のためには、「つなぐ人」がいつも同義語が必要であります。「つなぐ人」とはリーダーであります。良きリーダー、良き伝統への継承者、相談相手、リーダーだけではもちろんありませんが、大きな原動力の一つには違いありません。懐かしき良き時代、楽しかった少年時代、その思い出を、その夢を、昔に振り返って語るだけではなく、これからの少年に語っていただ

けないでしょうか。現在、一番新しく、新鮮で、夢多きことは、きっとOBの方々の過した少年時代に抱いた夢、希望だと思えます。この一見素晴らしいが、具体的にはと言われると大変困ってしまう言葉、だけど「明日につなぐ」を考えれば一番大切な言葉、きっと今の少年達にも分かってもらえると思います。

(渡辺 記)

GSより

祝・三十周年

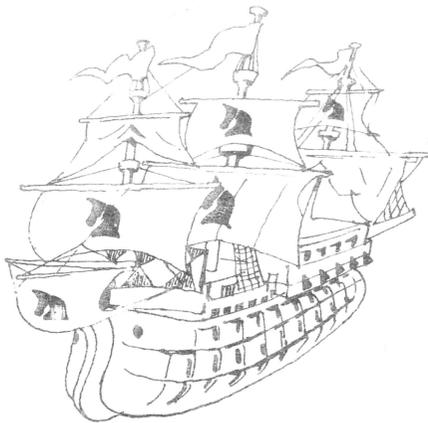
靈南坂教会にガールスカウトが集まるようになって早30年。そして登録し東京第四団という団名がついたのは、その翌年昭和23年6月の事だったと記録されています。数年前に制服を始め部門の名称や年令の枠が変わり、時代の流れに添った新プログラムが勧められて以来ここ2、3年、私達4団もスカウトから育ったリーダーが中心の新しい活動に変化してきました。また先に生まれたボーイスカウトとは常に陰の力としてお互いを励まし、ある時は刺激を与え競争心を起こさせる良き相手として共に育ってきたと言えます。けれど近年の私達はスカウト、リーダーなどの人材と集会場が苦勞なく手にはいることへの感謝や、それが築き上げられた30年の成果によるものであるということを忘れがちになっているようです。これは物に恵まれすぎ周囲への感謝を忘れ、自己中心的になる私達の時代

の欠点かもしれません。けれど『おきて』『やくそく』をその世代の弱点に合わせて応用し、社会の一員として、スカウティングに触れた者として恥かしくないような、そしてB.P.の言う、時代に左右されることのない真の人間形成を目標に今後もガールスカウト東京第4団の活動を続けていきたいと思えます。

(池田 記)

付記 編集委員より

果たして、この程度の企画で、現状における問題点と今後への課題を深く掘り下げられたかというのは、非常に疑わしいと思います。ただ二つの座談会と二つの提言が何を示し、何を言わんとしているのかを、読者のあなた自身がじっくりと考えて下さることを切に望んでおります。「二つ」ということは、しばしば対立を意味します。しかし、単純に「対立」と、とらえていただくことは決して私達の本意ではありません。双方(四つ)に、現在の四団の姿が端的に現われていると言えるのではないのでしょうか。そして改めて言うならば、これだけが決して四団の全体像ではないのです。何やら頭の痛くなるようなことですが、決して避けて通れる道ではない、むしろ危ういのです。従って、これらはあくまでヒントに過ぎません。そしてヒントから解決を生み出すのは――そりです、他ならぬあなたがた、四団にかかわる人一人一人なのです。



付 録

BS・GS 東京第四団 1972～76年表(抄)

年月日	こ と が ら	CS	BS	SS	RS	Br	GS (A)	GS (B)	上級
1972. 4	BS団委員長に小崎忠雄氏 就任	○	○	○	○				
5	ガールスカウト日本連盟総会に於て7名表彰をうける 20年 白井 15年 根本 西郷 永橋 10年 今田 矢沢 中村(秀美)					○	○	○	○
7	舎営 中強羅 キャンプ 榛名湖 // 戸 隠 // 日 光					○	○	○	○
7.21～24	舎営 秩父ユース キャンプ 那須 移動キャンプ 能登半島一周	○	○	○					
9	合同キャンプファイヤー	○	○	○	○	○	○	○	○
11. 5	ボーイスカウト日本連盟 創立五十周年 記念式典	○	○	○	○				
1973. 3	ガールスカウト日本連盟より、組織改革の 通達をうける ブラウニー、ジュニア、シニア、レンジャ ー、アダルトの五部門を総括に1団の扱い となる。(GS・A→ジュニア、B→シニ ア、上級→レンジャー、以上アダルト)					○	○	○	○
3.25～29	雪中キャンプ 妙高、池の平			○					○
3.29～31	スケート大会 上級主催 代々木スケートセンター	○	○	○	○	○	○	○	○
4. 3	新制度発足、団委員会、連絡会議月一回 を決定					○	○	○	○
5. 1	白井愛姉を顧問と決定					○	○	○	○
6	小崎牧師召天 葬儀奉仕(○B・○G参加)			○	○				○
7	キャンプ 甲府ユースホテル // 小林牧場 // 中禅寺湖 // 軽井沢					○	○	○	○
8. 3～ 7	キャンプ 日光阿世瀉	○							
8.16～21	移動キャンプ 木曾路		○						
9. 1	合同キャンプファイヤー	○	○	○	○	○	○	○	○
1974. 1.14～15	リーダー、団委員一泊研修会 オリンピック総合センター	○	○	○	○	○	○	○	○
3	育成費統一					○	○	○	○

1974. 3.24~29	雪中キャンプ 妙高・池の平				○								
4. 29	合同バスピクニック 服部牧場	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6.22~23	1泊ハイキング 千葉県外房												○
7	キャンプ 山梨県忍野							○					
	// 山中湖ボーイスカウト野宿場								○				
	// 塩原県営キャンプ場									○			
	// 野辺山公園国鉄キャンプ村											○	
7.30~8.2	キャンプ 忍野高原	○											
7.21~24	キャンプ 小林牧場			○									
8. 1~ 8	日本ジャンボリー 8名参加			○	○								
8. 3~ 7	聖路加病院 奉仕											○	
8.13~16	移動キャンプ 奥武蔵					○							
9. 14	合同キャンプファイヤー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9. 21	リーダー、団委員研修会 チャーチスカウトのあり方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9.21~22	ナイトハイク												○
10. 13	教育部主催「教会教育を考える」会に参加	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11. 23	ブラウニー発足20周年祝会							○					
11. 30	年長隊十五周年式典パーティー					○							
12. 21	カブ二十周年	○	○	○	○								
12. 28	スケート大会 レンジャー主催	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1975. 3.22~23	舎営 代々木ユースホテル	○											
3.22~26	雪中キャンプ					○							
3. 30	堂守の高橋さん急逝												
4. 3~ 5	舎営 高尾ユースホテル					○							
4. 29	合同バスピクニック	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	キャンプ 良山荘ユースホテル								○				
	// 清宏園									○			
	// 五光牧場										○		
	移動キャンプ 糸井川~黒部ダム												○
7.29~8.1	キャンプ 丹波山	○											
8. 4~ 8	キャンプ 塩原					○							
7.31~8.15	ワールドベンチャー・キャンプ 安西君派遣							○					
8. 19	白浜にて遠泳								○				

1975. 9. 6	合同キャンプファイヤー	○	○	○	○	○	○	○	○
10. 15	教育部主催協議会に参加	○	○	○	○	○	○	○	○
12. 26	スケート大会 レンジャー主催	○	○	○		○	○	○	○
12.24~30	沖縄旅行				○				
1976. 2. 21	国際友好のつどい					○	○	○	○
3. 6~ 7	舎営 鎌北湖	○							
3.20~25	雪中キャンプ 妙高、池の平			○					
3.26~29	舎営 大島		○						
4. 29	合同バスピクニック 芦久保果樹公園村	○	○	○	○	○	○	○	○
5. 22	第一回合同父母会					○	○	○	○
7	キャンプ 中軽井沢 " 小林牧場 " 西那須ボーイスカウト野営場					○	○	○	○
8. 9~12	キャンプ 道志川	○							
8. 2~ 7	キャンプ 八ッ岳 移動キャンプ 三陸方面		○	○					
9. 4	合同キャンプファイヤー	○	○	○	○	○	○	○	○
11. 6	次年度入団者申込受付					○			
11. 20	申込者選考にて16名決定					○			
11. 13	リーダー研修会	○	○	○	○	○	○	○	○
1977. 1. 29	30周年準備委員会	○	○	○	○	○	○	○	○

(注) 1971年以前は25周年記における年表を参照されたい。

## 編集後記

リーダーになって初めての年のうちに、三十周年の記念誌編集委員という、手にあまる仕事をおおせつかり、あせりと不安を感じながら記念誌作成をしてみました。先輩諸氏には、いろいろ目につく点もありだとは思いますが、その点は許していただきたく思います。さて、編集という仕事をやらせていただきまして、感じた事は、やはり交渉のむずかしさでしょうか。皆様がいそがしいという事を十分承知していながら、心を鬼にして原稿を集めるという事は、人情的には大変つらいことでした。でも原稿が送られてきた時の喜びというものは、本当にすばらしいもので、感謝の気持ちが胸いっぱいひろがるのを感じました。ただ、今思える事は、一つの仕事をやりおえたという満足感だけです。御協力下さいました、先輩、団委員、リーダーの方々への感謝の言葉で記を終らせていただきます。どうもありがとうございました。

(鈴木 記)

「歴史とは現在と過去との対話である。」(E・H・カー)この言葉は、記念誌の編集を受け負った時、編集後記に使ってやろうと温めてきたものだ。しかし、それがすでに十五年誌の編集後記に遠山さんが引用されていることを知って本当に驚いた。それでもなお、今一度、私はこの言葉を引用する。なぜなら、真実、歴史を知る事

は、揺れ動く地盤に立つ者にとって、最も重要な「知恵」となるはずだから。

今こそ「四団の歴史」に内在している何かを見きわめることが必要な時なのだ。現在、はつきり言って四団は、かつて体験したことのない転回点に立たされていると言える。明確な視野を持つ者には必ず理解できるはずだ。私達は来るべき未来を恐れるわけにはいかない。道は我々一人一人が切り開かなければならない、ということだ。この転回点において過去の栄光にのみ目を向け、それに固執して安定を求めるならば、そこには滅びがあるだけだ。このような観点から、私はこの記念誌が単なるメモリアルとして残ることを恐れ、そのような要素を極力排除しようとした。しかし、結果はかくのごとくである。御批判は甘んじて受けよう。だが、少なくとも今、四団がどういう問題をかかえているのか、どうすれば良いのかを共に考えていただきたい。この記念誌がそのきっかけになれば、編集者として、これにまさる幸いはない。

そしてもう一言。私は、やはり最後には神様に望みをつなぎたいのだ。今、四団は確かに病気にかかっているのかも知れぬ。しかし、その内にも、神様に生かされている部分があることを感じ、このことを感謝せずにはいられない。

(安藤 記)

# 独特のパイルが

# ゴミ、ホコリ、静電気を一掃。

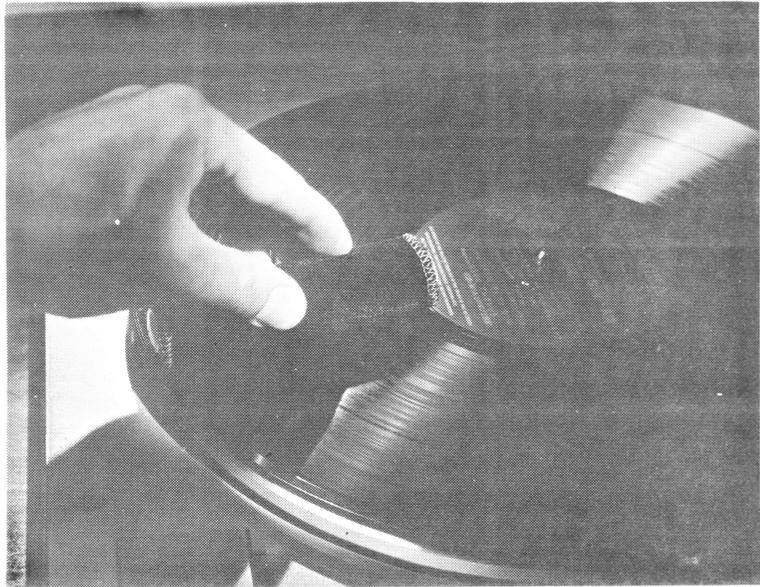


THE "PAROSTATIK"

ディスクプリーナー

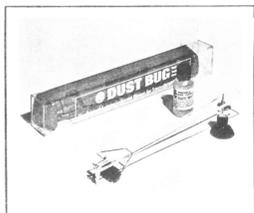
¥1,300

レコードの音溝に入りこんでなかなか取りにくいゴミ・ホコリも、驚くほどよく取れます。ディスクプリーナー活躍のヒミツ、それはパイルにあります。内装のスポンジ芯に水を含ませ、パイル表面に適度の湿り気を保たせることにより、静電気と微細なゴミ・ホコリを音溝内からきれいに吸い上げてしまうのです。最後にクルッと回転させると、レコード盤上に取り残すこともありません。そのうえ、パイルには独自の特殊静電防止加工を施してありますので、理想的なレコードの保守ができます。



## レコードを清潔に！英国WATTS社のクリーナー。

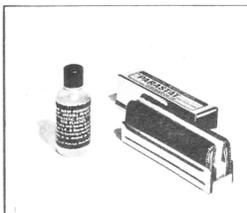
レコード演奏をしながら、集塵と静電防止。



THE ORIGINAL "DUST BUG"  
ダストバグ  
¥1,900

針先のトレーシングに先行し、まずナイロンブラシで音溝内や盤面に落ちてくるホコリ・ゴミを浮かせ、そしてブラッシュパッドがこれを拾い上げます。静電防止液をブラッシュパッドにつけて、静電気も防ぎます。

パッドとブラシにより、レコードに活力を。



THE "PARASTAT" MK11A  
パラスタット  
¥4,950

スポンジパッドへ静電防止液を3~4滴たらし、パラスタットのブラシ及びパッドへ転写して使用します。0.25ミリ以下のナイロン毛先が音溝に付いたホコリ・ゴミなどを掘り起こし、両側のパッドが吸いとります。

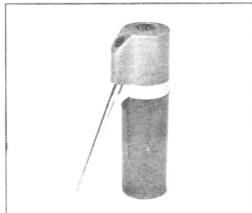
新しいレコードや軽針圧でお聴きのレコードに。



THE "HI-FI PARASTAT" MK4  
HI-FIパラスタット  
¥4,700

新しいレコード及び軽針圧カートリッジ使用のレコード用に、特に作られたクリーナーです。十分に弾性を保ち、そしてことごとく円頭加工された約30,000本の非常に細いナイロン毛先が、音溝に密着し、微細な不純物を取り除きます。

イオンの力で静電気を一掃。



XSTATIC  
エクスタティック  
¥8,800

レバーをゆっくり引くと⊕のイオンが、またゆっくり離すと⊖のイオンが飛び出し、レコード盤上にホコリを吸い寄せている静電気を中和してしまいます。⊕⊖両方のイオンが発生しますので、静電気の極性を問いません。

日本総代理店



今井商事株式会社

〒162 東京都新宿区市谷富久町6番(357)0401

※詳しいカタログを用意しております。  
機種名、本誌名をご記入のうえ、  
50円切手を同封してご請求ください。

**祝 30 周年**

カーテン・敷物・家具一式

一階から七階まで陳列してございます

株式会社

**稲川良一商店**

〒106 東京都港区麻布十番 2-20-3  
(麻布一ノ橋バス停前)  
電話 03-456-0751番(代表)

**新刊書籍・雑誌・地図**

六本木交叉店角

**誠志堂書店**

電話 404-8551番(代表)

祝 30 周年

山陽国策パルプ株式会社特約店

# 国永紙業株式会社

取締役社長 御 給 衛

本社 〒136 東京都江東区大島 1-1-35  
電話 03-685-5461 (代表)

祝 30 周年

模型航空機・船舶  
エンジン用電池製作

# 松下電池株式会社

取締役社長 松 下 彪

〒108 東京都港区三田 1-5-16  
電話 03-451-0238

# 祝 30周年

御婚礼から御佛事まで

世界に お花が贈れます  
全国に



# 三 八 花 田

登録商標

ランド 6階建  
スタジオ 4階建



東京生花株式会社  
創業58年 川原常太郎

〒108 東京都港区三田 2-17-18

☎ (451)8000・7000・1232  
ヨ イ ハ ナ

だれでも楽々の  
マイクロ複写機  
**マイクル 1200**

B4判までどんな書類  
でもマイクロ化します。

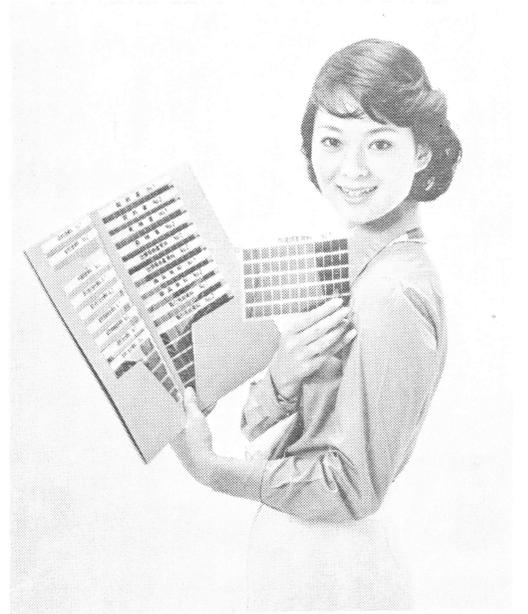
操作は簡単、ボタンを  
押すだけ。

1/25という小さなサイ  
ズに縮小します。

コンセントさえあれば  
どこでも置けます。



これ1冊で1200ページ!!



もとの書類に比べて1/50~1/100に小さ  
くファイルできます。



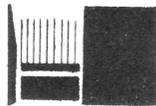
株式  
会社

**オカモトヤ**

本 社 東京都港区芝西久保桜川町10  
電 話 03(591)2231・41・51(各代表)

事務機器総合商社

祝 30 周 年



ファイル  
タイプライター  
カード  
バインダー  
レターセット  
ファンシープレゼント

株式  
会社

**くさかべ**

港区南青山7-11-5 TEL. 400-0331

祝 30 周年

おしゃれの店 ミカ

天野 妙子

港区南青山 2-1-18 (401) 5570 (青山一丁目角)

祝 30 周年

建設資材販売

株式会社

オカダ

代表取締役

岡田 英男

(三田ライオンズクラブ)  
元会長

本社 〒108 東京都港区白金 3-13-13

電話 03-444-0711~5

吉野 鮎

03-543-4444~6

遠藤 昇

歌舞伎座前

トリミング

あなたのワンちゃんを

きれいにしてみませんか？

トリマー・遠藤 節子

03-543-4444~6

祝 30 周年

古美術

温 故 堂

東京都港区芝西久保巴町20

電話 03 (431) 0011

永山 幸太郎

# 祝 30周年東京第四団

## 友だちとあっていますか。



### 和気あいあい。

# QIQI

丸井クレジット

# 小さな傷なら サビオです。

お母さん、  
応急手当をご存知ですか。

## 1. すり傷

ぬるま湯か消毒液で傷口の汚れをよくふきとりましょう。そして傷の大きさに合わせてばんそう膏をはってください。

## 2. 動物にかまれた傷

伝染病の危険もありますので、まずお医者さんにみてもらいましょう。大切なことは、かみ傷を切ったり、毒を吸いとったりしないこと、そして包帯をまいて、傷口を圧迫するようなことはさけた方がいいようです。

## 3. やけど

軽いやけどの応急処置としては、まず傷口を冷たい水で少しの間冷やし続け、湿布することです。バターや油をつけると傷口が密封され、かえって回復を遅らせます。

## 4. 切り傷

傷口をきれいにし、清潔なガーゼやハンカチで出血を止めましょう。ばんそう膏をあわせてからはってください。

## 5. 打ち身

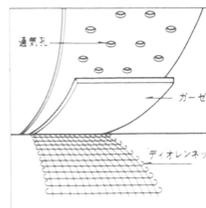
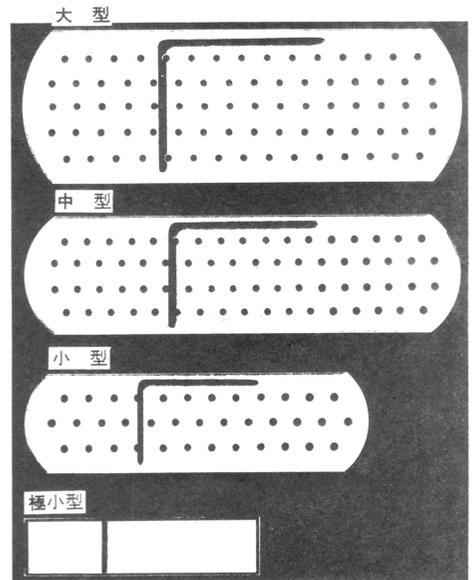
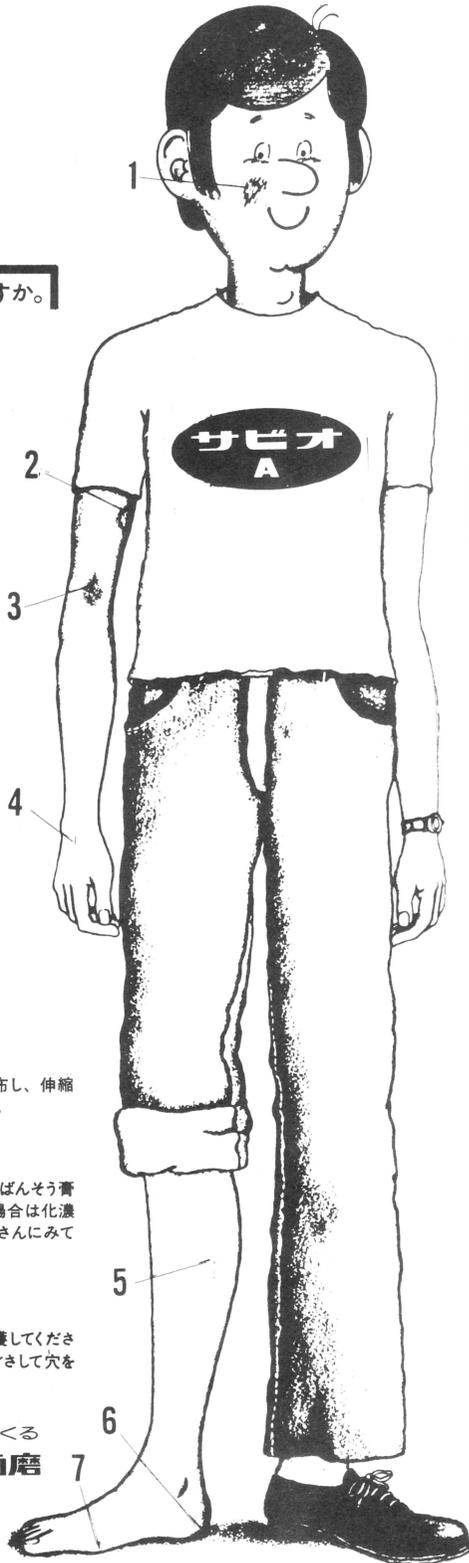
傷口を清潔なハンカチなどで湿布し、伸縮性のある包帯でしばってください。

## 6. はれもの

浅いものはとげを抜いて消毒し、ばんそう膏をはります。深いとげがさった場合は化膿することもありますので、お医者さんにみてもらう必要があります。

## 7. とげの傷

大きめのばんそう膏で傷口を保護してください。水ぶくれ部分は無理に針でさして穴をあけようとししないでください。



- サビオはキズに合わせて、豊富な品揃えです。
- サビオはディオレンネットがガーゼとキズロの直接接触を防ぎ、はがす時もソフトです。
- 極小型にはディオレンネットがついていません。
- サビオは水仕事をしてもはがれにくく安心です。

鼻のマークはサビオのしるし



美しい明日をつくる  
ライオン歯磨

祝 30 周年

写植・タイプオフ

セット・タイプ印刷



有限会社

三響社

金森勝芳

東京都千代田区神田小川町3丁目7番地  
TEL (293) 0841~2 郵便番号101

# 祝 30 周年

ハッピーウォーカーは、自然の足を大切に、  
クツの中に丸みや盛り上りがあって足にぴったり  
丈夫で軽いので歩いても疲れを感じません。  
まるで革のクツ下のように足をやさしく包まれた  
ようなはき心地です。

「暮しの手帖」47号(52年3～4月号)のテストで  
優れた特性が認められました。

(フィックスルーパー)を

**Happy Walkers**  
ハッピーウォーカー

と改めます



51年度クツで初めて  
Gマーク(グッドデザイン)に  
選定されました。  
(写真の品No.5605キヤメル)

有名靴店・百貨店でお求めください

紳士靴 23 $\frac{1}{2}$ ～26 $\frac{1}{2}$  ￥9,500～9,800

婦人靴 22 ～24 $\frac{1}{2}$  ￥8,500～9,500



大塚製靴株式会社

東京都港区新橋 4-23-4 (〒105)  
TEL 03(431)5191(代表)

# 祝 30 周 年

当社は、大正2年創業以来、一貫して石鹼、洗剤、日用雑貨、化粧品等の総合卸売業として発展を続けてまいりました。

近年とみに高まりつゝある流通革命の波にも営業部門の発展と併せて電算機部門の設立、京王運輸との提携による輸送の合理化等規模の拡大と呼応し質的充実を遂げつゝあります。

創造し、ダイナミックに流通新時代の旗手としての使命感に燃え、ヤナギホームズは進んでまいります。



## カナギホームズ株式会社

東京本社 〒103 東京都中央区日本橋小網町3-9  
 ☎ 03-(666) 2 1 3 1 (代)  
 市販部 ☎ 03-(669) 2 9 1 4 (代)  
 中央営業所 (夜間専用)  
 武蔵野営業所 〒180 武蔵野市緑町2-1-5  
 ☎ 0422-(54) 0 8 4 1 (代)  
 茨城営業所 〒300 茨城県土浦市下高津町367  
 ☎ 0298-(21) 5 5 5 5 (代)  
 埼玉営業所 〒367 埼玉県本庄市本庄3-4-28  
 ☎ 0495-(22) 2 3 7 2 (代)

液墨の元祖 一世紀の技術の結晶です

# 開明墨汁

上級者やおとなの書道に  
最も本格的な液体墨です

# 墨の華

専門家が愛用する  
液体墨の精華です

# 開明書液

小中学生の書写に  
筆運びが軽くできています



開明製品本社

## カイメイ株式会社

東京 東京都港区高輪 2-18-4 ☎ 108 TEL (445) 1861(代)  
 大阪 大阪市大淀区中津 1-15-17 ☎ 531 TEL (371) 4119・5801

30周年おめでとう!!

# (株) 宮崎製本

北区田端新町 1-10-14

TEL (894)4198

代表取締役 **関口 敦夫**

自宅 (583)1765



おもちゃ・人形

**モモ夕ロー**

TEL (395)1779

杉並区下井草 2-44-4

小林 隆



千客万来

明日の希望が語れる窓口

**同栄信用金庫**

理事長 笠原慶太郎

東京都港区三田 5-21-5 TEL. 東京(444)1111(大代)

ボーイスカウト東京第四団  
ガールスカウト

創立三十周年 記念誌

発行日 昭和五十二年四月二十九日

発行者 ボーイスカウト東京第四団  
ガールスカウト

〒107 東京都港区赤坂一丁目十三番六号  
日本基督教団霊南坂教会内  
TEL 五八六一三八五五

編集者 安藤昭良 山戸菜穂  
鈴木君子

印刷所 株式会社 三響社  
製本所 株式会社 宮崎製本